

# 周産期医療と救急医療の確保と連携に関する懇談会

## 第4回

日時：平成20年12月8日（月）18:00～20:00

場所：厚生労働省17階 専用18～20会議室

## 議事次第

### 議題

1. 今後の対策について議論（中長期的対策について）
2. その他

### 【配付資料】

資料1：第3回議事要旨（案）

資料2：今後の対策について（骨子案）

資料3：病院聞き取り調査結果

資料4：周産期医療ネットワークに関する実態調査結果

資料5：大学病院の周産期医療体制整備計画

参考資料：第3回東京都周産期医療協議会資料（平成20年11月28日開催）

### ○参考人からの提出資料

有馬正高 東京都立東部療育センター 院長

### ○各委員からの提出資料

（池田委員、海野委員、田村委員、藤村委員、岡本参考人）

# 周産期医療と救急医療の確保と連携に関する懇談会

## 開催要綱

### 1. 趣旨

現在、周産期の救急医療体制の充実が全国的に非常に重要になっていることから、妊産婦が安心して子供を産み・育てることができるよう、早急に対策を講ずる必要がある。このため、周産期の救急医療体制の強化が図られるよう、周産期医療と救急医療の確保と連携の在り方について検討する。

### 2. 検討事項

- (1) 周産期医療と救急医療の確保の在り方
- (2) 周産期医療と救急医療の連携の基本的枠組み
- (3) その他

### 3. 構成員

厚生労働大臣及び構成員（別紙）で構成する。

### 4. 運営

- (1) 本会議の庶務は、厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課と協力しつつ、同省医政局指導課で行う。
- (2) 議事は公開とする。
- (3) 本懇談会の構成員については、厚生労働大臣が委嘱する。

### 5. 検討スケジュール

12月中を目途に取りまとめ予定。

## 第3回 周産期医療と救急医療の確保と連携に関する懇談会 議事要旨（案）

●日時 11月25日（火） 18:00～20:10

●場所 厚生労働省5階 共用第7会議室

●出席者

岡井座長、杉本座長代理、阿真委員、有賀委員、池田委員、海野委員、大野委員、川上委員、木下委員、嘉山委員、田村委員、藤村委員、横田委員、岡本参考人、照井参考人（厚生労働省） 舩添大臣、渡辺副大臣、戸井田政務官、外口医政局長、村木雇用均等児童家庭局長（ほか

関係省庁） 総務省消防庁、文部科学省、経済産業省

●議事要旨

周産期医療と救急医療の確保と連携に関して、産科麻酔科医の現状と課題についてヒアリングを行った。また、今後の対策について、NICUや患者の視点について意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

麻酔医の確保について

- ハイリスク妊婦が増加しており、ハイリスク妊婦の麻酔ができる麻酔医の重要性が増している。産科救急患者を受け入れ体制を整備する上で、麻酔医の配置は重要である。
- 麻酔医のいる医療機関の方が、産科医が集まりやすいという実態がある。
- 麻酔医の配置を周産期母子医療センターの必須要件にしてしまうと、地域によっては周産期母子医療センターが維持できなくなる可能性があるため、現状では必須要件にしない方がよい。麻酔医の配置の有無が地域の医療機関からわかるようにすべきである。
- 麻酔医の確保のために、産科医と同様、処遇を改善する必要がある。

#### 患者の視点からの対策について

- 周産期医療体制の立て直しのためには、両親、特に母親への啓発が重要である。日本における妊産婦死亡率は諸外国と比べて低く優れた成績をあげているが、死亡率は0ではなく、お産は100%安全というわけではないことを理解している母親は少ない。ハイリスク妊娠を減少させるには、お産は100%安全ではないという教育や、禁煙等のお産のリスクを軽減するための生活指導を徹底することが重要であり、母親学級などを活用すべきである。
- 日本では、大病院ではなく地域のかかりつけ産科医療機関を希望する妊婦も多いので、周産期母子医療センターと地域のかかりつけ産科医療機関との連携体制の構築がより重要である。
- 母親側が医師等から提供してほしい情報としては、子供の病気の内容や、緊急時の対処法があり、母親側が不安にならないためには、できるだけ詳しい説明を行うことが大切と思われる。
- 啓発については、学校教育の段階から見直すことも必要ではないか。

#### 新生児医療（NICU、新生児科医）の確保について

- 救急患者の受入判断基準を作ることに賛同するが、新生児科医不足を改善しないまま、総合周産期母子医療センターで必ず受け入れるというルールにするのでは問題がある。新生児科医の確保も必要である。
- 医療訴訟等の影響により、通常の帝王切開が周産期母子医療センターに集中する傾向があり、周産期母子医療センターの病床が、重症ではない患者で満床になり受入を困難にしている。
- 1000g未満の超低出生体重児の増加、医療技術の進歩による予後の改善、人工呼吸が必要な症例の増加等により、長期の入院を要する新生児が数倍に増加しているため、NICUの必要病床数の基準を、2床/1000出生から約3床/1000出生に修正する必要がある。
- NICUの病床を増床するにあたっては、医師、看護師の確保対策も併せて行うことが必要である。また、障害児施設を含む後方病床の確保と円滑な転院ができるような体制整備が必要である。

- 現在のNICUの基準では、NICUに専従の新生児科医を配置することとなっているが、リスクの比較的低い新生児を受け持つ病院では、病院に小児科医がいれば、NICUに関する診療報酬上の加算の半分程度の診療報酬がつくような措置をお願いしたい。
- 新生児科の専任医師がひとりで対応している施設も存在するが、新生児科医が少数の施設では勤務環境の改善は困難となっている。勤務環境改善のためには1施設に7名程度の新生児科医を配置できるよう、集約化が必要である。

#### 空床確保と地域での連携体制について

- 周産期医療体制については、地域によっては県境を越えた受入体制を検討する必要がある。
- 採算性の問題から正常分娩の妊婦を受け入れることで満床になっているという実態もある。救急患者を受け入れるためには空床の確保が重要であり、そのためには、空床補償の仕組みが必要である。
- ハイリスク分娩は周産期母子医療センターが、正常分娩は地域の産科医療機関が、それぞれ受け入れるよう機能分担を進めるべきである。周産期母子医療センターは、正常分娩の受け入れを制限して、救急患者を受け入れるための空床を確保すべき。
- 周産期母子医療センターにおける産科医の当直体制の充実が必要であるが、地域の産科医を活用するなど、地域の実情に応じた体制の整備が必要である。

## 短期目標として実現可能な対策について（骨子案）

## 1. 患者の病態と受入施設のマッチング

## ① 病態の分類（必要な対応・処置と緊急度）

- ・病態に応じた受入判断基準について実態を踏まえて検討
- ・患者の病態や医療機関の体制を踏まえ、医療機関ごとに救急患者の受入判断基準や他科との連携体制を構築

## ② 施設の機能による分類

- ・施設の診療機能を明示し関係者間で共有
- ・施設の診療機能に応じた受入判断基準や地域における役割分担の明確化
- ・救急患者受入のための空床確保とその補償の充実

## ③ 地域のネットワークの促進

- ・関係者間で顔が見える体制の整備を進めるため、地域の医師等を対象に、情報交換や事例検証のための場を設置
- ・必要に応じ、県境を越えた医療機関間のネットワークを構築

## 2. 情報の伝達及び効果的活用

## ① 救急医療機関の状況（病床数、人員）の伝達とその迅速化

- ・地域の実情に応じ、既存ネットワークの活用も含め、より良いシステムを検討
- ・医療機関の状況に応じた受入判断基準の策定

## ② 情報の統合、センター化

- ・地域の実情を踏まえつつ、救急医療情報システムと周産期救急情報システムとを統合・連携強化
- ・周産期救急情報システムは、かかりつけ産科医療機関と受入医療機関とが情報を共有できるシステムであることが望ましい

- ・地域によっては、県境を越えて共有できる情報システムも必要

### ③ 搬送先選定の迅速化（コーディネータの配置）

- ・ コーディネータを地域ごとに設置
- ・ コーディネータは必ずしも医師でなくともよいが、質の確保のため、地域医療に従事していた経験等の要件を設定

### ④ 患者側との情報交換

- ・ 母親に対する教育・指導の充実、助産師や保健師の活用
- ・ 緊急時の対処方法等について家族への啓発活動への支援
- ・ 積極的な情報提供の実施

## 3. 施設の機能充実と人員不足への対応

### ① 病床数の適正化（特に NICU の増床）

- ・ 未熟児の増加にも対応できるよう NICU 病床を確保
- ・ NICU に配置する医師、看護師の確保

### ② 勤務環境の改善

- ・ 産科医、新生児科医、麻酔科医の確保と勤務環境の改善が必要
- ・ 地域の開業医の活用と連携体制の構築
- ・ 重点化、集約化による体制の強化

### ③ コメディカル、メディカルクラークの活用

- ・ リスクの軽減に資する母親に対する教育・指導の充実
- ・ コーディネータとしての参画と必要な研修体制等の整備
- ・ 情報システムの入力や事務支援のための研修と積極的参画

## 4. その他

平成20年12月8日

厚生労働省医政局指導課  
 厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課  
 総務省消防庁救急企画室  
 東京都福祉保健局

母体搬送に係る事案において  
 搬送を受け入れられなかった病院からの聞き取り調査結果について  
 —理由、原因・背景、その他医療現場からの意見等—

## I 調査の概要

## 1 調査対象

区東部ブロック及び多摩ブロックにおける妊婦搬送事案(※1、※2)について、搬送依頼を受け入れられなかったとされた下記の医療機関

種別	医療機関名
総合周産期母子医療センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京都立墨東病院</li> <li>・ 日本赤十字社医療センター</li> <li>・ 日本大学医学部附属板橋病院</li> <li>・ 杏林大学医学部附属病院</li> <li>・ 東京女子医科大学病院</li> <li>・ 愛育病院</li> </ul>
地域周産期母子医療センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 慶應義塾大学病院</li> <li>・ 順天堂大学医学部附属順天堂医院</li> <li>・ 東京慈恵会医科大学附属病院（本院）</li> <li>・ 日本赤十字社東京支部武蔵野赤十字病院</li> <li>・ 東京医科大学病院</li> </ul>
周産期医療情報ネットワーク参画医療機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京大学医学部附属病院</li> </ul>
その他の医療機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京慈恵会医科大学附属青戸病院</li> <li>・ 東京都立府中病院</li> <li>・ 公立昭和病院</li> </ul>



## 2 調査方法

厚生労働省、総務省消防庁、東京都福祉保健局が合同で各医療機関を訪問し、聞き取り調査を行った。

---

### ※1 区東部ブロックにおける妊婦搬送事案の経過概要

平成20年10月4日、江東区内のかかりつけ産婦人科医院を受診した妊婦の転院搬送に関し、同医院等が都立墨東病院を含め8医療機関に連絡したが、受入困難であった。再度要請を受けた都立墨東病院が受け入れたが、妊婦は脳内出血により死亡した。

### ※2 多摩ブロックにおける妊婦搬送事案の経過概要

平成20年9月23日、調布市内のかかりつけ病院を受診した妊婦の転院搬送に関し、同病院等が杏林大学医学部付属病院を含め8医療機関に連絡したが、受入困難であり、最終的には、都立墨東病院が受け入れた。

## II 調査結果の概要

### 1 母体搬送を受け入れられなかった理由

搬送依頼を受けたとされた各医療機関によると、受け入れられなかった理由は、区東部ブロックにおける事案については表1のとおり、多摩ブロックにおける事案については表2のとおりであった。

表1 区東部ブロックにおける母体搬送事案について

医療機関名	種別	母体搬送を受け入れられなかった理由
東京都立墨東病院	総合	・当日は1人当直であったこと等
日本赤十字社医療センター	総合	・M F I C Uが満床（担当ブロック外からの妊婦が直前に入院したため）
日本大学医学部 附属板橋病院	総合	・N I C Uが満床 ※本事案については記録不明（同日あった別の妊婦の搬送依頼については、N I C U満床のために受け入れられなかった旨の記録あり）
慶応義塾大学病院	地域	・産科病棟の個室が満床（感染症を疑ったので個室管理が必要と判断したため）
順天堂大学医学部 附属順天堂医院	地域	・産科病床が満床 ・産科当直医（2人）が2人の分娩進行中の妊婦に対応中であった。
東京慈恵会医科大学 附属病院	地域	・N I C Uが満床 ・N I C U入院が必要な分娩が待機中であったので、これ以上の入院は受けられず。
東京慈恵会医科大学 附属青戸病院	—	・N I C Uを設置していない（周産期母子医療センターではない）。 ・脳外科医の当直日ではなかった。
東京大学医学部 附属病院	ネットワーク	・N I C Uが満床

表2 多摩ブロックにおける母体搬送事案について

医療機関名	種別	母体搬送を受け入れられなかった理由
杏林大学医学部附属病院	総合	・最初の連絡時は、産科当直医（2人）が手術対応中であった。 ・産科病床が満床 ※他院へ搬送依頼を行った。
日本赤十字社東京支部武蔵野赤十字病院	地域	・産科当直医（1人）は、手術後の患者と分娩待機中（5人）の妊婦に対応中であった。
日本赤十字社医療センター	総合	・産科当直医（3人）は、9人の妊婦の分娩と、流産の患者の緊急手術に対応中であった。 ・NICUが満床 ・MFICUが満床
東京医科大学病院	地域	・NICUが満床 ・脳外科当直医は1人で院内患者と救命救急センターの患者へ対応するため、それ以外の患者は原則として受け入れていない。
東京女子医科大学病院	総合	・搬送依頼の受信の記録なし（電話交換台、産科・新生児科の当直日誌確認済み） ・NICUとGCUが満床
東京都立府中病院	—	・産科当直医（1人）が分娩対応中であった。
公立昭和病院	—	・産科当直医（1人）が5人の妊婦の切迫早産等に対応中であった。 ・小児科当直医（1人）が2人の人工呼吸管理と1人の超低出生体重児に対応中であった。
愛育病院	総合	・本事案の妊婦は脳血管疾患を合併していると判断したが、当院は脳神経外科を有していないため。

注）総合：総合周産期母子医療センター、 地域：地域周産期母子医療センター、  
ネットワーク：周産期医療情報ネットワーク参画医療機関、  
—：その他の医療機関

## 2 母体搬送を受け入れられなかった原因及びその背景等に関する医療機関の意見

受け入れられなかった主な原因及びその背景等について、搬送依頼を受けたとされた各医療機関の意見は以下のとおりであった。

### ○ 医師の不足等

- ・ 産科医や新生児科医等、周産期医療を担う医師が絶対的に不足しており、緊急の母体搬送等に常時対応できるだけの余力がない。宿日直についても十分な人員を確保することができず、やむを得ず1人当直体制とならざるをえない状況もある。
- ・ 産科手術における麻酔科医の不足も慢性的であり、緊急の手術に対応することが困難。
- ・ 初期から三次まで幅広い妊産婦救急患者を受け入れなければならない。また、健診未受診妊産婦のいわゆる飛び込み出産等も増えてきており、事前情報のない予想外のハイリスク症例に対応しなければならないという事例が増加している。

### ○ 新生児集中治療室（NICU）の不足等

- ・ NICUの増床を計画しているが、それに見合う新生児科医が確保できず、また、診療報酬上の施設基準を満たすための看護師及びスペース等の確保も困難。
- ・ 通常の出産目的で入院している妊産婦の児がNICUに入ることも多く、母体搬送に備えて常に空床を確保することが困難。また、近年多胎児の出産が増加しており、多めに空床を確保しなければならないのも負担。
- ・ NICUにおける長期療養児の受皿となるNICU後方病床（GCU等）やその他の退院先の病床（重症心身障害児施設を含む）が不足している。また、GCUに対する診療報酬上の加算が十分ではないため、増床しても経営を圧迫する場合が多い。

### ○ 産科病床の不足等

- ・ 担当するブロック（医療圏）以外からの母体搬送を受け入れるだけの産科病床の余裕がない。
- ・ 母体・胎児集中治療室（MFICU）も、その後方病床も常にほぼ満床状態である。
- ・ 他診療科の個室には、胎児を管理するモニター等の機器が設置されていないため、そのような病室での受け入れは困難。

### ○ 情報の照会や伝達等に関する事項

- ・ 周産期医療情報システムによる情報は、あくまでその時点を中心とした大まかな状況と認識している。いずれにしる具体的な受入可能性は電話で確認するので現状の情報更新頻度（最低2回/日）で妥当である。
- ・ 周産期医療情報システムで表示する情報は、空床状況や対応可能性についてのリアルタイムの情報ではないため、受入可能の表示のある施設に電話をしても、実際には受入困難であることがある。
- ・ 搬送依頼に際しては、主に電話による対応であるため、依頼元と依頼先の間で患者の容体等の状況の認識に差異が生じてしまうことがある。
- ・ 周産期医療情報システムの情報を周産期母子医療センター等のネットワーク内の医療機関しか見ることができないので、搬送先の選定に際して非効率ではないか。
- ・ 一次医療機関では医師が少ないので患者を診ながら搬送先選定を行うのは難しい。総合周産期母子医療センターで搬送先選定を行うべきである。

### 3 その他、周産期医療全般に関する医療機関の意見・提言等

その他、周産期医療全般に関する医療機関の意見・提言等は以下のとおりであった。

#### ○ 総合周産期母子医療センター等周産期医療施設について

- ・ 周産期医療においては、産科等の周産期関連の診療科だけでは対応できない状況の発生もありうるということを念頭に置いた上で、母体救命に対応できる仕組みを考えるべきではないか。また、総合周産期母子医療センターや地域周産期母子医療センターとして十分に機能しているか、適切に評価を行い、必要がある場合は指定や認定を見直すということも考えるべきではないか。
- ・ 母体合併症を含めた搬送依頼に対してコーディネートできるセンターがあれば、全ての総合周産期母子医療センターが母体合併症に対応できなくてもいいのではないか。
- ・ 周産期母子医療センターに指定・認定されている病院であっても、各病院により、対応できる領域はそれぞれ異なることから、各病院の機能を明確に周知・評価すべきである。
- ・ 総合周産期母子医療センターは、ハード面は補助金により支援があるが、産科医への報酬などのソフト面での支援が十分ではない。三交代が可能なくらいの人数を確保するためにも経済的支援が必要ではないか。

- ・ 公立病院改革を進めるにあたり、NICU等、収益に貢献しない分野を拡充しようとしても、経営的観点からみると、必ずしも優先順位が高くない。
- ・ 出産費等の未払いについては大きな問題であり、出産育児一時金が直接、病院へ支給されるような仕組みにならないか。公立病院は特に未収金が多く、経営上も重大な問題。

○ 周産期医療を担う医師への支援・負担軽減等について

- ・ 産科医の報酬を労働量に見合ったものに改善できるよう、診療報酬の改定を行うことはできないか。また、緊急帝王切開など周産期救急医療に関与した産科医、新生児科医、麻酔科医、コメディカルなどに対し付加的な経済的支援ができるような院内体制を整備することも重要。
- ・ 当直明けに通常勤務を行う等の過重労働により、医師の気力も体力も衰えている。短期的対策として、労働時間の縮減や当直明け勤務を行わない等の勤務環境の改善や、医師個人に対する手当を上乗せする等、医師のモチベーションを維持する方策が必要ではないか。
- ・ 医師の負担を減少させるため、医療クラークの普及・配置を図ることが必要ではないか。
- ・ 産科医は、基本的にハイリスク・ローリターンであり、これが産科医減少の一要因。福島県立大野病院の例のように、リスクが高くても手術は必要な場合は当然ある。このような場合、産科医が法的に免責になるシステムを考えてほしい。
- ・ 厳しい環境の中、ハイリスク症例を受け入れて懸命に治療したにもかかわらず、結果的に死亡してしまったような場合であっても、マス・メディアから批判的な報道を受けると、仕事を続けていくモチベーションが維持できない。
- ・ 行政が財政的支援を行い、周産期母子医療センターの助産師に手当を出すなどして、センターに助産師が集まるようにすべきではないか。
- ・ 欧米では、産後1日程度で退院し、その後は地域の保健師等が在宅でケアを行っている。日本でも保健師を増員するなどしてこのような取組を進め、医師の負担を減らすことも考えられる。

○ 地域における周産期医療体制の構築等について

- ・ 地域における経験ある産科開業医の活用を図りたいが、これらの医師の高齢化が進んでいる地域も多くて簡単ではない。また、周産期医療は、新生児科医、助産師等のチームで行うものであり、仮にオープンシステム等を

導入しても、普段一緒に勤務していない医療従事者との意思疎通を含め、診療が円滑に進むか不安な面もある。

- ・ 近年、ハイリスクでない妊婦であっても総合周産期母子医療センターに紹介・搬送されるケースが増加傾向にあり、センターにとっては大きな負荷となっている。総合周産期母子医療センターが、できるだけハイリスク症例に限定して対応できるよう、地域の産科医療機関における役割分担を図るべきではないか。
- ・ 他県からの周産期関連患者を受け入れている状態が恒常的に続いており、複数県で広域の総合的な周産期医療体制を整備できないか。
- ・ 長期療養児の受皿として、後方病床や重症心身障害児施設等の計画的な整備を急ぐべき。

#### ○ その他、救急医療等との関連について

- ・ 救急医療に対応するため、搬送先を選定するコーディネーターを積極的に活用すべき。
- ・ 周産期の救急専任のコーディネーターが、常に各周産期母子医療センターの状況を把握し、広域で搬送先を調整するのがいいのではないか。その際、搬送紹介先病院の選定や、そこで受けた治療への不満等が患者から出た場合、コーディネーターの責任が問われかねないので、行政の責任において行うのがいいのではないか。
- ・ 子宮外妊娠や健診未受診妊産婦の流産等の産科の初期・二次救急搬送に対応できる医療機関が少ないため、すべて総合周産期母子医療センターにきてしまう。
- ・ 妊婦が一般救急で搬送される場合、総合周産期母子医療センターへの搬送先選定依頼がないときには、搬送ルートが必ずしも定まっていない。
- ・ 救急医療については、三位一体改革により、公立病院の救命救急センターへの補助金が一般財源化され、その結果、病院を設置している市町村とそれ以外の市町村との間の不公平が生じている。
- ・ 現在の救急医療体制は、初期、二次、三次と重症度別に分けているが、重症度の判断は難しい場合もある。また、特定診療科に力を入れている病院もあるため、必ずしも重症度別の分類にこだわらず、診療科単位で救急の役割分担を行い、難しい症例であれば救命救急センターに搬送してもらう、というようなことも必要である。



平成20年12月5日

## 「大学病院の周産期医療体制整備計画」について

周産期医療体制等が大きな社会問題となっていることに鑑み、大学病院の体制を強化するため、「大学病院の周産期医療体制の整備計画（平成21年度～）」を策定することとしたので、公表します。

詳細は、別添のとおりです。

<担当> 高等教育局医学教育課大学病院支援室  
室長 小林 万里子（内線 2510）  
専門職 中嶋 光穂（内線 2071）  
電話：03-5253-4111（代表）  
03-6734-2578（直通）



# 大学病院の周産期医療体制整備計画

1. 国立大学病院の周産期医療体制整備計画(4カ年計画)
2. 国公立大学病院の周産期医療に関する人材養成等の強化

## 1. 国立大学病院の周産期医療体制整備計画(4カ年計画)

### 【概要】

今後、4年間(平成21年度～24年度)で、①NICU(新生児集中治療室)が未設置の国立大学病院の解消 ②半数の国立大学病院において、現行平均11床程度の周産期医療に係る病床数を倍増し、20床とする。

### 【具体的な対応策】

- ① 平成21年度より、NICUが未設置の9大学病院について、1病院当たり最低6床のNICUを整備する計画を順次策定。今後4年間で、NICU未設置の大学病院の解消を図る。

〔現状:42国立大学病院中33大学病院がNICUを設置。9大学病院が未設置。現時点において、平成21年度に、5病院程度がNICU設置の見込み。〕

- ② 平成21年度より、NICU、MFICU(母体・胎児集中治療管理室)、GCU(継続保育室)等の周産期医療体制の強化を図るため、今後4年間で、少なくとも半数の国立大学病院(21大学病院)において、現行平均11床程度の周産期医療体制に係る病床数を倍増し20床とする。

〔現状:42国立大学病院の平均病床数は、NICU(5.8床)、MFICU(1.0床)、GCU(4.6床)の合計11床程度。〕

## 2. 国公立大学病院の周産期医療に関する人材養成等の強化

### 【概要】

国公立大学病院におけるNICU(新生児集中治療室)等に関する人材養成に対する支援を行う。

### 【具体的な対応策】

- ① 周産期医療を志す若手医師の教育環境の整備を図るとともに、小児科・産科等の女性医師の復帰支援を行う。
  
- ② 院内助産所等を活用した助産師養成環境を整備し、産科医の負担軽減を図る。

○ NICUが整備されていない国立大学一覧

弘前大学、山形大学、千葉大学、東京医科歯科大学

福井大学、山梨大学、岐阜大学、佐賀大学、長崎大学

計 9 大学

○ NICU等の平均病床数

	国立	公立	私立	全体
NICU	5.8床	8.3床	10.5床	7.8床
MFICU	1.0床	2.3床	4.4床	2.4床
GCU	4.6床	5.5床	14.9床	8.5床
計	11.4床	16.0床	29.8床	18.6床

(注1)「全体」欄については、国公立私立大学病院(本院)全体の平均病床数。

(注2)「計」欄については、端数処理のため、内訳を積み上げたものと一致しない場合がある。



平成20年12月5日

大学病院における周産期医療体制等の調査結果について

周産期医療体制等が大きな社会問題となっていることに鑑み、大学病院における現状について調査を行い、医学部を有する国公私立大学が設置する大学病院134病院（本院79病院、分院55病院。）のうち、周産期医療を行っている113病院（本院79病院、分院34病院。）の調査結果を、別添のとおり公表します。

詳細は、別添のとおりです。

<担当> 高等教育局医学教育課大学病院支援室  
室長 小林 万里子（内線 2510）  
専門職 中嶋 光穂（内線 2071）  
電話：03-5253-4111（代表）  
03-6734-2578（直通）

# 大学病院における周産期医療体制等について

平成20年11月

文部科学省高等教育局医学教育課大学病院支援室

# 調査の概要

## I 調査の目的

周産期医療体制等が大きな社会問題となっていることに鑑み、大学病院における周産期医療体制等の現状について調査を行った。

## II 調査の対象

医学部を有する国公立大学が設置する大学病院、134病院(本院79病院、分院55病院。)のうち、周産期医療を行っている113病院(本院79病院、分院34病院。以下、大学病院。)からの回答を集計した。

## III 調査の時点

平成20年11月1日の状況について調査を行った。ただし、病床稼働率については平成19年度の状況を、分娩件数については平成17年度から平成19年度までの3か年について調査を行った。

## IV 調査の概要

### 1. NICU等の状況について

大学病院のうち、NICUを設置している大学病院は、79病院(全大学病院のうち、69.9%)、MFICUを設置している大学病院は、29病院(全大学病院のうち、25.7%)、GCUを設置している大学病院は、59病院(全大学病院のうち、52.2%)である。

各病床を設置している大学病院の1病院当たりの平均病床数は、NICUは、9.1床、MFICUは、7.6床、GCUは、13.4床であり、大学病院の全体数における1病院当たりの平均病床数では、NICUは、6.4床、MFICUは、1.9床、GCUは、7.0床となる。

平成19年度の平均病床稼働率は、NICUは、93.3%、MFICUは、81.8%、GCUは、80.2%であった。

国公立別(本院)の設置状況を見ると、NICUを設置している大学病院は、国立は33病院(国立大学病院(本院)のうち、78.6%)、公立は8病院(全ての公立大学病院(本院)に設置)、私立は27病院(全私立大学病院(本院)のうち、93.1%)、MFICUを設置している大学病院は、国立は8病院(国立大学病院(本院)のうち、19.0%)、公立は3病院(全公立大学病院(本院)のうち、37.5%)、私立は14病院(全私立大学病院(本院)のうち、48.3%)、GCUを設置している大学病院は、国立は21病院(国立大学病院(本院)のうち、50.0%)、公立は5病院(全公立大学病院(本院)のうち、62.5%)、私立は25病院(全私立大学病院(本院)のうち、86.2%)であった。

(注1)NICU:新生児集中治療室、MFICU:母体・胎児集中治療管理室、GCU:継続保育室。

(注2)NICU及びMFICUについては、診療報酬上の加算がある病床数。

## 2. 周産期医療に係る病床を設置・拡充する予定について

調査時点において、周産期医療にかかる病床を新たに設置又は、拡充する予定がある大学病院は、45病院であり、全大学病院の39.8%であった。

また、国公私立別(本院)の状況を見ると、国立は19病院(全国立大学病院(本院)のうち、45.2%)、公立は2病院(全公立大学病院(本院)のうち、25.0%)、私立は17病院(全私立大学病院(本院)のうち、58.6%)であった。

なお、これらの大学病院においては、「産科医・新生児科医等の人材の確保が難しい」、「財政面で難しい」などの課題が挙げられた。

## 3. 周産期母子医療センターの指定・認定状況について

総合周産期母子医療センターの指定又は地域周産期母子医療センターの認定を受けている大学病院は、56病院であり、全大学病院の、49.6%となっている。この56病院のうち、28病院が総合周産期母子医療センターの指定を受け、28病院が地域周産期母子医療センターの認定を受けている。

## 4. 分娩件数について

大学病院における分娩件数は、平成17年度は、41,562件、18年度は、46,634件、19年度は、50,047件であり、年々増加傾向にあり、この3年間で、20.4%増加している。また、リスクの高い分娩の件数については、この3年間で、24.1%増加しており、帝王切開については、29.3%増加している。

(注1)リスクの高い分娩の定義は、各大学病院の定義による。

(注2)帝王切開は、大学病院により、リスクの高い分娩に含む場合や、症例により通常分娩に区分している場合もある。

## 5. 周産期医療に従事する医師数・看護職数の平均について

周産期医療を実施する大学病院における周産期医療に従事する1病院当たりの医師の平均勤務者数は、小児科系11.0人、産婦人科系15.2人である。また、小児科系・産婦人科系あわせた看護職の平均人数は、59.6人である。

(注)本調査においては、周産期医療のみに限定した人数を特定できない場合は、大学病院における小児科系および産婦人科系全ての医師や看護職の人数を計上しているため、実際よりも多くなっている可能性がある。

## 6. 診療時間内及び診療時間外における医師の勤務体制について

大学病院における周産期医療に従事する医師の診療時間内及び診療時間外における1病院当たりの平均は、診療時間内は、小児科系6.6人、産婦人科系8.3人、診療時間外は、小児科系・産婦人科系あわせて、2.5人である。

(注)本調査においては、周産期医療のみに限定した人数を特定できない場合は、大学病院における小児科系および産婦人科系全ての医師や看護職の人数を計上しているため、実際よりも多くなっている可能性がある。

## 7. 医療圏内における他の医療機関との役割分担について

大学病院は、各都道府県の医療計画等により、「総合周産期母子医療センターの指定を受ける」、「地域の医療機関ごとに症例の特徴により機能分担を行い、大学病院は、重傷症例を担当する」等、地域の中核として機能している。また、各都道府県の実情等により、周産期母子医療センターの指定・認定を受けていない大学病院についても、他の医療機関と連携を図りながら、専門医を派遣する等、地域の周産期医療に貢献している。

## 8. 周産期医療に対する主な意見等

- 産科医、新生児科医、麻酔科医及び周産期医療に従事するスタッフ(助産師・看護師など)が不足している。
- 低出生体重児の増加等に伴い、NICU病床が不足している。
- 長期間NICUに入院している超重症児に対応できる後方施設の拡充が必要。
- 地域の実情に応じた分娩施設の集約化・機能分化の明確化が必要である。
- 総合周産期母子医療センターでは、通常分娩を扱わないなど役割分担が必要である。
- 保育所設置、産休育休時等の際の人員調整など、女性医師支援が必要である。
- 周産期医療に従事する医師、助産師、看護師等の人材養成教育システムに対する財政支援が必要である。
- 周産期医療や教育環境整備のための施設・設備に対する財政支援が必要である。
- 周産期医療に対する診療報酬上の適切な評価が必要である。



# 大学病院における周産期医療の状況について

## 1. NICU等の状況について

### ①NICU等を設置している大学病院

NICUを設置している大学病院は、79病院(全大学病院のうち、69.9%)、MFICUを設置している大学病院は、29病院(全大学病院のうち、25.7%)、GCUを設置している大学病院は、59病院(全大学病院のうち、52.2%)である。

	全体	本院	分院
NICU	79 / 113	68 / 79	11 / 34
MFICU	29 / 113	25 / 79	4 / 34
GCU	59 / 113	51 / 79	8 / 34

※各病床を設置している大学病院数/全大学病院数。

※NICU及びMFICUについては、診療報酬上の加算がある病床数。

※上記、NICUを設置している本院68大学のうち、1大学は移転予定(H21.5)であるため、現在、稼働していない。

※NICU: 新生児集中治療室、MFICU: 母体・胎児集中治療管理室、GCU: 継続保育室。

### ②NICU等を設置している大学病院における平均病床数

各病床を設置している病院の平均病床数は、NICUは、9.1床、MFICUは、7.6床、GCUは13.4床である。

	全体	本院	分院
NICU	9.1床	9.0床	9.5床
MFICU	7.6床	7.5床	8.3床
GCU	13.4床	13.1床	15.4床

※総病床数/各病床を設置している大学病院数

### ③大学病院の全体数における平均病床数

大学病院の全体数における平均病床数は、NICUは、6.4床、MFICUは、1.9床、GCUは7.0床である。

	全体	本院	分院
NICU	6.4床	7.8床	3.1床
MFICU	1.9床	2.4床	1.0床
GCU	7.0床	8.5床	3.6床

※総病床数/全大学病院数

### ④NICU等を設置している大学病院における病床稼働率

NICU・MFICU・GCUの1病院当たりの平均病床稼働率は、NICUは、93.3%、MFICUは、81.8%、GCUは、80.2%である。

	全体	本院	分院
NICU	93.3%	92.2%	100.3%
MFICU	81.8%	81.2%	85.3%
GCU	80.2%	78.7%	89.9%

※病床稼働率=入院延べ患者数/(366日×承認病床数)×100

※上記、本院のNICU稼働率には、移転予定の1大学分は含んでいない。

## 2. 周産期医療に係る病床を設置・拡充する予定について

調査時点において、周産期医療にかかる病床を新たに設置又は、拡充する予定がある大学病院は、45病院であり、全大学病院の39.8%であった。

全体	本院	分院
45病院	38病院	7病院

## 3. 周産期母子医療センターの指定・認定状況について

総合周産期母子医療センターの指定、又は地域周産期母子医療センターの認定を受けている大学病院は、56病院であり、全大学病院の、49.6%となっている。

	全体	本院	分院
地域	28 / 113	23 / 79	5 / 34
総合	28 / 113	24 / 79	4 / 34
計	56 / 113	47 / 79	9 / 34

※周産期母子医療センターに指定又は認定されている大学病院数/全大学病院数

## 4. 分娩件数について

大学病院における分娩件数は、平成17年度は、41,562件、18年度は、46,634件、19年度は、50,047件であり、この3年間で、20.4%増加している。また、リスクの高い分娩の件数についてはこの3年間で、24.1%の増加しており、帝王切開については、29.3%増加している。

	17年度	18年度		19年度		
			対H17増減		対H17増減	対H18増減
通常分娩	24,808件	27,801件	12.1%	29,256件	17.9%	5.2%
リスクの高い分娩	16,754件	18,833件	12.4%	20,791件	24.1%	10.4%
計	41,562件	46,634件	12.2%	50,047件	20.4%	7.3%
(うち、帝王切開)	13,755件	16,208件	17.8%	17,790件	29.3%	9.8%

※リスクの高い分娩の定義は各大学病院の定義による。

※帝王切開は、大学病院により、リスクの高い分娩に含む場合や、症例により通常分娩に区分している場合もある。

## 5. 周産期医療に従事する医師数・看護職数の平均について

周産期医療を実施する大学病院における周産期医療に従事する1病院当たりの医師の平均勤務者数は、小児科系11.0人、産婦人科系15.2人である。また、小児科系・産婦人科系あわせた看護職の平均人数は、59.6人である。

### ①医師

		全体	本院	分院
小児科系	常勤医師	6.5人	6.7人	5.9人
	非常勤(週32時間以上)	1.8人	2.4人	0.3人
	非常勤(週32時間未満)	0.9人	0.7人	1.4人
	専門研修医	0.8人	1.0人	0.2人
	初期研修医	1.1人	1.2人	0.8人
	計	11.0人	12.1人	8.6人
産婦人科系	常勤医師	9.3人	10.3人	7.1人
	非常勤(週32時間以上)	1.6人	2.0人	0.6人
	非常勤(週32時間未満)	1.1人	0.9人	1.6人
	専門研修医	1.1人	1.5人	0.2人
	初期研修医	2.1人	2.4人	1.2人
	計	15.2人	17.1人	10.7人

※周産期医療のみに限定した人数を特定できない場合は、大学病院における小児科系および産婦人科系全ての医師の人数を計上。

※「計」欄については、端数処理のため、内訳を積み上げたものと一致しない場合がある。

②看護職

	全体	本院	分院
助産師	20.5人	22.3人	16.4人
看護師・准看護師	39.1人	41.1人	34.3人
計	59.6人	63.4人	50.7人

※周産期医療のみに限定した人数を特定できない場合は、大学病院における小児科系および産婦人科系全ての看護職の人数を計上。

6. 診療時間内及び診療時間外における医師の勤務体制について

大学病院において周産期医療に従事する医師の診療時間内及び診療時間外における1病院当たりの平均は、診療時間内は、小児科系6.6人、産婦人科系8.3人、診療時間外は、小児科系・産婦人科系あわせて2.5人である。

		全体	本院	分院
平日時間内	小児科系	6.6人	7.1人	5.3人
	産婦人科系	8.3人	9.2人	6.1人
平日時間外	当直(夜勤)	2.5人	2.7人	2.0人
土日祝日	日直	2.5人	2.7人	2.0人
	当直(夜勤)	2.4人	2.7人	1.9人

※周産期医療のみに限定した人数を特定できない場合は、大学病院における小児科系および産婦人科系全ての医師の人数を計上。

# 大学病院(本院・国公私別)における周産期医療の状況について

## 1. NICU等の状況について

### ①NICU等を設置している大学病院

	国立	公立	私立	計
NICU	33 / 42	8 / 8	27 / 29	68 / 79
MFICU	8 / 42	3 / 8	14 / 29	25 / 79
GCU	21 / 42	5 / 8	25 / 29	51 / 79

※各病床を設置している大学病院数/全大学病院数。

※NICU及びMFICUについては、診療報酬上の加算がある病床数。

※上記、NICUを設置している国立33大学のうち、1大学は移転予定(H21.5)であるため、現在、稼働していない。

※NICU: 新生児集中治療室、MFICU: 母体・胎児集中治療管理室、GCU: 継続保育室。

### ②NICU等を設置している大学病院における平均病床数

	国立	公立	私立	本院全体
NICU	7.4床	8.3床	11.3床	9.0床
MFICU	5.3床	6.0床	9.1床	7.5床
GCU	9.2床	8.8床	17.3床	13.1床

※総病床数/各病床を設置している大学病院数

### ③大学病院の全体数における平均病床数

	国立	公立	私立	本院全体
NICU	5.8床	8.3床	10.5床	7.8床
MFICU	1.0床	2.3床	4.4床	2.4床
GCU	4.6床	5.5床	14.9床	8.5床

※総病床数/全大学病院数

### ④NICU等を設置している大学病院における病床稼働率

	国立	公立	私立	本院全体
NICU	89.5%	89.2%	96.2%	92.2%
MFICU	81.8%	78.4%	81.4%	81.2%
GCU	82.7%	68.8%	77.4%	78.7%

※病床稼働率=入院延べ患者数/(366日×承認病床数)×100

※上記、国立のNICU稼働率には、移転予定の1大学分は含んでいない。

## 2. 周産期医療に係る病床を設置・拡充する予定について

国立	公立	私立	計
19病院	2病院	17病院	38病院

## 3. 周産期母子医療センターの指定・認定状況について

	国立	公立	私立	計
地域	11 / 42	2 / 8	10 / 29	23 / 79
総合	7 / 42	3 / 8	14 / 29	24 / 79
計	18 / 42	5 / 8	24 / 29	47 / 79

※周産期母子医療センターに指定又は認定されている大学病院数/全大学病院数

## 4. 分娩件数について

	17年度	18年度		19年度		
			対H17増減		対H17増減	対H18増減
通常分娩	16,328件	18,264件	11.9%	19,451件	19.1%	6.5%
リスクの高い分娩	12,547件	14,078件	12.2%	15,588件	24.2%	10.7%
計	28,875件	32,342件	12.0%	35,039件	21.3%	8.3%
(うち、帝王切開)	10,068件	11,962件	18.8%	13,061件	29.7%	9.2%

※リスクの高い分娩の定義は各大学病院の定義による。

※帝王切開は、大学病院により、リスクの高い分娩に含む場合や、症例により通常分娩に区分している場合もある。

## 5. 周産期医療に従事する医師数・看護職数の平均について

### ①医師

		国立	公立	私立	本院全体
小児科系	常勤医師	6.9人	5.9人	6.7人	6.7人
	非常勤(週32時間以上)	4.1人	1.0人	0.4人	2.4人
	非常勤(週32時間未満)	0.5人	2.0人	0.7人	0.7人
	専門研修医	1.4人	0.3人	0.7人	1.0人
	初期研修医	1.1人	0.9人	1.4人	1.2人
	計	14.0人	10.0人	9.9人	12.1人
産婦人科系	常勤医師	8.5人	9.9人	13.1人	10.3人
	非常勤(週32時間以上)	2.7人	1.3人	1.2人	2.0人
	非常勤(週32時間未満)	0.4人	1.4人	1.4人	0.9人
	専門研修医	1.5人	0.8人	1.6人	1.5人
	初期研修医	1.9人	2.0人	3.4人	2.4人
	計	15.0人	15.3人	20.6人	17.1人

※周産期医療のみに限定した人数を特定できない場合は、大学病院における小児科系および産婦人科系全ての医師の人数を計上。

※「計」欄については、端数処理のため、内訳を積み上げたものと一致しない場合がある。

②看護職

	国立	公立	私立	本院全体
助産師	21.1人	24.9人	23.4人	22.3人
看護師・准看護師	36.8人	35.5人	48.9人	41.1人
計	57.9人	60.4人	72.3人	63.4人

※周産期医療のみに限定した人数を特定できない場合は、大学病院における小児科系および産婦人科系全ての看護職の人数を計上。

6. 診療時間内及び診療時間外における医師の勤務体制について

		国立	公立	私立	本院全体
平日時間内	小児科系	8.1人	5.6人	6.1人	7.1人
	産婦人科系	9.1人	8.8人	9.5人	9.2人
平日時間外	当直(夜勤)	2.3人	2.8人	3.2人	2.7人
土日祝日	日直	2.3人	2.8人	3.3人	2.7人
	当直(夜勤)	2.3人	2.8人	3.2人	2.7人

※周産期医療のみに限定した人数を特定できない場合は、大学病院における小児科系および産婦人科系全ての医師の人数を計上。

平成20年度第3回

(一部抜粋)

東京都周産期医療協議会

日時 平成20年11月28日(金) 19時から  
場所 東京都庁第一本庁舎33階北N6会議室

【次第】

1 開会

2 議題

- (1) 今後の周産期医療体制について
  - ・母体搬送の受入れについて
  - ・搬送コーディネーターについて
  - ・その他
- (2) その他

3 閉会

【配布資料】

- 資料 1 平成20年度第3回 東京都周産期医療協議会名簿
- 資料 2 } 岡井会長提供資料
- 資料 3 }
- 資料 4 東京都の周産期の搬送体制について
- 資料 5 周産期搬送システム(搬送先選定の一元化)の取組例
- 資料 6-1 周産期母子医療センターの現況について(厚生労働省調査結果)
- 資料 6-2 周産期母子医療センターにおける合併症妊婦の対応について  
(厚生労働省調査結果)
- 資料 7 墨東病院周産期センターにおける12月及び年末年始の当直体制について  
(平成20年11月27日・病院経営本部)
- 資料 8 周産期母子医療センターにおける救急搬送患者の円滑な受入れについて
  
- 参考資料1 第2回 東京都周産期医療協議会議事録(平成20年11月5日開催)
- 参考資料2 「迅速・適切な救急医療の確保について」(救急医療対策協議会報告)  
(平成20年11月21日)
- 参考資料3 平成21年度主要事項予算見積概要(抜粋)

## 平成20年度第3回 東京都周産期医療協議会名簿

## □ 協議会委員 (13名)

	氏名	所属・職	備考
◎	岡井 崇	昭和大学医学部教授	産婦人科
○	楠田 聡	東京女子医科大学母子総合医療センター教授	小児科
	有馬 正高	日本重症心身障害学会理事長	小児科
	中林 正雄	愛育病院院長	産婦人科
	杉浦 正俊	杏林大学医学部准教授	小児科
	林 瑞成	都立墨東病院周産期センター産科部長	産婦人科
	瀧川 逸朗	都立大塚病院小児科部長	小児科
	大橋 克洋	東京都医師会理事	
	田中 政信	日本産婦人科医会常務理事	
	町田 利正	東京産婦人科医会会長	
	山村 節子	日本助産師会東京都支部支部長	
	伊藤 博人	東京消防庁救急部救急医務課長	
	吉井 栄一郎	福祉保健局医療政策部長	

## □ 産科部会長・新生児部会長 (2名)

	氏名	所属・職	備考
	杉本 充弘	日本赤十字社医療センター第一産科部長	産科部会長
	宇賀 直樹	東邦大学医学部教授	新生児部会長

## □ 要綱第6条による出席者(7名)

	氏名	所属・職	備考
	島崎 修次	杏林大学医学部教授	救急医療対策協議会会長
	松田 義雄	東京女子医科大学母子総合医療センター教授	総合周産期センター代表
	綾部 琢哉	帝京大学医学部教授	総合周産期センター代表
	山本 樹生	日本大学医学部教授	総合周産期センター代表
	岩下 光利	杏林大学医学部教授	総合周産期センター代表
	小林 剛	都立墨東病院院長	病院経営本部
	宮澤 豊	都立大塚病院副院長	病院経営本部



## 東京都周産期医療協議会

<平成 20 年度第 2 回協議会のまとめ>

## I. 搬送先の選定に時間を要し、患者さんが頭蓋内出血で亡くなられた事例の検討

## 1. 施設への聞き取り調査

受け入れできなかった理由（重複あり）

NICU 満床	3 施設
MFICU 満床	2 施設
医師が対応できない状況	2 施設
脳外科医が当直していない	1 施設
感染症対応が不能	1 施設

## 2. 搬送先選定に時間が掛かる原因

①各ブロック毎に責任施設を決めているが、その施設のベッドが満床等の場合は他のブロックも含めて受け入れ可能施設を探すシステムになっている。  
(他になれば最終的に当責任施設で受け入れる)

②総合周産期センターの負担が増しつつあり、十分な機能を果たす余裕のない状況が日常化している。

- ・分娩を取り扱う施設が減少し、周産期センターの正常分娩が増加
- ・搬送依頼数の増加(ハイリスク症例の増加、軽症例の搬送依頼の増加)
- ・現場の担当医師(当直医)の負担が大きく、疲弊し離脱する者が出ている

③NICU のベッドが不足している。

- ・10 年前の見積もりより需要が高まっている
- ・新生児担当医、看護師も不足している

④母体救急受け入れ体制の整備が遅れている。

- ・周産期医療体制の整備は搬送事例の 80～90%を占める胎児・新生児救急を中心に行われてきた。
- ・妊婦の救命救急に際しては胎児・新生児の緊急対応も必要であり、産科医、新生児医、救急医、関連各科の医師が揃っていなければならないが、現状では常時これに対応できる施設は限られる。

<第3回協議会の検討事項>

1. ブロック内完結方式の是非の検討
2. 母体救急と胎児・新生児救急における搬送システムの分別化の検討
3. 情報のセンター化  
搬送コーディネーター、一般救急と周産期救急の情報、正確な患者情報の伝達等
4. ブロック再編成の必要性の検討  
特に多摩ブロックと東部・東北部ブロックの強化について
5. 搬送先選定に時間を要した事例の報告制度の検討
6. 協議会決定事項の地域への周知の徹底策の検討

# 母体搬送依頼についての受け入れの判断基準(案)

岡井会長提供資料

**A. 妊産褥婦救命が必要**  
意識消失  
バイタルサインの変化  
激しい腹痛・頭痛 など

**B. 産科緊急疾患**  
常位胎盤早期剥離  
重症妊娠高血圧症候群  
HELLP症候群・子癇 など

**C. 胎児・新生児管理のための緊急搬送**

軽症

重症

緊急入院としてすべて受け入れる  
ベット満床・手術中などにかかわらず受け入れる

妊娠35週未満  
胎児推定体重2200g未満  
胎児well-being不良

妊娠35週以降かつ  
胎児推定体重2200g以上かつ  
胎児well-being良好

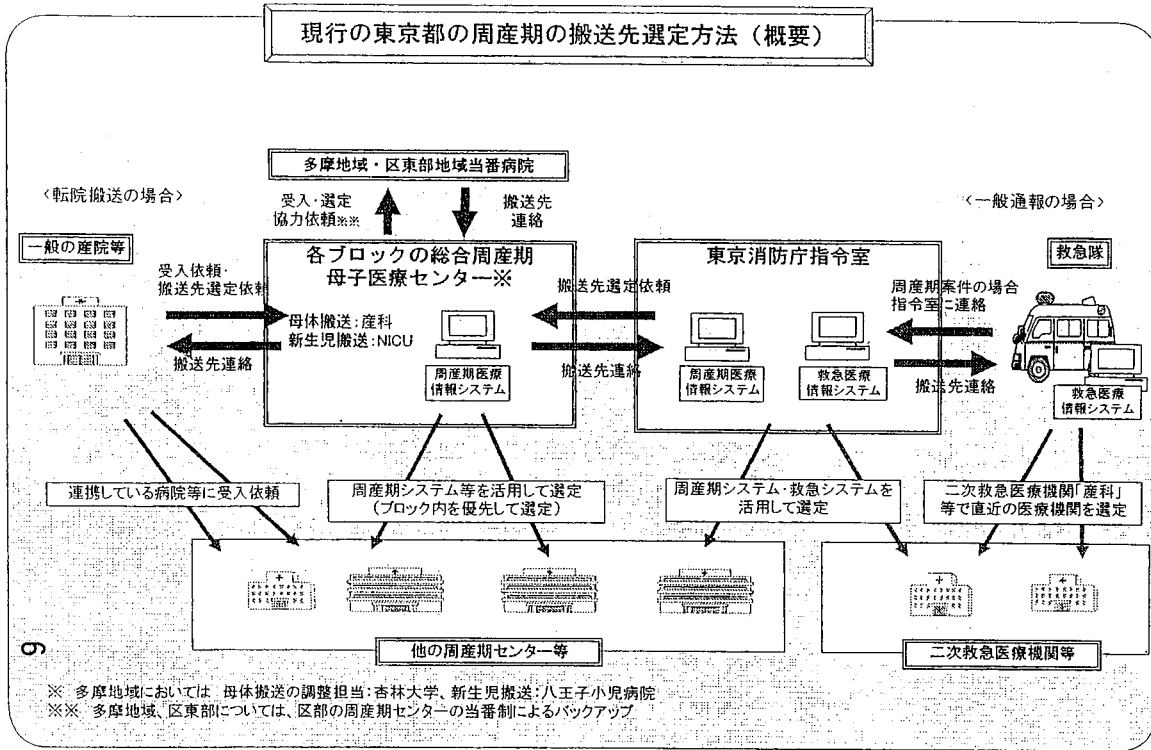
NICUの受け入れ可否の確認  
産科ベットの確認

産科ベットの確認

受け入れの第一窓口は産科医(暫定対応)  
受け入れの決定後に  
救急救命に連絡  
手術室に連絡  
NICUに連絡  
病棟のベット確保  
状況により他院への再搬送、新生児のみの搬送もありえる

**産科での受け入れ決定**  
受け入れ決定に際し、下記に留意する。  
1.総合周産期センターは、担当ブロック内発生例の最終受け入れ義務がある  
2.受け入れ不能時には、その理由を記録する

# 東京都の周産期の搬送体制について



**【現行の搬送ブロック】**

ブロック	担当区域	搬送先調整担当
区南部	品川区、大田区	東邦大大森 昭和大学
区中央部	千代田区、中央区、港区、 文京区、台東区	愛育病院
区東北部	荒川区、足立区、葛飾区	帝京大学（所在地は板橋区（区西北部））
区西北部	豊島区、北区、板橋区、練馬区	日大板橋
区東部	墨田区、江東区、江戸川区	墨東病院
区西部	新宿区、中野区、杉並区	女子医大
区西南部	目黒区、世田谷区、渋谷区	日赤医療センター
多摩	市町村部	杏林大学（母体） 八王子小児*（新生児） *地域周産期センター ※区部の総合周産期センターが当番制で受入れ・選定に協力

※ 一般通報＝傷病者の発生地 転院搬送＝搬送元医療機関所在地

**現行の緊急搬送ルール（概要）**

◎搬送先調整担当

各ブロックの総合周産期センター。総合周産期センターが存在しない区東北部は、区西北部の帝京大学が調整担当。多摩地域の新生児搬送は、八王子小児病院

◎搬送先選定の流れ

①一般通報

- ・要請を受けた東京消防庁は搬送先調整担当に搬送先の調整を依頼し、又は、東京消防庁設置の端末を使用し、下記の選定方法により搬送先を検討する。
- ・依頼を受けた搬送先調整担当は、下記の選定方法により搬送先の選定を行う。

②転院搬送

- ・搬送依頼を受けた周産期センターは、自院で受入れできない場合、空床のある他のセンターを紹介する。その際、搬送元医療機関の所在するブロック内の周産期センターを優先して紹介する。
- ・それでもなお搬送先が決まらない場合は、搬送先調整担当に調整を依頼する。
- ・依頼を受けた搬送先調整担当は、下記の選定方法により搬送先の選定を行う。

◎選定方法

- 搬送元の医療機関が所在するブロック内の周産期センターを優先して選定を行う。
- ブロック内に空床がない場合、他ブロックの周産期センターに依頼する。
- それでもなお搬送先が決まらない場合は、搬送先調整担当が責任をもって対処する。
- 多摩地域においては、ブロック内で対応が困難な場合は、区部の当番病院（総合周産期センターの当番制）に受入れ・選定の応援を要請する。

周産期搬送システム(搬送先選定の一元化)の取組例  
(各自治体担当者への電話による聞き取り)

	神奈川県	大阪府	千葉県	札幌市
導入時期	H19.4.20～試行 H19.11.1～本格実施	H19.11.26～	H20.6～コーディネーター配置 ※H19.10～母体搬送システム実施	H20.10～試行(年度内)
設置場所	神奈川県救急医療中央情報センター	大阪府立母子保健総合医療センター	亀田総合病院総合周産期母子医療センター(20年度)	札幌市夜間急病センター内
調整担当者の職種等	事務系職員 (オペレーター)	医師 (システム参加病院等のベテラン医師)	医療相談を行う事務職 (ウロギネセンター(骨盤臓器脱治療)のコーディネーターなどの相談業務経験あり)	助産師等 (患者受入情報オペレーター業務、患者相談窓口業務を実施)
調整担当者の人数	時間帯により2～5名 ※計11名(本事業のため1名増員)	1名 ※約15名の医師の当番制	1名	2名 ※公募等により27名確保
実施時間帯	24時間	夜間・休日(コーディネーター対応) ※それ以外の時間帯は、母子保健総合医療センターの医師が対応	平日9～17時(コーディネーター対応) ※それ以外の時間帯は、病院の当直医師、助産師等が対応	19時～7時
搬送依頼連絡経路	一般分娩施設 ↓ 基幹病院(8病院) ↓ 救急医療中央情報センター (基幹病院の指示のもとオペレーターが選定作業を実施) ※詳細は別紙図参照	一般分娩施設 ↓ 周産期緊急医療システム参加病院(20年1月現在43病院) ↓ 府立母子保健総合医療センター (システム参加病院で受入不可のものについて、センターに連絡。センターの当直医師2名で対応できない場合に、コーディネーターが選定作業を実施) ※詳細は別紙図参照	一般分娩施設 ↓ 二次医療圏内の周産期母子医療センター及び同クラスの機能を持つ病院(15病院) ↓ コントロールセンター(亀田総合病院) (周産期センタークラス病院で受入不可のものについて、コーディネーターが選定作業を実施) ※詳細は別紙図参照	一般医療機関・救急隊・患者(救急相談) ↓ 患者受入情報オペレーター (医療機関・救急隊・患者からの照会に対して、オペレーターが受入れ可能な病院の情報を提供) ※詳細は別紙図参照
患者情報の伝達方法	分娩施設からの依頼に基づき、基幹病院で調査票(様式別紙)を作成し、救急医療中央情報センターへFAX	電話による聞き取り(母子保健医療センターで受理票を記入)	診療情報提供書をFAX	電話(患者情報のやりとりは、搬送元と搬送先の医師どうしで行う)
一般通報への対応	通常の救急医療中央情報センターの業務として、救急情報システムの産科の応需情報を救急隊・地域情報センター等に提供(直接、県民への対応は行っていない。)	一般通報には対応していない。	一般通報には対応していない。(産科医院等でいったん受け入れた上で対応)	夜間の救急隊による産婦人科の搬送は、すべてオペレーターに照会することとしている。
救急医療情報システムの参照等	インターネット上の画面で周産期システムと救急システムの両方参照が可能	周産期システムのみ参照	インターネット上の画面で周産期システムと救急システムの両方参照が可能 ・コーディネーターがシステム上に載らない毎日の詳細応需情報を必要に応じ電話等により確認	・周産期システム、救急医療システムは使用せず以下により応需情報の確認 ・オペレーターが毎日の各医療機関(三次、二次)の応需状況(○、△、×)を電話で確認し、第1優先、第2優先病院を設定 ・各病院の応需情報はFAX・Eメールで医療機関に情報提供(別紙参照)
実施形態	県医師会へ委託	府立母子保健総合医療センターへ委託	20年度は亀田総合病院に委託	市が直接実施
備考(特色等)	・基幹病院の行う搬送調整業務のうち、電話連絡部分をオペレーターが行う。 ・平成19年度実績(19年4月20日～20年3月31日) 照会件数 590件 案内件数 389件 搬送先案内率(案内件数/照会件数) 約66%	・コーディネーターは病院の部長クラスやOBなど ・コーディネーターの対応件数 19年度(11/26～) 55件 20年度(～9月末) 108件 ※期間中の母子保健総合医療センターの対応件数は計401件	・コーディネーターが周産期医療情報システム上に載らない毎日の詳細応需情報を必要に応じ電話等により確認している。	・オペレーターがあらかじめ当日の各医療機関に応需情報を確認し、受入可能病院を確保 ・H20.10実績 三次病院への紹介件数 2件 二次病院への紹介件数 26件 患者相談件数 181件

【参考】人口動態統計(平成18年)

	神奈川県	大阪府	千葉県	札幌市	東京都
人口(千人)	8,710	8,642	5,999	1,889	12,405
出生数(人)	79,118	77,641	51,762	14,730	101,674

周産期救急受入機関紹介業務について

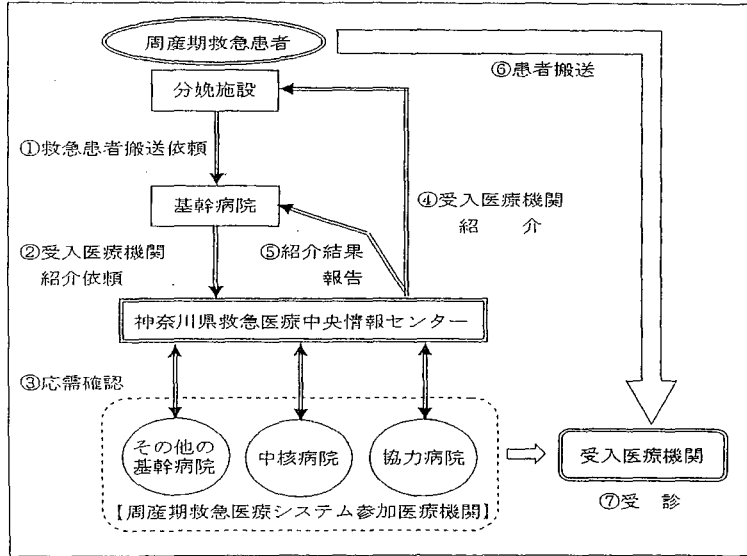
1 目的

周産期救急医療システムにおける基幹病院では、分娩施設からの周産期救急患者を24時間体制で受け入れるとともに、患者の症例に応じた受入先の斡旋業務を行っているが、産科医師の確保が困難な中で、緊急の搬送依頼の急増により、基幹病院の産科医師に多大な負担が生じていることから、県救急医療中央情報センターにおいて、患者の受け入れが可能な医療機関の紹介業務を行うこととし、基幹病院の産科医師の負担を軽減し、周産期救急医療体制の確保を図る。

2 事業内容

分娩施設からの周産期救急患者の搬送依頼について、基幹病院の指示のもと、県救急医療中央情報センターにおいて、周産期救急医療システム参加医療機関に対して応需確認を行い、受入医療機関を紹介するためのオペレータを新たに確保する。

<事業内容概要図>



(参考)

- 神奈川県周産期救急医療システム  
ハイリスクの妊婦から新生児まで高度な医療水準により一貫した救急医療体制を確保する仕組みとして県内を6ブロックに分けて運用している。医療機関の機能に応じて基幹病院（8病院）、中核病院（12病院）及び協力病院（11病院）が指定されており、基幹病院では24時間体制でブロック内での患者受入の調整を行うとともに、重症例を中心にあらゆる患者を受け入れる体制を確保している。
- 神奈川県救急医療中央情報センター  
24時間体制で消防本部等からの問い合わせに対して、救急患者の搬送が可能な医療機関の案内及び情報提供を実施している機関。

受付No.

周産期救急受入医療機関紹介業務調査票（産科応需用）

救急医療中央情報センター Fax 045-242-8844 (Tel 045-242-2287)

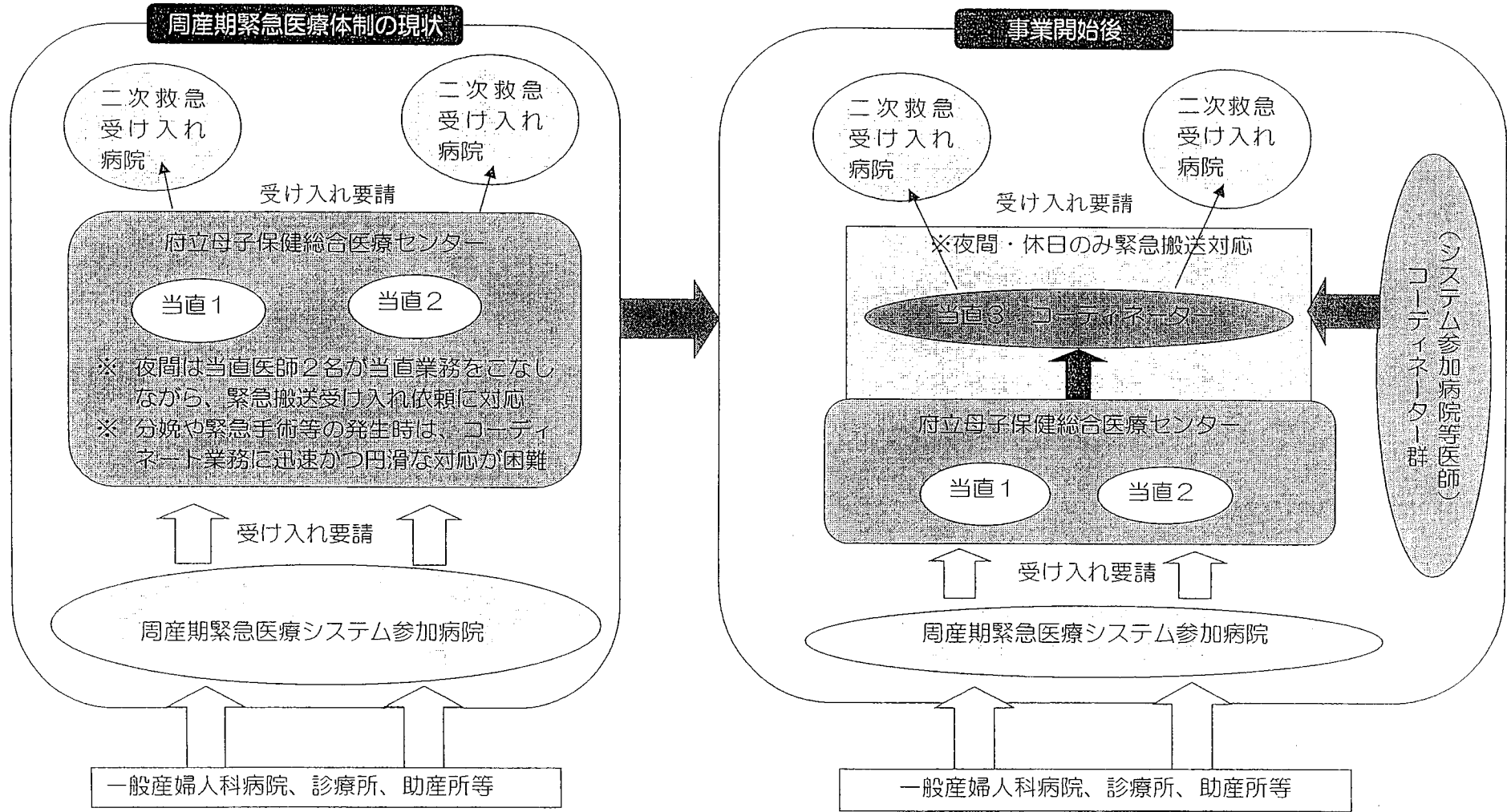
FAX送信日時		年 月 日 ( ) 時 分	
基幹病院	医療機関名	担当医	電話
依頼医療機関	医療機関名	担当医	電話

診断名 (妊娠 週 日 )	母親	氏名			
		年齢	歳	経産回数	回

- 胎児数 単胎 ・ 双胎 ・ 双胎以上 (児数 )  
膜性 ( DD ・ MD ・ MM ・ 不明 )
- 子宮口の状態 開大 cm 展退 %または cm 頸管長 mm  
胎胞形成の有無 ( 有 ・ 無 ) その他 ( )
- 破水 無 ・ 有  
日時 ( 月 日 時 )  
羊水流出 ( 継続 ・ ほとんど無 )  
羊水混濁 ( 無 ・ 有 )  
子宮内羊水量 (AFI) cm または羊水ポケット cm ・ 不明 )
- 推定児体重 ( g ) ( g ) ( g )  
羊水ポケット ( cm ) ( cm ) ( cm )
- 胎位 頭位 ・ 骨盤位 ・ その他 ( )  
☆多胎の場合はそれぞれの胎位
- 現在の治療 塩酸リトドリン 投与量 A × ml/hr  
マグネシウム製剤 投与量 g/hr ml/hr  
その他 ( )
- 子宮収縮 規則的 ・ 不規則  
分毎 → ~ 分毎
- 胎心拍 異常なし ・ 異常あり  
モニター所見 ①早発一過性徐脈  
②遅発一過性徐脈  
③変動一過性徐脈  
④基線細変動消失
- 臍帯動脈血流所見 ①異常なし ②中大脳動脈血流との逆転 ③途絶 ④逆流
- 母体データ 発熱 無 ・ 有 ( °C ) WBC /ul CRP mg/dl  
血圧 /
- 母体合併症 無 ・ 有 ( 喘息 ・ (妊娠) 高血圧症 ・ (妊娠) 糖尿病 ・ 前回帝王切開  
子宮手術既往 ・ 精神科疾患 ・ 感染症  
その他 ( ) )
- その他の情報



# 周産期緊急医療体制のコーディネーション





# 千葉県の母体搬送発生時の運用

紹介事例発生（産婦人科、診療所、協力病院）



2次医療圏内の地域周産期センタークラス施設<sup>注1)</sup>へ連絡して下さい<sup>注2)</sup>



受入不可



千葉県母体搬送コントロールセンター（090-2478-0883）へ連絡して下さい<sup>注3)</sup>



コーディネータが受入可能施設の照会を行います。決定した受入施設を母体搬送発生病院へ通知しますので、搬送受入病院へ連絡し、手続きを進めて下さい。



受入可能

## データ収集についてお願い

1) 搬送元施設は周産期患者診療情報提供書兼母体搬送報告書を作成し、診療情報提供書として患者とともに搬送先病院へ持参させてください。また、必ずコピーを取り自院のカルテに保存するとともに、同報告書を千葉県周産期ネットワーク事業コーディネータ（FAX: 04-7099-2367）にファックスで報告してください。県外搬送でも報告をお願い致します。

2) 搬送受入施設では、周産期患者診療情報提供書兼母体搬送報告書をカルテに保管し、到着時および退院時（分娩・転院・退院）に、受入病院記入欄を記入し、千葉県周産期ネットワーク事業コーディネータにファックスで報告してください。搬送元病院より提供書が送られてこなかった場合には、氏名、生年月日などの個人を特定できる内容は記載せずに報告書をFAXして下さい。

3) この内容については月報として報告いたし、県内の情報を皆様に提供するとともに今後の運営に役立ててまいりますのでご協力お願いいたします。

注1) 周産期センタークラス病院一覧参照

注2) 日常診療で良好な連携がとれていれば2次医療圏内に限りません。

注3) 周産期センタークラス病院が連絡不可能な場合には直接ご連絡下さい。

平成20年10月1日より運用する

## 周産期診療情報提供書 兼 母体搬送発生報告書

年 月 日

紹介先施設 \_\_\_\_\_ 担当医師 \_\_\_\_\_

紹介元施設 \_\_\_\_\_ 担当医師 \_\_\_\_\_

施設所在地 千葉県 \_\_\_\_\_ 市 \_\_\_\_\_ 電話番号 \_\_\_\_\_

依頼日時 200 年 月 日 時 分

患者氏名 \_\_\_\_\_ 年齢 \_\_\_\_\_ 才 生年月日 S・H 年 月 日

患者住所 \_\_\_\_\_ 電話番号 \_\_\_\_\_

妊娠週数 \_\_\_\_\_ 週 \_\_\_\_\_ 日 分娩予定日 200 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 初産・経産 ( ) 回

診断 切迫早産・前期破水・前置胎盤・妊娠高血圧症候群・胎児機能不全

### 現病歴

子宮収縮（なし・あり） 性器出血（なし・あり） 母体合併症（なし・あり： \_\_\_\_\_ )  
 破水（なし・あり： \_\_\_\_\_ 月 日 時 分） 母体感染症（なし・あり： \_\_\_\_\_ )  
 頸管所見： 頸管長 \_\_\_\_\_ cm 使用薬剤（なし・あり： \_\_\_\_\_ )  
 児推定体重： \_\_\_\_\_ g 胎位：頭位・骨盤位・横位  
 胎児心拍モニタリング所見（異常なし・あり： \_\_\_\_\_ )

### 患者受入時報告記入欄

入院時診断 \_\_\_\_\_

到着日時 200 年 月 日 時 分

搬送方法 救急車・ドクターヘリ・消防防災ヘリ ( \_\_\_\_\_ 市)・自家用車・その他 ( \_\_\_\_\_ )

### 患者経過最終報告記入欄

最終診断 \_\_\_\_\_

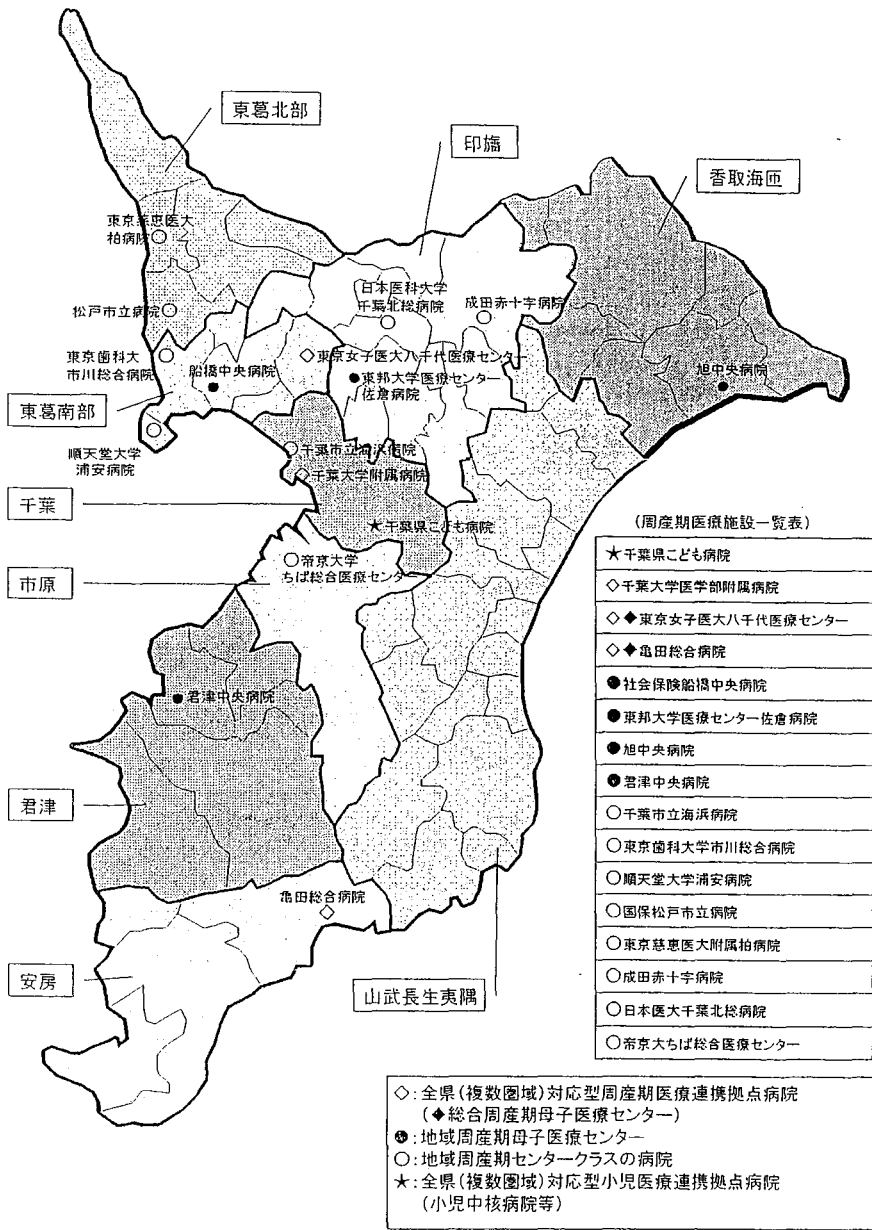
転帰 分娩 \_\_\_\_\_ 月 日 (在胎 \_\_\_\_\_ 週 日) 出生体重 \_\_\_\_\_ g

新生児 当院管理 新生児搬送 ( \_\_\_\_\_ 月 日 \_\_\_\_\_ 病院へ 詳細： \_\_\_\_\_ )

退院 \_\_\_\_\_ 月 日 搬送元病院へ転院 ( 入院 外来 ) 当院外来へ

他院へ再搬送 \_\_\_\_\_ 月 日 ( 詳細： \_\_\_\_\_ )

【 千葉県内の周産期母子医療センター及び同クラスの病院 】



## 【対策2】患者受入れ情報オペレーターの配置、患者相談窓口の設置

（事業目的）産婦人科疾患に関して、市民からの相談に対応するとともに、治療が必要な患者の搬送先を短時間で選択することにより、適切な医療を迅速に提供する。

## （事業内容）① 患者受入れ情報オペレーター業務

二次、三次医療機関からの当日の患者受入れ可否情報を定時に収集・集約しておき、救急隊や医療機関等から照会があった際に、受入れが可能な医療機関の情報を提供する。

## ② 患者相談窓口業務

専用回線により、産婦人科疾患を中心とした市民からの相談に対応する。相談内容に応じて、助言・指導、受診勧奨、情報提供、または病院選定のうえ搬送手配などを行う。

## （実施方法）① 試行期間は20年10月～21年3月の6か月間とする。

② 1か月ごとに短期検証を行う。

③ 担当者として助産師又は看護師を置くが、3か月の検証結果に基づき、必要に応じて産婦人科医師を配置して試行を継続し、双方の結果を比較する。

※ 助産師又は看護師のみを配置する体制を先行的に試行する根拠

現在の夜間急病センターでは、看護師が全診療科にわたる電話相談に対応していることから、次の段階として助産師等による産婦人科のみの相談対応を想定し、さらに次の段階として医師の配置による対応も想定することにより、段階的にそれぞれの効果を検証することが合理的と判断した。（医師の配置の必要性を検証する場合、医師を先行して配置すれば、その状態が基本となって助産師等のみ配置の検証にバイアスを生じる懸念がある。また、医療においては特に常に費用対効果を検証する必要があり、この試行案はそれらについても検証するのに有効である。）

11月 日 ( )

医療機関名	NICU 受入	産科 受入	更新時間	直接入力欄
三次救急医療機関				
病院	○	○	18時 00分	●本日の産科第1優先病院 19時～翌朝7時
病院	×	△	18時 03分	●本日の未受診妊婦受入病院(24週以上36週未満及び週数不明) 平日 17時から翌朝9時 ●明日の未受診妊婦受入病院(24週以上36週未満及び週数不明) 平日 17時から翌朝9時
病院	×	△	18時 05分	
病院	×	—	18時 08分	
準三次救急医療機関				
病院	×	×	17時 55分	●明日の未受診妊婦受入病院(24週以上36週未満及び週数不明) 平日 9時から17時
病院	×	×	17時 57分	

なお、本日の情報オペレーターは、  
、 が担当いたします。

11月 日 ( )

医療機関名	NICU相 当受入	産婦人 科受入	更新時間	直接入力欄
二次救急医療機関				
病院 (拠点病院)	—	○	18時 09分	●本日の拠点病院 平日 17時～翌朝9時 ●明日の拠点病院 平日 17時～翌朝9時 ●明日の未受診妊婦受入病院(24週未満及び36週以降) 平日 17時から翌朝9時
病院 (当番病院)	—	—	時 分	
病院 (当番病院)	—	—	時 分	
病院 (当番病院)	—	○	18時 12分	●本日の当番病院 17時～翌朝9時 ●本日の未受診妊婦受入病院(24週未満及び36週以降) 平日 17時から翌朝9時
病院 (当番病院)	—	—	時 分	
病院 (当番病院) ※婦人科のみ	—	—	時 分	

なお、本日の情報オペレーターは、  
、 が担当いたします。

## 地域周産期母子医療センター(各病院ごとに作成すること)

団体名(開設者)	病 院 名	所 在 地
日本赤十字社	葛飾赤十字産院	東京都 葛飾区 立石 5-11-12

## 1. 病院の現況(平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)

病床数	113床(うち一般病床 113床)	※一般病床とは、精神病床、感染症病床、結核病床を除いた病床を指します。			
標榜診療科名	<input type="checkbox"/> 内科 <input type="checkbox"/> 呼吸器内科 <input type="checkbox"/> 循環器内科 <input type="checkbox"/> 消化器内科 <input type="checkbox"/> 腎臓内科 <input type="checkbox"/> 神経内科 <input type="checkbox"/> 糖尿病内科 <input type="checkbox"/> 血液内科 <input type="checkbox"/> 皮膚科 <input type="checkbox"/> アレルギー科 <input type="checkbox"/> リウマチ科 <input type="checkbox"/> 感染症内科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児科 <input type="checkbox"/> 外科 <input type="checkbox"/> 心臓血管外科 <input type="checkbox"/> 脳神経外科 <input type="checkbox"/> 整形外科 <input type="checkbox"/> 小児外科 <input checked="" type="checkbox"/> 産婦人科 <input type="checkbox"/> 放射線科 <input type="checkbox"/> 麻酔科 <input type="checkbox"/> 病理診断科 <input type="checkbox"/> 臨床検査科 <input type="checkbox"/> 救急科 <input type="checkbox"/> その他( )				
救急救命センターの指定状況	<input type="checkbox"/> 指定されている <input checked="" type="checkbox"/> 指定されていない				
ドクターヘリ保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り( )台 <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
ドクターカー保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り( )台 うち新生児専用車両( )台 <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
【周産期医療に係る病床数等】	①MFCU (診療報酬非加算)	②一般産科病床	③NICU (診療報酬加算対象)	④NICU (診療報酬非加算)	⑤NICUに併設された新生児の回復期治療室(いわゆるGCU)
病床数(床)	0床	65床	9	床	39床

## 2. 地域周産期母子医療センターの運用状況(平成19年度実績)

【産科部門】	該当部分に○
1 ハイリスク妊娠に対応している(ハイリスク妊娠管理加算の対象)	○
2 ハイリスク妊娠管理加算の対象ではないが、ハイリスク妊娠に対応	
3 産科診療を行っているが、正常分娩が中心であり、ハイリスク妊娠は原則として対応していない	
4 現在、産科診療(分娩)の取扱いを休止中(下記項目について記載のこと)	
-いつから休止しているか:	
-休止の理由:	
-分娩取扱い再開の見込み:	
5 地域周産期センター認定時から産科を標榜していない	
【新生児部門】	該当部分に○
1 ハイリスク新生児に対応している(新生児特定集中治療室管理加算の対象)	○
2 新生児特定集中治療室管理加算加算の対象とはならないが、新生児科専任医師が勤務しており、ハイリスク新生児への対応を行っている	
3 新生児科専任医師は勤務していないが、常勤の小児科医又は産科医が新生児医療を担当	
4 現在、新生児医療の取扱いを休止中(下記項目について記載のこと)	
-いつから休止しているか:	
-休止の理由:	
-新生児医療再開の見込み:	
5 地域周産期センター認定時から新生児医療を取り扱っていない	

3. 救急搬送について（平成19年度実績）				
	新生児	母体		
搬送受入の要請のあった件数（件）	85	— 件	○ 搬送受入の要請のあった件数及び搬送受入できなかった件数については、不明。  ( )内は県外からの搬送数（再掲） ( )内はドクターカーによる搬送数（再掲） ( )内はドクターヘリによる搬送数（再掲）	
搬送を受入れた件数（件）	82	100件		
※「新生児」には母体搬送後の出産児は含まない	30件	18件		
	( )件	( )件		
	[ 0件]	[ 0件]		
搬送元内訳	①: 総合周産期母子医療センター	5件		1件
	②: 地域周産期母子医療センター	5件		2件
	③: ①、②以外の病院	68件		53件
	診療所	0件		件
	助産所	0件		0件
	その他/不明	(自宅) 4件	(自宅) 44件	
搬送受入ができなかった件数（件）	3件	— 件		
理由			(「④その他」の詳細)	
①NICUが満床であったため。	3件	— 件		
②MFICUが満床であったため。	0件	— 件		
③診療可能な医師がいなかったため。	0件	— 件		
④その他	0件	— 件		

4. 地域周産期医療センターの医師の勤務状況（平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付）				
※該当者なしの場合は、空欄とせず、0人と記入してください。				
【産科部門の医師数】	①周産期センター(産科)の専任医師	② ①以外で日中、産科診療(分娩)に従事する産科・産婦人科医師	③ 日勤帯は分娩に従事しないが、当直や緊急時に分娩に関与する医師	※③については、例えば、日勤帯は婦人科診療や不妊治療に専従しているが、当直等では分娩にも従事する産婦人科医が該当します。
常勤医師数 (研修医・レジデントを除く)	5人	0人	0人	
常勤の研修医・レジデントの数	2人	0人	0人	
非常勤医師	1.36人	0人	0人	
【新生児部門の医師数】	新生児科の専任医師	新生児科の専任ではないが、NICUでの診療にも従事する小児科医	※常勤・非常勤については、正規雇用か否かといった雇用形態を問わず、病院で定められた医師の勤務時間(1週間につき概ね32時間以上)を満たして就業する者を「常勤」という。 ※非常勤医師については、常勤換算とする。(職務に従事した非常勤医師の1週間の勤務時間合計を当該施設の通常の1週間の勤務時間で除した数)	
常勤医師数 (研修医・レジデントを除く)	5人	0人		
常勤の研修医・レジデントの数	0人	0人		
非常勤医師	0.1人	0人		
【医師の当直体制】	産科	新生児科(NICU)		
平日の夜間	2人	1人		
土曜日の昼間	2人	1人		
土曜日の夜間	2人	1人		
日曜日の昼間	2人	1人		
日曜日の夜間	2人	1人		

周産期母子医療センターの現況について

※通報値のため、精査の過程でデータが一部修正される可能性があることに留意願います。

【様式1】

総合周産期母子医療センター(各病院ごとに作成すること)

団体名(開設者)	病 院 名	所 在 地
社会福祉法人恩賜財団母子愛育会	愛育病院	東京都港区南麻布5丁目6番8号

1. 病院の現況(平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)

病床数	118 床(うち一般病床 118 床)	※一般病床とは、精神病床、感染症病床、結核病床を除いた病床を指します。			
標榜診療科名	<input checked="" type="checkbox"/> 内科 <input type="checkbox"/> 呼吸器内科 <input type="checkbox"/> 循環器内科 <input type="checkbox"/> 消化器内科 <input type="checkbox"/> 腎臓内科 <input type="checkbox"/> 神経内科 <input type="checkbox"/> 糖尿病内科 <input type="checkbox"/> 血液内科 <input checked="" type="checkbox"/> 皮膚科 <input type="checkbox"/> アレルギー科 <input type="checkbox"/> リウマチ科 <input type="checkbox"/> 感染症内科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児科 <input type="checkbox"/> 外科 <input type="checkbox"/> 心臓血管外科 <input type="checkbox"/> 脳神経外科 <input type="checkbox"/> 整形外科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児外科 <input checked="" type="checkbox"/> 産婦人科 <input type="checkbox"/> 放射線科 <input checked="" type="checkbox"/> 麻酔科 <input type="checkbox"/> 病理診断科 <input type="checkbox"/> 臨床検査科 <input type="checkbox"/> 救急科 <input type="checkbox"/> その他( )				
救急救命センターの指定状況	<input type="checkbox"/> 指定されている <input checked="" type="checkbox"/> 指定されていない				
ドクターヘリ保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り( 台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
ドクターカー保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り( 台)うち新生児専用車両( 台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
病床数等	①NICU	②MFICU	③NICUに併設された新生児の回復期治療室(いわゆるGCU)	④MFICUに併設された産科の回復期治療室(後方病室)	⑤一般の産科病床(②、④を除く院内の産科病床)
病床数(床)	9床	6床	26床	59床	0床
うち診療報酬上の総合周産期特定集中治療室管理料の届出病床数(床)	9床	6床			

2. 総合周産期母子医療センターの病床稼働状況(平成19年度実績)

病床	NICU	MFICU	
年間延利用日数(日)	3,206日	1,571日	※「年間延利用日数」欄は、開設日数-未利用日数ではなく、ベッド毎の年間延利用日数の合計を記入すること。
平均入院期間(日)	19日	4日	
最大入院期間(日)	193日	37日	
病床利用率(%)	97.60%	71.74%	※病床利用率=一日平均入院患者数×100÷病床数 100%を超える場合はそのまま記載し、100%止まりで集計する場合はその旨を記載して下さい。
年間利用実人員(人)	173人	469人	

3. 救急搬送について (平成19年度実績)				
		新生児	母体	※「新生児」には母体搬送後の出産児は含まない
搬送受入の要請のあった件数(件)		17件	208件	
搬送を受入れた件数(件)		15件	77件	
		( 2 件 ) ( 5 件 )	( )内は県外からの搬送数	
		( 0 件 ) ( 0 件 )	( )内はドクターカーによる搬送数	
		[ 0 件 ] [ 0 件 ]	[ ]内はドクターヘリによる搬送数	
搬送元内訳	①: 総合周産期母子医療センター	件	2件	
	②: 地域周産期母子医療センター	件	5件	
	③: ①、②以外の病院	15件	46件	
	診療所	件	17件	
	助産所	件	件	
	その他/不明	件	7件	
搬送受入ができなかった件数(件)		2件	131件	
理由		(「④その他」の詳細) 1 産科以外の合併症に対する専門診療科がないため 2 母体の全身状態が極めて不良で、当院は救命科がないため 3 他の搬送先が見つかったため		
①NICUが満床であったため		2件	111件	
②MFICUが満床であったため		0件	5件	
③診療可能な医師がいなかったため		0件	0件	
④その他		0件	15件	

4. 総合周産期医療センターの医師の勤務状況 (平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)				
※医師数については、先般緊急にお伺いした内容と重複しますが、再度ご記入をお願いいたします。				
※該当者なしの場合は、空欄とせず、0人と記入してください。				
【産科部門の医師数】	①周産期センター(産科)の専任医師	② ①以外で日中、産科診療(分娩)に従事する産科・産婦人科医師	③ 日勤帯は分娩に従事しないが、当直や緊急時に分娩に関与する医師	※③については、例えば、日勤帯は婦人科診療や不妊治療に専従しているが、当直等では分娩にも従事する産婦人科医が該当します。*後期研修医はレジデントとして記載している。
常勤医師数 (研修医・レジデントを除く)	6人	0人	0人	
研修医・レジデントの数	7人	0人	0人	
非常勤医師	0人	03人	1.4人	
【新生児部門の医師数】	新生児科の専任医師	新生児科の専任ではないが、NICUでの診療にも従事する小児科医	※常勤・非常勤については、正規雇用か否かといった雇用形態を問わず、病院で定められた医師の勤務時間(1週間につき概ね32時間以上)を満たして就業する者を「常勤」という。 ※非常勤医師については、常勤換算とする。(職務に従事した非常勤医師の1週間の勤務時間合計を当該施設の通常の1週間の勤務時間で除した数)	
常勤医師数 (研修医・レジデントを除く)	6人	0人		
研修医・レジデントの数	2人	0人		
非常勤医師	0人	0人		
【医師の当直体制】	産科(MFICU)	新生児科(NICU)		
平日の夜間	2人	1人		
土曜日の昼間	2人	1人		
土曜日の夜間	2人	1人		
日曜日の昼間	2人	1人		
日曜日の夜間	2人	1人		



※速報値のため、精査の過程でデータが一部修正される可能性があることに留意願います。

総合周産期母子医療センター(各病院ごとに作成すること)

団体名(開設者)	病 院 名	所 在 地
社会福祉法人恩賜財団母子愛育会	愛育病院	東京都港区南麻布5丁目6番8号

1 病院の現況 (平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)					
病床数	118 床(うち一般病床 118 床)		※一般病床とは、精神病床、感染症病床、結核病床を除いた病床を指します。		
標榜診療科名	<input checked="" type="checkbox"/> 内科 <input type="checkbox"/> 呼吸器内科 <input type="checkbox"/> 循環器内科 <input type="checkbox"/> 消化器内科 <input type="checkbox"/> 腎臓内科 <input type="checkbox"/> 神経内科 <input type="checkbox"/> 糖尿病内科 <input type="checkbox"/> 血液内科 <input checked="" type="checkbox"/> 皮膚科 <input type="checkbox"/> アレルギー科 <input type="checkbox"/> リウマチ科 <input type="checkbox"/> 感染症内科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児科 <input type="checkbox"/> 外科 <input type="checkbox"/> 心臓血管外科 <input type="checkbox"/> 脳神経外科 <input type="checkbox"/> 整形外科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児外科 <input checked="" type="checkbox"/> 産婦人科 <input type="checkbox"/> 放射線科 <input checked="" type="checkbox"/> 麻酔科 <input type="checkbox"/> 病理診断科 <input type="checkbox"/> 臨床検査科 <input type="checkbox"/> 救急科 <input type="checkbox"/> その他( )				
救急救命センターの指定状況	<input type="checkbox"/> 指定されている <input checked="" type="checkbox"/> 指定されていない				
ドクターヘリ保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り( )台 <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
ドクターカー保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り( )台 うち新生児専用車両( )台 <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
病床数等	①NICU	②MFICU	③NICUに併設された新生児の回復期治療室(いわゆるGCU)	④MFICUに併設された産科の回復期治療室(後方病室)	⑤一般の産科病床(②、④を除く院内の産科病床)
病床数(床)	9床	6床	26床	59床	0床
うち診療報酬上の総合周産期特定集中治療室管理料の届出病床数(床)	9床	6床			

2. 総合周産期母子医療センターの病床稼働状況 (平成19年度実績)				
病床	NICU	MFICU		
年間延利用日数(日)	3,206日	1,571日	※「年間延利用日数」欄は、開設日数-未利用日数ではなく、ベッド毎の年間延利用日数の合計を記入すること。	
平均入院期間(日)	19日	4日		
最大入院期間(日)	193日	37日		
病床利用率(%)	97.60%	71.74%	※病床利用率=一日平均入院患者数×100÷病床数 100%を超える場合はそのまま記載し、100%止まりで集計する場合はその旨を記載して下さい。	
年間利用実人員(人)	173人	469人		

3. 救急搬送について（平成19年度実績）				
		新生児	母体	※「新生児」には母体搬送後の出産児は含まない
搬送受入の要請のあった件数(件)		17件	208件	
搬送を受入れた件数(件)		15件	77件	
		( 2 件 ) ( 5 件 )	( )内は県外からの搬送数	
		( 0 件 ) ( 0 件 )	( )内はドクターカーによる搬送数	
		[ 0 件 ] [ 0 件 ]	[ ]内はドクターヘリによる搬送数	
搬送元内訳	①:総合周産期母子医療センター	件	2件	
	②:地域周産期母子医療センター	件	5件	
	③:①、②以外の病院	15件	46件	
	診療所	件	17件	
	助産所	件	件	
	その他/不明	件	7件	
搬送受入ができなかった件数(件)		2件	131件	
理由		(「④その他」の詳細) 1 産科以外の合併症に対する専門診療科がないため 2 母体の全身状態が極めて不良で、当院は救命科がないため 3 他の搬送先が見つかったため		
①NICUが満床であったため		2件	111件	
②MFICUが満床であったため		0件	5件	
③診療可能な医師がいなかったため		0件	0件	
④その他		0件	15件	

4. 総合周産期医療センターの医師の勤務状況（平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付）				
※医師数については、先般緊急にお伺いした内容と重複しますが、再度ご記入をお願いいたします。				
※該当者なしの場合は、空欄とせず、0人と記入してください。				
【産科部門の医師数】	①周産期センター(産科)の専任医師	② ①以外で日中、産科診療(分娩)に従事する産科・産婦人科医師	③ 日勤帯は分娩に従事しないが、当直や緊急時に分娩に関する医師	※③については、例えば、日勤帯は婦人科診療や不妊治療に専従しているが、当直等では分娩にも従事する産婦人科医が該当します。*後期研修医はレジデントとして記載している。
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	6人	0人	0人	
研修医・レジデントの数	7人	0人	0人	
非常勤医師	0人	03人	1.4人	
【新生児部門の医師数】	新生児科の専任医師	新生児科の専任ではないが、NICUでの診療にも従事する小児科医	※常勤・非常勤については、正規雇用か否かといった雇用形態を問わず、病院で定められた医師の勤務時間(1週間につき概ね32時間以上)を満たして就業する者を「常勤」という。 ※非常勤医師については、常勤換算とする。(職務に従事した非常勤医師の1週間の勤務時間合計を当該施設の通常の1週間の勤務時間で除した数)	
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	6人	0人		
研修医・レジデントの数	2人	0人		
非常勤医師	0人	0人		
【医師の当直体制】	産科(MFICU)	新生児科(NICU)		
平日の夜間	2人	1人		
土曜日の昼間	2人	1人		
土曜日の夜間	2人	1人		
日曜日の昼間	2人	1人		
日曜日の夜間	2人	1人		

## 総合周産期母子医療センター(各病院ごとに作成すること)

団体名(開設者)	病 院 名	所 在 地
学校法人 東京女子医科大学 理事長 吉岡 博光	東京女子医科大学病院	東京都新宿区河田町8番1号

## 1. 病院の現況(平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)

病床数	1,423床(うち一般病床 1,358床)		※一般病床とは、精神病床、感染症病床、結核病床を除いた病床を指します。		
標榜診療科名	内科、精神科、神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、気管食道科、放射線科、麻酔科、歯科、矯正歯科、小児歯科、歯科口腔外科				
救急救命センターの指定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 指定されている <input type="checkbox"/> 指定されていない				
ドクターヘリ保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り(      台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
ドクターカー保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り(      台)うち新生児専用車両(      台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
病床数等	①NICU	②MFICU	③NICUに併設された新生児の回復期治療室(いわゆるGCU)	④MFICUに併設された産科の回復期治療室(後方病室)	⑤一般の産科病床(②、④を除く院内の産科病床)
病床数(床)	12 床	9 床	24 床	33 床	0 床
うち診療報酬上の総合周産期特定集中治療室管理料の届出病床数(床)	12 床	9 床			

## 2. 総合周産期母子医療センターの病床稼働状況(平成19年度実績)

病床	NICU	MFICU	
年間延利用日数(日)	4,057 日	2,515 日	※「年間延利用日数」欄は、開設日数ー未利用日数ではなく、ベッド毎の年間延利用日数の合計を記入すること。
平均入院期間(日)	26.2 日	5.6 日	
最大入院期間(日)	93 日	88 日	
病床利用率(%)	92%	76%	※病床利用率＝一日平均入院患者数×100÷病床数 100%を超える場合はそのまま記載し、100%止まりで集計する場合はその旨を記載して下さい。
年間利用実人員(人)	176 人	424 人	

3. 救急搬送について (平成19年度実績)				
		新生児	母体	※「新生児」には母体搬送後の出産児は含まない
搬送受入の要請のあった件数(件)		33 件	344 件	
搬送を受入れた件数(件)		26 件	126 件	
		( 0 件)	( 0 件)	( )内は県外からの搬送数
		( 0 件)	( 0 件)	( )内はドクターカーによる搬送数
		[ 0 件]	[ 0 件]	[ ]内はドクターヘリによる搬送数
搬送元内訳	①:総合周産期母子医療センター	0 件	2 件	
	②:地域周産期母子医療センター	0 件	7 件	
	③:①、②以外の病院	24 件	109 件	
	診療所	0 件	0 件	
	助産所	0 件	0 件	
	その他/不明	2 件	8 件	(自宅7件/その他3件)
搬送受入ができなかった件数(件)		7 件	218 件	
理由		(「④その他」の詳細)		
①NICUが満床であったため		7 件	218 件	
②MFICUが満床であったため		0 件	0 件	
③診療可能な医師がいなかったため		0 件	0 件	
④その他		0 件	0 件	

4. 総合周産期医療センターの医師の勤務状況 (平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)				
※医師数については、先般緊急にお伺いした内容と重複しますが、再度ご記入をお願いいたします。				
※該当者なしの場合は、空欄とせず、0人と記入してください。				
【産科部門の医師数】	①周産期センター(産科)の専任医師	② ①以外で日中、産科診療(分娩)に従事する産科・産婦人科医師	③ 日勤帯は分娩に従事しないが、当直や緊急時に分娩に関与する医師	※③については、例えば、日勤帯は婦人科診療や不妊治療に専従しているが、当直等では分娩にも従事する産婦人科医が該当します。
常勤医師数 (研修医・レジデントを除く)	10 人	10 人	10 人	
研修医・レジデントの数	2 人	3 人	3 人	
非常勤医師	0 人	0 人	0 人	
【新生児部門の医師数】	新生児科の専任医師	新生児科の専任ではないが、NICUでの診療にも従事する小児科医	※常勤・非常勤については、正規雇用か否かといった雇用形態を問わず、病院で定められた医師の勤務時間(1週間につき概ね32時間以上)を満たして就業する者を「常勤」という。 ※非常勤医師については、常勤換算とする。(職務に従事した非常勤医師の1週間の勤務時間合計を当該施設の通常の1週間の勤務時間で除した数)	
常勤医師数 (研修医・レジデントを除く)	7 人	1 人		
研修医・レジデントの数	0 人	0 人		
非常勤医師	0 人	0 人		
【医師の当直体制】	産科(MFICU)	新生児科(NICU)		
平日の夜間	3 人	1~2 人		
土曜日の昼間	3 人	1~2 人		
土曜日の夜間	3 人	1~2 人		
日曜日の昼間	3 人	1~2 人		
日曜日の夜間	3 人	1~2 人		

総合周産期母子医療センター(各病院ごとに作成すること)

団体名(開設者)	病 院 名	所 在 地
学校法人 昭和大学	昭和大学病院	東京都品川区旗の台一丁目5番8号

1. 病院の現況(平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)

病床数	853 床(うち一般病床 853 床)		※一般病床とは、精神病床、感染症病床、結核病床を除いた病床を指します。		
標榜診療科名	<input type="checkbox"/> 内科 <input checked="" type="checkbox"/> 呼吸器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 循環器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 消化器内科 <input type="checkbox"/> 腎臓内科 <input checked="" type="checkbox"/> 神経内科 <input checked="" type="checkbox"/> 糖尿病内科 <input type="checkbox"/> 血液内科 <input checked="" type="checkbox"/> 皮膚科 <input checked="" type="checkbox"/> アレルギー科 <input checked="" type="checkbox"/> リウマチ科 <input checked="" type="checkbox"/> 感染症内科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児科 <input type="checkbox"/> 外科 <input checked="" type="checkbox"/> 心臓血管外科 <input checked="" type="checkbox"/> 脳神経外科 <input checked="" type="checkbox"/> 整形外科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児外科 <input type="checkbox"/> 産婦人科 <input type="checkbox"/> 放射線科 <input checked="" type="checkbox"/> 麻酔科 <input checked="" type="checkbox"/> 病理診断科 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査科 <input checked="" type="checkbox"/> 救急科 <input checked="" type="checkbox"/> その他(代謝内科、内分泌内科、腫瘍内科、精神科、肛門外科、消化器外科、乳腺外科、内分泌外科、呼吸器外科、リハビリテーション科、形成外科、美容外科、産科、婦人科、耳鼻咽喉科、気管・食道外科、眼科、泌尿器科、性病科、放射線診断科、放射線治療科、歯科)				
救急救命センターの指定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 指定されている <input type="checkbox"/> 指定されていない				
ドクターヘリ保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り( 台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
ドクターカー保有の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有り( 1 台)うち新生児専用車両( 0 台) <input type="checkbox"/> 無し				
病床数等	①NICU	②MFICU	③NICUに併設された新生児の回復期治療室(いわゆるGCU)	④MFICUに併設された産科の回復期治療室(後方病室)	⑤一般の産科病床(②、④を除く院内の産科病床)
病床数(床)	9床	6床	23床	0床	75床(婦人科含む)
うち診療報酬上の総合周産期特定集中治療室管理料の届出病床数(床)	9床	6床			

2. 総合周産期母子医療センターの病床稼働状況(平成19年度実績)

病床	NICU	MFICU	
年間延利用日数(日)	3198日	1704日	※「年間延利用日数」欄は、開設日数一未利用日数ではなく、ベッド毎の年間延利用日数の合計を記入すること。
平均入院期間(日)	20.9日	12.0日	
最大入院期間(日)	90日	70日	
病床利用率(%)	97.10%	77.60%	※病床利用率=一日平均入院患者数×100÷病床数 100%を超える場合はそのまま記載し、100%止まりで集計する場合はその旨を記載して下さい
年間利用実人員(人)	153人	142人	

3. 救急搬送について (平成19年度実績)				
		新生児	母体	※「新生児」には母体搬送後の出産児は含まない
搬送受入の要請のあった件数(件)		24件	232件	
搬送を受入れた件数(件)		24件	62件	
		( 2件)	( 12件)	( )内は県外からの搬送数
		( 0件)	( 0件)	( )内はドクターカーによる搬送数
		[ 0件]	[ 0件]	[ ]内はドクターヘリによる搬送数
搬送元内訳	①: 総合周産期母子医療センター	1件	4件	
	②: 地域周産期母子医療センター	3件	1件	
	③: ①、②以外の病院	19件	52件	
	診療所	0件	0件	
	助産所	0件	0件	
	その他/不明	1件	5件	
搬送受入ができなかった件数(件)		0件	170件	
理由				(「④その他」の詳細)
①NICUが満床であったため		0件	69件	NICUおよびMFICUが満床であったため
②MFICUが満床であったため		0件	25件	
③診療可能な医師がいなかったため		0件	0件	
④その他		0件	76件	

4. 総合周産期医療センターの医師の勤務状況 (平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)				
※医師数については、先般緊急にお伺いした内容と重複しますが、再度ご記入をお願いいたします。				
※該当者なしの場合は、空欄とせず、0人と記入してください。				
【産科部門の医師数】	①周産期センター(産科)の専任医師	② ①以外で日中、産科診療(分娩)に従事する産科・産婦人科医師	③ 日勤帯は分娩に従事しないが、当直や緊急時に分娩に関与する医師	※③については、例えば、日勤帯は婦人科診療や不妊治療に専従しているが、当直等では分娩にも従事する産婦人科医が該当します。
常勤医師数 (研修医・レジデントを除く)	13人	0人	17人	
研修医・レジデントの数	2人	0人	2人	
非常勤医師	0人	0人	0人	
【新生児部門の医師数】	新生児科の専任医師	新生児科の専任ではないが、NICUでの診療にも従事する小児科医	※常勤・非常勤については、正規雇用か否かといった雇用形態を問わず、病院で定められた医師の勤務時間(1週間につき概ね32時間以上)を満たして就業する者を「常勤」という。 ※非常勤医師については、常勤換算とする。(職務に従事した非常勤医師の1週間の勤務時間合計を当該施設の通常の1週間の勤務時間で除した数)	
常勤医師数 (研修医・レジデントを除く)	8人	0人		
研修医・レジデントの数	2人	0人		
非常勤医師	0人	0人		
【医師の当直体制】	産科(MFICU)	新生児科(NICU)		
平日の夜間	3人	1人		
土曜日の昼間	3人	1人		
土曜日の夜間	3人	1人		
日曜日の昼間	3人	1人		
日曜日の夜間	3人	1人		

総合周産期母子医療センター(各病院ごとに作成すること)

団体名(開設者)	病 院 名	所 在 地
学校法人 東邦大学 理事長 伊藤 元博	東邦大学医療センター大森病院	東京都大田区大森西6-11-1

1. 病院の現況 (平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)					
病床数	1021床(うち一般病床 985床)		※一般病床とは、精神病床、感染症病床、結核病床を除いた病床を指します。		
標榜診療科名	<input checked="" type="checkbox"/> 内科 <input checked="" type="checkbox"/> 呼吸器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 循環器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 消化器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 腎臓内科 <input checked="" type="checkbox"/> 神経内科 <input type="checkbox"/> 糖尿病内科 <input type="checkbox"/> 血液内科 <input checked="" type="checkbox"/> 皮膚科 <input checked="" type="checkbox"/> アレルギー科 <input checked="" type="checkbox"/> リウマチ科 <input type="checkbox"/> 感染症内科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児科 <input checked="" type="checkbox"/> 外科 <input checked="" type="checkbox"/> 心臓血管外科 <input checked="" type="checkbox"/> 脳神経外科 <input checked="" type="checkbox"/> 整形外科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児外科 <input checked="" type="checkbox"/> 産婦人科 <input checked="" type="checkbox"/> 放射線科 <input checked="" type="checkbox"/> 麻酔科 <input type="checkbox"/> 病理診断科 <input type="checkbox"/> 臨床検査科 <input type="checkbox"/> 救急科 <input type="checkbox"/> その他( )				
救急救命センターの指定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 指定されている <input type="checkbox"/> 指定されていない				
ドクターヘリ保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り( )台 <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
ドクターカー保有の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有り( 1台)うち新生児専用車両( )台 <input type="checkbox"/> 無し				
病床数等	①NICU	②MFICU	③NICUに併設された新生児の回復期治療室(いわゆるGCU)	④MFICUに併設された産科の回復期治療室(後方病室)	⑤一般の産科病床(②、④を除く院内の産科病床)
病床数(床)	12床	9床	24床	42床	床
うち診療報酬上の総合周産期特定集中治療室管理料の届出病床数(床)	12床	9床			

2. 総合周産期母子医療センターの病床稼働状況 (平成19年度実績)				
病床	NICU	MFICU		
年間延利用日数(日)	4392日	3294日	※「年間延利用日数」欄は、開設日数-未利用日数ではなく、ベッド毎の年間延利用日数の合計を記入すること。	
平均入院期間(日)	日	日		
最大入院期間(日)	日	日		
病床利用率(%)	93%	81%	※病床利用率=一日平均入院患者数×100÷病床数 100%を超える場合はそのまま記載し、100%止まりで集計する場合はその旨を記載して下さい	
年間利用実人員(人)	117人	179人		

3. 救急搬送について (平成19年度実績)					
		新生児	母体	※「新生児」には母体搬送後の出産児は含まない  ( )内は県外からの搬送数 ( )内はドクターカーによる搬送数 ( )内はドクターヘリによる搬送数	
搬送受入の要請のあった件数(件)		57件	277件		
搬送を受入れた件数(件)		40件	73件		
		( )件	( )件		
		( )件	( )件		
搬送元内訳		①: 総合周産期母子医療センター	1件		0件
		②: 地域周産期母子医療センター	0件		1件
		③: ①、②以外の病院	37件		67件
		診療所	0件		0件
		助産所	0件		0件
		その他/不明	2件	5件	
搬送受入ができなかった件数(件)		17件	204件		
理由				(「④その他」の詳細) 概ね、NICU満床による	
①NICUが満床であったため		件	件		
②MFICUが満床であったため		件	件		
③診療可能な医師がいなかったため		件	件		
④その他		件	件		

4. 総合周産期医療センターの医師の勤務状況 (平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)				
※医師数については、先般緊急にお伺いした内容と重複しますが、再度ご記入をお願いいたします。				
※該当者なしの場合は、空欄とせず、0人と記入してください。				
【産科部門の医師数】	①周産期センター(産科)の専任医師	② ①以外で日中、産科診療(分娩)に従事する産科・産婦人科医師	③ 日勤帯は分娩に従事しないが、当直や緊急時に分娩に関与する医師	※③については、例えば、日勤帯は婦人科診療や不妊治療に専従しているが、当直等では分娩にも従事する産婦人科医師が該当します。
常勤医師数 (研修医・レジデントを除く)	12人	0人	12人	
研修医・レジデントの数	10人	0人	10人	
非常勤医師	0人	0人	0人	
【新生児部門の医師数】	新生児科の専任医師	新生児科の専任ではないが、NICUでの診療にも従事する小児科医	※常勤・非常勤については、正規雇用か否かといった雇用形態を問わず、病院で定められた医師の勤務時間(1週間につき概ね32時間以上)を満たして就業する者を「常勤」という。 ※非常勤医師については、常勤換算とする。(職務に従事した非常勤医師の1週間の勤務時間合計を当該施設の通常の1週間の勤務時間で除した数)	
常勤医師数 (研修医・レジデントを除く)	5人	0人		
研修医・レジデントの数	0人	0人		
非常勤医師	1人	0人		
【医師の当直体制】	産科(MFICU)	新生児科(NICU)		
平日の夜間	3人	1~2人		
土曜日の昼間	3人	1~2人		
土曜日の夜間	3人	1~2人		
日曜日の昼間	3人	1~2人		
日曜日の夜間	3人	1~2人		



総合周産期母子医療センター(各病院ごとに作成すること)

団体名(開設者)	病 院 名	所 在 地
日本赤十字社 社長 近衛忠輝	日本赤十字社医療センター	東京都渋谷区広尾4-1-22

1. 病院の現況(平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)

病床数	733床(うち一般病床733床)		※一般病床とは、精神病床、感染症病床、結核病床を除いた病床を指します。		
標榜診療科名	<input checked="" type="checkbox"/> 内科 <input checked="" type="checkbox"/> 呼吸器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 循環器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 消化器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 腎臓内科 <input checked="" type="checkbox"/> 神経内科 <input type="checkbox"/> 糖尿病内科 <input checked="" type="checkbox"/> 血液内科 <input checked="" type="checkbox"/> 皮膚科 <input checked="" type="checkbox"/> アレルギー科 <input checked="" type="checkbox"/> リウマチ科 <input type="checkbox"/> 感染症内科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児科 <input checked="" type="checkbox"/> 外科 <input checked="" type="checkbox"/> 心臓血管外科 <input checked="" type="checkbox"/> 脳神経外科 <input checked="" type="checkbox"/> 整形外科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児外科 <input type="checkbox"/> 産婦人科 <input checked="" type="checkbox"/> 放射線科 <input checked="" type="checkbox"/> 麻酔科 <input type="checkbox"/> 病理診断科 <input type="checkbox"/> 臨床検査科 <input type="checkbox"/> 救急科 <input checked="" type="checkbox"/> その他(精神科、呼吸器外科、乳腺外科、消化器外科、産科、婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科)				
救急救命センターの指定状況	<input type="checkbox"/> 指定されている <input checked="" type="checkbox"/> 指定されていない				
ドクターヘリ保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り(            台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
ドクターカー保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り(            台)うち新生児専用車両(            台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
病床数等	①NICU	②MFICU	③NICUに併設された新生児の回復期治療室(いわゆるGCU)	④MFICUに併設された産科の回復期治療室(後方病室)	⑤一般の産科病床(②、④を除く院内の産科病床)
病床数(床)	12床	6床	40床	0床	100床
うち診療範囲上の総合周産期特定集中治療室管理料の届出病床数(床)	12床	6床			

2. 総合周産期母子医療センターの病床稼働状況(平成19年度実績)

病床	NICU	MFICU	
年間延利用日数(日)	4380日	2190日	※「年間延利用日数」欄は、開設日数一未利用日数ではなく、ベッド毎の年間延利用日数の合計を記入すること。
平均入院期間(日)	17.0日	8.4日	
最大入院期間(日)	90日	14日	
病床利用率(%)	98.60%	86.40%	※病床利用率=一日平均入院患者数×100÷病床数 100%を超える場合はそのまま記載し、100%止まりで集計する場合はその旨を記載して下さい。
年間利用実人員(人)	260人	230人	

3. 救急搬送について（平成19年度実績）				
		新生児	母体	※「新生児」には母体搬送後の出産児は含まない
搬送受入の要請のあった件数(件)		195件	362件	
搬送を受入れた件数(件)		137件	185件	
		( )件	( 11件)	( )内は県外からの搬送数
		< 0件>	< 0件>	< )内はドクターカーによる搬送数
		[ 0件]	[ 0件]	[ ]内はドクターヘリによる搬送数
搬送元内訳	①:総合周産期母子医療センター	23件	9件	
	②:地域周産期母子医療センター	18件	7件	
	③:①、②以外の病院			
	診療所	94件	158件	
	助産所			
	その他/不明	2件	11件	
搬送受入ができなかった件数(件)		58件	177件	
理由				(「④その他」の詳細)
①NICUが満床であったため		58件	0件	注)NICU及びMFICUについては、搬送の受け入れができない理由として、病床が満床の場合がほとんどです。また、医師が他の症例に対応中の場合もありますが、いくつかの要因が重なりその時、その状況において搬送が受け入れられない場合があります。つきましては、明確な数値を割り振ることが困難なことから、左記の記載といたしました。但し、当センターは診療可能な医師がいない理由で、搬送が受け入れられないことはありません。
②MFICUが満床であったため		0件	177件	
③診療可能な医師がいなかったため		0件	0件	
④その他		0件	0件	

4. 総合周産期医療センターの医師の勤務状況（平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付）				
※医師数については、先般緊急にお伺いした内容と重複しますが、再度ご記入をお願いいたします。				
※該当者なしの場合は、空欄とせず、0人と記入してください。				
【産科部門の医師数】	①周産期センター(産科)の専任医師	② ①以外で日中、産科診療(分娩)に従事する産科・産婦人科医師	③ 日勤帯は分娩に従事しないが、当直や緊急時に分娩に関与する医師	※③については、例えば、日勤帯は婦人科診療や不妊治療に専従しているが、当直等では分娩にも従事する産婦人科医が該当します。
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	11人	0人	0人	
研修医・レジデントの数	12人	0人	0人	
非常勤医師	0人	0人	0人	
【新生児部門の医師数】	新生児科の専任医師	新生児科の専任ではないが、NICUでの診療にも従事する小児科医	※常勤・非常勤については、正規雇用か否かといった雇用形態を問わず、病院で定められた医師の勤務時間(1週間に付き概ね32時間以上)を満たして就業する者を「常勤」という。 ※非常勤医師については、常勤換算とする。(職務に従事した非常勤医師の1週間の勤務時間合計を当該施設の通常の1週間の勤務時間で除した数)	
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	6人	0人		
研修医・レジデントの数	1人	0人		
非常勤医師	人	0人		
【医師の当直体制】	産科(MFICU)	新生児科(NICU)		
平日の夜間	3人	1人		
土曜日の昼間	3人	1人		
土曜日の夜間	3人	1人		
日曜日の昼間	3人	1人		
日曜日の夜間	3人	1人		

総合周産期母子医療センター(各病院ごとに作成すること)

団体名(開設者)	病 院 名	所 在 地
学校法人	帝京大学医学部附属病院	東京都板橋区加賀2-11-1

1. 病院の現況 (平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)

病床数	1,154床(うち一般病床1,107床)		※一般病床とは、精神病床、感染症病床、結核病床を除いた病床を指します。		
標榜診療科名	<input checked="" type="checkbox"/> 内科 <input type="checkbox"/> 呼吸器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 循環器内科 <input type="checkbox"/> 消化器内科 <input type="checkbox"/> 腎臓内科 <input checked="" type="checkbox"/> 神経内科 <input type="checkbox"/> 糖尿病内科 <input type="checkbox"/> 血液内科 <input checked="" type="checkbox"/> 皮膚科 <input type="checkbox"/> アレルギー科 <input type="checkbox"/> リウマチ科 <input type="checkbox"/> 感染症内科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児科 <input checked="" type="checkbox"/> 外科 <input checked="" type="checkbox"/> 心臓血管外科 <input checked="" type="checkbox"/> 脳神経外科 <input checked="" type="checkbox"/> 整形外科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児外科 <input checked="" type="checkbox"/> 産婦人科 <input checked="" type="checkbox"/> 放射線科 <input checked="" type="checkbox"/> 麻酔科 <input type="checkbox"/> 病理診断科 <input type="checkbox"/> 臨床検査科 <input type="checkbox"/> 救急科 <input checked="" type="checkbox"/> その他(眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、精神神経科、歯科口腔外科、リハビリテーション科、救命救急センター、形成外科、心療内科)				
救急救命センターの指定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 指定されている <input type="checkbox"/> 指定されていない				
ドクターヘリ保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り( 台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
ドクターカー保有の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有り(1台)うち新生児専用車両(0台) <input type="checkbox"/> 無し				
病床数等	①NICU	②MFICU	③NICUに併設された新生児の回復期治療室(いわゆるGCU)	④MFICUに併設された産科の回復期治療室(後方病室)	⑤一般の産科病床(②、④を除く院内の産科病床)
病床数(床)	12	10	24	20	10
うち診療報酬上の総合周産期特定集中治療室管理料の届出病床数(床)	12	10			

2. 総合周産期母子医療センターの病床稼働状況 (平成19年度実績)

病床	NICU	MFICU	
年間延利用日数(日)	4269日	2544日	※「年間延利用日数」欄は、開設日数-未利用日数ではなく、ベッド毎の年間延利用日数の合計を記入すること。
平均入院期間(日)	21.6日	8.8日	
最大入院期間(日)	365日	109日	
病床利用率(%)	97.70%	70.00%	※病床利用率=一日平均入院患者数×100÷病床数 100%を超える場合はそのまま記載し、100%止まりで集計する場合はその旨を記載して下さい
年間利用実人員(人)	198人	289人	

3. 救急搬送について（平成19年度実績）					
		新生児	母体	※「新生児」には母体搬送後の出産児は含まない	
搬送受入の要請のあった件数(件)		45件	438件		
搬送を受入れた件数(件)		35件	123件		
		( 0件)	( 16件)		( )内は県外からの搬送数
		< 0件>	< 0件>		< >内はドクターカーによる搬送数
		[ 0件]	[ 0件]		[ ]内はドクターヘリによる搬送数
搬送元内訳	①:総合周産期母子医療センター	1件	5件		
	②:地域周産期母子医療センター	0件	3件		
	③:①、②以外の病院	件	件		
	診療所	32 件	104 件		
	助産所	件	件		
その他/不明		2件	11件		
搬送受入ができなかった件数(件)		10件	315件		
理由		〔④その他〕の詳細)手術室使用中により手術不可のため 2件、精神神経科との併診不可 2件、救命救急センター満床 1件、無痛分娩を希望 1件、週数が20週未満 2件、入院患者(即入院)の処置中 1件			
①NICUが満床であったため		9件	288件		
②MFICUが満床であったため		0件	19件		
③診療可能な医師がいなかったため		0件	0件		
④その他		1件	8件		

4. 総合周産期医療センターの医師の勤務状況（平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付）

※医師数については、先般緊急にお伺いした内容と重複しますが、再度ご記入をお願いいたします。

※該当者なしの場合は、空欄とせず、0人と記入してください。

【産科部門の医師数】	①周産期センター(産科)の専任医師	② ①以外で日中、産科診療(分娩)に従事する産科・産婦人科医師	③ 日勤帯は分娩に従事しないが、当直や緊急時に分娩に関与する医師	※③については、例えば、日勤帯は婦人科診療や不妊治療に専従しているが、当直等では分娩にも従事する産婦人科医が該当します。
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	9人	1人	10人	
研修医・レジデントの数	2人	2人	0人	
非常勤医師	0人	1人	0人	
【新生児部門の医師数】	新生児科の専任医師	新生児科の専任ではないが、NICUでの診療にも従事する小児科医	※常勤・非常勤については、正規雇用か否かといった雇用形態を問わず、病院で定められた医師の勤務時間(1週間につき概ね32時間以上)を満たして就業する者を「常勤」という。 ※非常勤医師については、常勤換算とする。(職務に従事した非常勤医師の1週間の勤務時間合計を当該施設の通常の1週間の勤務時間で除した数)	
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	6人	0人		
研修医・レジデントの数	1人	0人		
非常勤医師	0人	0人		
【医師の当直体制】	産科(MFICU)	新生児科(NICU)		
平日の夜間	2~3人	1人		
土曜日の昼間	2~3人	午後12時までは6人、午後12以降1人		
土曜日の夜間	2~3人	1人		
日曜日の昼間	2~3人	1人		
日曜日の夜間	2~3人	1人		

総合周産期母子医療センター(各病院ごとに作成すること)

団体名(開設者)	病 院 名	所 在 地
学校法人日本大学	日本大学医学部附属板橋病院	東京都板橋区大谷口上町30番1号

1. 病院の現況(平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)

病床数	1,037 床(うち一般病床 982 床)		※一般病床とは、精神病床、感染症病床、結核病床を除いた病床を指します。		
標榜診療科名	<input checked="" type="checkbox"/> 内科 <input checked="" type="checkbox"/> 呼吸器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 循環器内科 <input type="checkbox"/> 消化器内科 <input type="checkbox"/> 腎臓内科 <input checked="" type="checkbox"/> 神経内科 <input type="checkbox"/> 糖尿病内科 <input checked="" type="checkbox"/> 血液内科 <input checked="" type="checkbox"/> 皮膚科 <input type="checkbox"/> アレルギー科 <input type="checkbox"/> リウマチ科 <input type="checkbox"/> 感染症内科 <input type="checkbox"/> 小児科 <input checked="" type="checkbox"/> 外科 <input type="checkbox"/> 心臓血管外科 <input checked="" type="checkbox"/> 脳神経外科 <input checked="" type="checkbox"/> 整形外科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児外科 <input checked="" type="checkbox"/> 産婦人科 <input checked="" type="checkbox"/> 放射線科 <input checked="" type="checkbox"/> 麻酔科 <input checked="" type="checkbox"/> 病理診断科 <input type="checkbox"/> 臨床検査科 <input checked="" type="checkbox"/> 救急科 <input checked="" type="checkbox"/> その他(腎臓・内分泌内科, 糖尿病・代謝内科, 消化器・肝臓内科, 心療内科, 漢方内科, 小児内科, 新生児内科, 精神科, 消化器外科, 心臓外科, 血管外科, 呼吸器外科, 乳腺・内分泌外科, 形成外科, リハビリテーション科, 泌尿器科, 耳鼻いんこう科, 眼科, 疼痛緩和外科, 歯科口腔外科)				
救急救命センターの指定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 指定されている <input type="checkbox"/> 指定されていない				
ドクターヘリ保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り( 台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
ドクターカー保有の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有り( 1 台)うち新生児専用車両( 0 台) <input type="checkbox"/> 無し				
病床数等	①NICU	②MFICU	③NICUに併設された新生児の回復期治療室(いわゆるGCU)	④MFICUに併設された産科の回復期治療室(後方病室)	⑤一般の産科病床(②、④を除く院内の産科病床)
病床数(床)	12床	9床	24床	43床	0床
うち診療報酬上の総合周産期特定集中治療室管理料の届出病床数(床)	12床	9床			

2. 総合周産期母子医療センターの病床稼働状況(平成19年度実績)

病床	NICU	MFICU	
年間延利用日数(日)	3,901日	1,841日	※「年間延利用日数」欄は、開設日数－未利用日数ではなく、ベッド毎の年間延利用日数の合計を記入すること。
平均入院期間(日)	23.5日	4.7日	
最大入院期間(日)	366日	62日	
病床利用率(%)	89.17%	55.56%	※病床利用率＝(日平均入院患者数×100)÷病床数 100%を超える場合はそのまま記載し、100%止まりで集計する場合はその旨を記載して下さい
年間利用実人員(人)	179人	389人	

3. 救急搬送について (平成19年度実績)				
		新生児	母体	※「新生児」には母体搬送後の出産児は含まない
搬送受入の要請のあった件数(件)		82件	180件	
搬送を受入れた件数(件)		50件	46件	( )内は県外からの搬送数
		( 件(不明) )	( 件(不明) )	( )内はドクターカーによる搬送数
		< 0件>	< 0件>	( )内はドクターヘリによる搬送数
		[ 0件]	[ 0件]	[ ]内はドクターヘリによる搬送数
搬送元内訳	①:総合周産期母子医療センター	4件	1件	
	②:地域周産期母子医療センター	4件	2件	
	③:①、②以外の病院	40件	43件	*この行は一般の病院(助産院を含む)の数字です。
	診療所	件(不明)	件(不明)	
	助産所	件(不明)	件(不明)	
	その他/不明	2件	件(不明)	
搬送受入ができなかった件数(件)		32件	134件	
理由		(「④その他」の詳細)		
①NICUが満床であったため		32件	114件	
②MFICUが満床であったため		0件	19件	
③診療可能な医師がいなかったため		0件	0件	
④その他		0件	1件	

4. 総合周産期医療センターの医師の勤務状況 (平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)				
※医師数については、先般緊急にお伺いした内容と重複しますが、再度ご記入をお願いいたします。				
※該当者なしの場合は、空欄とせず、0人と記入してください。				
【産科部門の医師数】	①周産期センター(産科)の専任医師	② ①以外で日中、産科診療(分娩)に従事する産科・産婦人科医師	③ 日勤帯は分娩に従事しないが、当直や緊急時に分娩に関与する医師	※③については、例えば、日勤帯は婦人科診療や不妊治療に専従しているが、当直等では分娩にも従事する産婦人科医が該当します。
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	9人	9人	11人	
研修医・レジデントの数	1~3人	1~3人	1~3人	
非常勤医師	0人	1人	0人	
【新生児部門の医師数】	新生児科の専任医師	新生児科の専任ではないが、NICUでの診療にも従事する小児科医	※常勤・非常勤については、正規雇用か否かといった雇用形態を問わず、病院で定められた医師の勤務時間(1週間につき概ね32時間以上)を満たして就業する者を「常勤」という。 ※非常勤医師については、常勤換算とする。(職務に従事した非常勤医師の1週間の勤務時間合計を当該施設の通常の1週間の勤務時間で除した数)	
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	10人	3人		
研修医・レジデントの数	0人	0人		
非常勤医師	2人	0人		
【医師の当直体制】	産科(MFICU)	新生児科(NICU)		
平日の夜間	3人(他オンコール1人)	1人(他オンコール1人)		
土曜日の昼間	3人(他オンコール1人)	1人(他オンコール1人)		
土曜日の夜間	3人(他オンコール1人)	1人(他オンコール1人)		
日曜日の昼間	3人(他オンコール1人)	1人(他オンコール1人)		
日曜日の夜間	3人(他オンコール1人)	1人(他オンコール1人)		

総合周産期母子医療センター(各病院ごとに作成すること)

団体名(開設者)	病 院 名	所 在 地
	杏林大学医学部付属病院	東京都三鷹市新川6丁目20番2号

1. 病院の現況(平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)

病床数	1,153床(うち一般病床 1,121床)		※一般病床とは、精神病床、感染症病床、結核病床を除いた病床を指します。		
標榜診療科名	<input checked="" type="checkbox"/> 内科 <input type="checkbox"/> 呼吸器内科 <input type="checkbox"/> 循環器内科 <input type="checkbox"/> 消化器内科 <input type="checkbox"/> 腎臓内科 <input checked="" type="checkbox"/> 神経内科 <input type="checkbox"/> 糖尿病内科 <input type="checkbox"/> 血液内科 <input checked="" type="checkbox"/> 皮膚科 <input type="checkbox"/> アレルギー科 <input checked="" type="checkbox"/> リウマチ科 <input type="checkbox"/> 感染症内科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児科 <input type="checkbox"/> 外科 <input checked="" type="checkbox"/> 心臓血管外科 <input checked="" type="checkbox"/> 脳神経外科 <input checked="" type="checkbox"/> 整形外科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児外科 <input type="checkbox"/> 産婦人科 <input checked="" type="checkbox"/> 放射線科 <input checked="" type="checkbox"/> 麻酔科 <input type="checkbox"/> 病理診断科 <input type="checkbox"/> 臨床検査科 <input type="checkbox"/> 救急科 <input checked="" type="checkbox"/> 循環器科 <input checked="" type="checkbox"/> 精神科 <input checked="" type="checkbox"/> 外科 <input checked="" type="checkbox"/> 形成外科 <input checked="" type="checkbox"/> 泌尿器科 <input checked="" type="checkbox"/> 眼科 <input checked="" type="checkbox"/> 耳鼻咽喉科 <input checked="" type="checkbox"/> 歯科 <input type="checkbox"/> 口腔外科 <input checked="" type="checkbox"/> リハビリテーション科 <input checked="" type="checkbox"/> 美容外科 <input checked="" type="checkbox"/> 呼吸器科 <input checked="" type="checkbox"/> 呼吸器外科 <input checked="" type="checkbox"/> 消化器科 <input checked="" type="checkbox"/> 産科 <input checked="" type="checkbox"/> 婦人科 <input type="checkbox"/> その他( )				
救急救命センターの指定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 指定されている <input type="checkbox"/> 指定されていない				
ドクターヘリ保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り( )台 <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
ドクターカー保有の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有り( 1 台)うち新生児専用車両( 0 台) <input type="checkbox"/> 無し				
病床数等	①NICU	②MFICU	③NICUに併設された新生児の回復期治療室(いわゆるGCU)	④MFICUに併設された産科の回復期治療室(後方病室)	⑤一般の産科病床(②、④を除く院内の産科病床)
病床数(床)	15床	12床	24床	24床	0床
うち診療報酬上の総合周産期特定集中治療室管理料の届出病床数(床)	15床	12床			

2. 総合周産期母子医療センターの病床稼働状況(平成19年度実績)

病床	NICU	MFICU	
年間延利用日数(日)	5,489日	3,957日	※「年間延利用日数」欄は、開設日数-未利用日数ではなく、ベッド毎の年間延利用日数の合計を記入すること。
平均入院期間(日)	26.0日	6.7日	
最大入院期間(日)	363日	77日	
病床利用率(%)	99.98%	90.09%	※病床利用率=一日平均入院患者数×100÷病床数 100%を超える場合はそのまま記載し、100%止まりで集計する場合はその旨を記載して下さい
年間利用実人員(人)	212人	591人	

3. 救急搬送について (平成19年度実績)

		新生児	母体	※「新生児」には母体搬送後の出産児は含まない
搬送受入の要請のあった件数(件)		66件	349件	
搬送を受入れた件数(件)		26件	102件	
		( 0 件)	( 1 件)	( )内は県外からの搬送数
		< 3 件>	< 0 件>	< >内はドクターカーによる搬送数
		[ 0 件]	[ 0 件]	[ ]内はドクターヘリによる搬送数
搬送元内訳	①:総合周産期母子医療センター	0件	1件	
	②:地域周産期母子医療センター	2件	0件	
	③:①、②以外の病院	23件	91件	
	診療所	0件		件
	助産所	0件		件
	その他/不明	1件	10件	→ 自宅より
搬送受入ができなかった件数(件)		40件	247件	
理由		(「④その他」の詳細) 外来へ紹介してもらう(2件) 近くの対応可能な病院を紹介(6件) 連絡があったがその後 ①NICUが満床であったため 37件 188件 自院で見ると連絡あり(2件) 連絡があったが他院にきまる(5件) *母体の①と②は重複あります ②MFICUが満床であったため 0件 42件 ③診療可能な医師がいなかったため 3件 3件 ④その他 0件 15件		

4. 総合周産期医療センターの医師の勤務状況 (平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)

※医師数については、先般緊急にお伺いした内容と重複しますが、再度ご記入をお願いいたします。

※該当者なしの場合は、空欄とせず、0人と記入してください。

【産科部門の医師数】	①周産期センター(産科)の専任医師	② ①以外で日中、産科診療(分娩)に従事する産科・産婦人科医師	③ 日勤帯は分娩に従事しないが、当直や緊急時に分娩に関与する医師	※③については、例えば、日勤帯は婦人科診療や不妊治療に専従しているが、当直等では分娩にも従事する産婦人科医が該当します。
常勤医師数 (研修医・レジデントを除く)	5人	0人	5人	
研修医・レジデントの数	2人	0人	2人	
非常勤医師	0人	0人	0人	
【新生児部門の医師数】	新生児科の専任医師	新生児科の専任ではないが、NICUでの診療にも従事する小児科医	※常勤・非常勤については、正規雇用か否かといった雇用形態を問わず、病院で定められた医師の勤務時間(1週間につき概ね32時間以上)を満たして就業する者を「常勤」という。 ※非常勤医師については、常勤換算とする。(職務に従事した非常勤医師の1週間の勤務時間合計を当該施設の通常の1週間の勤務時間で除した数)	
常勤医師数 (研修医・レジデントを除く)	7人	0人		
研修医・レジデントの数	0人	6人		
非常勤医師	0人	0人		
【医師の当直体制】	産科	新生児科(NICU)		
平日の夜間	2人	2人		
土曜日の昼間	2人	2人		
土曜日の夜間	2人	2人		
日曜日の昼間	2人	2人		
日曜日の夜間	2人	2人		



総合周産期母子医療センター(各病院ごとに作成すること)

団体名(開設者)	病 院 名	所 在 地
東京都	東京都立墨東病院	東京都墨田区江東橋4-23-15

1. 病院の現況 (平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)

病床数	729床(うち一般病床689床)		※一般病床とは、精神病床、感染症病床、結核病床を除いた病床を指します。		
標榜診療科名	<input checked="" type="checkbox"/> 内科 <input type="checkbox"/> 呼吸器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 循環器内科 <input type="checkbox"/> 消化器内科 <input type="checkbox"/> 腎臓内科 <input type="checkbox"/> 神経内科 <input type="checkbox"/> 糖尿病内科 <input type="checkbox"/> 血液内科 <input checked="" type="checkbox"/> 皮膚科 <input type="checkbox"/> アレルギー科 <input checked="" type="checkbox"/> リウマチ科 <input type="checkbox"/> 感染症内科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児科 <input checked="" type="checkbox"/> 外科 <input checked="" type="checkbox"/> 心臓血管外科 <input checked="" type="checkbox"/> 脳神経外科 <input checked="" type="checkbox"/> 整形外科 <input type="checkbox"/> 小児外科 <input checked="" type="checkbox"/> 産婦人科 <input checked="" type="checkbox"/> 放射線科 <input checked="" type="checkbox"/> 麻酔科 <input type="checkbox"/> 病理診断科 <input type="checkbox"/> 臨床検査科 <input type="checkbox"/> 救急科 <input checked="" type="checkbox"/> その他(精神科、泌尿器科、形成外科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科)				
救急救命センターの指定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 指定されている <input type="checkbox"/> 指定されていない				
ドクターヘリ保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り(          台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
ドクターカー保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り(          台)うち新生児専用車両(          台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
病床数等	①NICU	②MFICU	③NICUに併設された新生児の回復期治療室(いわゆるGCU)	④MFICUに併設された産科の回復期治療室(後方病室)	⑤一般の産科病床(②、④を除く院内の産科病床)
病床数(床)	12床	9床	33床	床	10床
うち診療報酬上の総合周産期特定集中治療室管理料の届出病床数(床)	0床	0床			

↑新生児特定集中治療室管理料 12床

2. 総合周産期母子医療センターの病床稼働状況 (平成19年度実績)

病床	NICU	MFICU	
年間延利用日数(日)	4,359日	2,074日	※「年間延利用日数」欄は、開設日数－未利用日数ではなく、ベッド毎の年間延利用日数の合計を記入すること。 ※平均入院期間＝年間延利用日数÷年間利用人員 ※病床利用率＝一日平均入院患者数×100÷病床数 100%を超える場合はそのまま記載し、100%止まりで集計する場合はその旨を記載して下さい
平均入院期間(日)	21.8日	10.1日	
最大入院期間(日)	90日	14日	
病床利用率(%)	99.20%	63.00%	
年間利用人員(人)	200人	206人	

3. 救急搬送について (平成19年度実績)					
		新生児	母体	※「新生児」には母体搬送後の出産児は含まない	
搬送受入の要請のあった件数(件)		158件	394件		
搬送を受入れた件数(件)		110件	201件		
		( 10件)	( 12件)		( )内は県外からの搬送数
		( 件)	( 件)		( )内はドクターカーによる搬送数
		[ 件]	[ 件]	[ ]内はドクターヘリによる搬送数	
搬送元内訳	①:総合周産期母子医療センター	2件	2件		
	②:地域周産期母子医療センター	1件	13件		
	③:①、②以外の病院	101件	157件		
	診療所	件	件		
	助産所	件	件		
	その他/不明	6件	29件		
搬送受入ができなかった件数(件)		48件	193件		
理由		([④その他]の詳細)			
①NICUが満床であったため	45件	128件	新生児 ・先天性疾患(1例)、髄膜炎(2例)いずれも当院で外科的治療不可のため		
②MFICUが満床であったため	件	8件	母体 ・C/S対応 ・Laparo不可		
③診療可能な医師がいなかったため	件	20件	・他病院受入可 ・神経科満床		
④その他	3件	37件	・ope室満室 ・小児外科症例		

4. 総合周産期医療センターの医師の勤務状況 (平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)				
※医師数については、先般緊急にお伺いした内容と重複しますが、再度ご記入をお願いいたします。				
※該当者なしの場合は、空欄とせず、0人と記入してください。				
【産科部門の医師数】	①同産科センター(産科)の専任医師	② ①以外で日中、産科診療(分娩)に従事する産科・産婦人科医師	③ 日勤帯は分娩に従事しないが、当直や緊急時に分娩に関与する医師	※③については、例えば、日勤帯は婦人科診療や不妊治療に専従しているが、当直等では分娩にも従事する産婦人科医が該当します。
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	4人	0人	0人	
研修医・レジデントの数	1.6人	0人	0.8人	
非常勤医師	0.8人	0人	0.2人	
【新生児部門の医師数】	新生児科の専任医師	新生児科の専任ではないが、NICUでの診療にも従事する小児科医	※常勤・非常勤については、正規雇用か否かといった雇用形態を問わず、病院で定められた医師の勤務時間(1週間につき概ね32時間以上)を満たして就業する者を「常勤」という。 ※非常勤医師については、常勤換算とする。(職務に従事した非常勤医師の1週間の勤務時間合計を当該施設の通常の1週間の勤務時間で除した数)	
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	8人	0人		
研修医・レジデントの数	2.4人	0人		
非常勤医師	2.4人	0人		
【医師の当直体制】	産科(MFICU)	新生児科(NICU)		
平日の夜間	2人	1人		
土曜日の昼間	1~2人	1人		
土曜日の夜間	1人	1人		
日曜日の昼間	1人	1人		
日曜日の夜間	1人	1人		

地域周産期母子医療センター(各病院ごとに作成すること)

団体名(開設者)	病 院 名	所 在 地
理事長 日野原重明	財団法人 聖路加国際病院	東京都中央区明石町9-1

1. 病院の現況 (平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)

病床数	520床(うち一般病床 520床)	※一般病床とは、精神病床、感染症病床、結核病床を除いた病床を指します。			
標榜診療科名	<input checked="" type="checkbox"/> 内科 <input checked="" type="checkbox"/> 呼吸器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 循環器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 消化器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 腎臓内科 <input checked="" type="checkbox"/> 神経内科 <input checked="" type="checkbox"/> 糖尿病内科 <input checked="" type="checkbox"/> 血液内科 <input checked="" type="checkbox"/> 皮膚科 <input type="checkbox"/> アレルギー科 <input type="checkbox"/> リウマチ科 <input checked="" type="checkbox"/> 感染症内科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児科 <input checked="" type="checkbox"/> 外科 <input checked="" type="checkbox"/> 心臓血管外科 <input checked="" type="checkbox"/> 脳神経外科 <input checked="" type="checkbox"/> 整形外科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児外科 <input checked="" type="checkbox"/> 産婦人科 <input checked="" type="checkbox"/> 放射線科 <input checked="" type="checkbox"/> 麻酔科 <input checked="" type="checkbox"/> 病理診断科 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査科 <input checked="" type="checkbox"/> 救急科 <input type="checkbox"/> その他( )				
救急救命センターの指定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 指定されている <input type="checkbox"/> 指定されていない				
ドクターヘリ保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り(      台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
ドクターカー保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り(      台)うち新生児専用車両(      台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
【周産期医療に係る病床数等】	①MFICU (診療報酬非加算)	②一般産科病床	③NICU (診療報酬加算対象)	④NICU (診療報酬非加算)	⑤NICUに併設された新生児の回復期治療室(いわゆるGCU)
病床数(床)	0 床	33 床	6 床	0 床	10 床

2. 地域周産期母子医療センターの運用状況 (平成19年度実績)

【産科部門】	該当部分に○
1 ハイリスク妊娠に対応している(ハイリスク妊娠管理加算の対象)	○
2 ハイリスク妊娠管理加算の対象ではないが、ハイリスク妊娠に対応	○
3 産科診療を行っているが、正常分娩が中心であり、ハイリスク妊娠は原則として対応していない	
4 現在、産科診療(分娩)の取扱いを休止中(下記項目について記載のこと)	
・いつから休止しているか:	
・休止の理由:	
・分娩取扱い再開の見込み:	
5 地域周産期センター認定時から産科を標榜していない	
【新生児部門】	該当部分に○
1 ハイリスク新生児に対応している(新生児特定集中治療室管理加算の対象)	○
2 新生児特定集中治療室管理加算の対象とはならないが、新生児科専任医師が勤務しており、ハイリスク新生児への対応を行っている	○
3 新生児科専任医師は勤務していないが、常勤の小児科医又は産科医が新生児医療を担当	○
4 現在、新生児医療の取扱いを休止中(下記項目について記載のこと)	
・いつから休止しているか:	
・休止の理由:	
・新生児医療再開の見込み:	
5 地域周産期センター認定時から新生児医療を取り扱っていない	

3. 救急搬送について (平成19年度実績)				
		新生児	母体	
搬送受入の要請のあった件数(件)		11 件	24 件	
搬送を受入れた件数(件)		11 件	0 件	
※「新生児」には母体搬送後の出産児は含まない		( 件) 0	( 件) 0	( )内は県外からの搬送数(再掲)
		< 件) 0	< 件) 0	< )内はドクターカーによる搬送数(再掲)
		[ 件] 0	[ 件] 0	[ ]内はドクターヘリによる搬送数(再掲)
搬送元内訳	①: 総合周産期母子医療センター	4 件	11 件	
	②: 地域周産期母子医療センター	1 件	5 件	
	③: ①、②以外の病院	1 件	7 件	
	診療所	0 件	0 件	
	助産所	0 件	0 件	
	その他/不明	5 件	1 件	
搬送受入ができなかった件数(件)		0 件	24 件	
理由				(「④その他」の詳細)
①NICUが満床であったため。		0 件	10 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当院患者他待機のため病床に余裕なし</li> <li>・ 分娩費用の同意がなかった</li> <li>・ 胎児に心疾患がある場合</li> <li>・ 他院受入可→当院キャンセル</li> </ul>
②MFICUが満床であったため。		0 件	0 件	
③診療可能な医師がいなかったため。		0 件	1 件	
④その他		0 件	13 件	

4. 地域周産期医療センターの医師の勤務状況 (平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)				
※該当者なしの場合は、空欄とせず、0人と記入してください。				
【産科部門の医師数】	①周産期センター(産科)の専任医師	② ①以外で日中、産科診療(分娩)に従事する産科・産婦人科医師	③ 日勤帯は分娩に従事しないが、当直や緊急時に分娩に関与する医師	※③については、例えば、日勤帯は婦人科診療や不妊治療に専従しているが、当直等では分娩にも従事する産婦人科医が該当します。
常勤医師数 (研修医・レジデントを除く)	0 人	4 人	0 人	
常勤の研修医・レジデントの数	0 人	4 人	0 人	
非常勤医師	0 人	0.2 人	0.2 人	
【新生児部門の医師数】	新生児科の専任医師	新生児科の専任ではないが、NICUでの診療にも従事する小児科医	※常勤・非常勤については、正規雇用か否かといった雇用形態を問わず、病院で定められた医師の勤務時間(1週間につき概ね32時間以上)を満たして就業する者を「常勤」という。 ※非常勤医師については、常勤換算とする。(職務に従事した非常勤医師の1週間の勤務時間合計を当該施設の通常の1週間の勤務時間で除した数)	
常勤医師数 (研修医・レジデントを除く)	3 人	8 人		
常勤の研修医・レジデントの数	2 人	5 人		
非常勤医師	0.4 人	1.2 人		
【医師の当直体制】	産科	新生児科(NICU)		
平日の夜間	1(他オンコール1名) 人	1 人		
土曜日の昼間	1(他オンコール1名) 人	1 人		
土曜日の夜間	1(他オンコール1名) 人	1 人		
日曜日の昼間	1(他オンコール1名) 人	1 人		
日曜日の夜間	1(他オンコール1名) 人	1 人		

## 地域周産期母子医療センター(各病院ごとに作成すること)

団体名(開設者)	病 院 名	所 在 地
学校法人 慈恵大学 理事長 栗原 敏	東京慈恵会医科大学附属病院	東京都港区西新橋3-19-18

## 1. 病院の現況(平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)

病床数	1,075 床(うち一般病床 1,026 床)	※一般病床とは、精神病床、感染症病床、結核病床を除いた病床を指します。			
標榜診療科名	内科、消化器科、神経内科、呼吸器科、循環器科、精神科、小児科、皮膚科、外科、呼吸器外科、小児外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、心臓血管外科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科、小児歯科、麻酔科、放射線科				
救急救命センターの指定状況	<input type="checkbox"/> 指定されている <input type="checkbox"/> 指定されていない				
ドクターヘリ保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り( )台 <input type="checkbox"/> 無し				
ドクターカー保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り( )台 うち新生児専用車両( )台 <input type="checkbox"/> 無し				
【周産期医療に係る病床数等】	①MFICU (診療報酬非加算)	②一般産科病床	③NICU (診療報酬加算対象)	④NICU (診療報酬非加算)	⑤NICUに併設された新生児の回復期治療室(いわゆるGCU)
病床数(床)	0 床	29 床	9 床	0 床	18 床

## 2. 地域周産期母子医療センターの運用状況(平成19年度実績)

【産科部門】	該当部分に○
1 ハイリスク妊娠に対応している(ハイリスク妊娠管理加算の対象)	○
2 ハイリスク妊娠管理加算の対象ではないが、ハイリスク妊娠に対応	
3 産科診療を行っているが、正常分娩が中心であり、ハイリスク妊娠は原則として対応していない	
4 現在、産科診療(分娩)の取扱いを休止中(下記項目について記載のこと)	
・いつから休止しているか:	
・休止の理由:	
・分娩取扱い再開の見込み:	
5 地域周産期センター認定時から産科を標榜していない	
【新生児部門】	該当部分に○
1 ハイリスク新生児に対応している(新生児特定集中治療室管理加算の対象)	○
2 新生児特定集中治療室管理加算の対象とはならないが、新生児科専任医師が勤務しており、ハイリスク新生児への対応を行っている	
3 新生児科専任医師は勤務していないが、常勤の小児科医又は産科医が新生児医療を担当	
4 現在、新生児医療の取扱いを休止中(下記項目について記載のこと)	
・いつから休止しているか:	
・休止の理由:	
・新生児医療再開の見込み:	
5 地域周産期センター認定時から新生児医療を取り扱っていない	

3. 救急搬送について (平成19年度実績)				
		新生児	母体	
搬送受入の要請のあった件数(件)		40 件	251 件	
搬送を受入れた件数(件)		23 件	63 件	
※「新生児」には母体搬送後の出産児は含まない		( ) 件	( ) 件	( )内は県外からの搬送数(再掲) ※地域周産期母子医療センター運営に関する報告書では集計して おりません。
		< 0 件	< 0 件	< )内はドクターカーによる搬送数(再掲)
		[ 0 件]	[ 0 件]	[ ]内はドクターヘリによる搬送数(再掲)
搬 送 元 内 訳	①:総合周産期母子医療センター	1 件	4 件	
	②:地域周産期母子医療センター	2 件	0 件	
	③:①、②以外の病院	20 件	59 件	
	診療所	件	件	※地域周産期母子医療センター運営に関する報告書では①・②以外の「病産院(助産院)」と なっているため、診療所及び助産所についての内訳は不明。
	助産所	件	件	
その他/不明		0 件	0 件	
搬送受入ができなかった件数(件)		件	件	
理 由		(「④その他」の詳細)		
①NICUが満床であったため。		件	件	
②MFICUが満床であったため。		0 件	0 件	※地域周産期母子医療センター運営に関する報告書では受入れ可否の理由については記録 していませんので、不明箇所については未回答としております。
③診療可能な医師がいなかったため。		0 件	0 件	
④その他		件	件	

4. 地域周産期医療センターの医師の勤務状況 (平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)				
※該当者なしの場合は、空欄とせず、0人と記入してください。				
【産科部門の医師数】	①周産期センター(産科)の 専任医師	② ①以外で日中、 産科診療(分娩)に従事する 産科・産婦人科医師	③ 日勤帯は分娩に 従事しないが、当直や緊急時に 分娩に関与する医師	※③については、例えば、日 勤帯は婦人科診療や不妊治 療に専従しているが、当直等 では分娩にも従事する産婦人 科医が該当します。
常勤医師数 (研修医・レジデントを除く)	7 人	7 人	21 人	
常勤の研修医・レジデントの数	2～3 人	2～3 人	3～4 人	
非常勤医師	0.5 人	0.5 人	0 人	
【新生児部門の医師数】	新生児科の専任医師	新生児科の専任ではないが、 NICUでの診療にも従事する 小児科医	※常勤・非常勤については、正規雇用か否かといった 雇用形態を問わず、病院で定められた医師の勤務時間 (1週間につき概ね32時間以上)を満たして就業する者 を「常勤」という。 ※非常勤医師については、常勤換算とする。(職務に従 事した非常勤医師の1週間の勤務時間合計を当該施 設の通常の1週間の勤務時間で除した数)	
常勤医師数 (研修医・レジデントを除く)	5 人	0 人		
常勤の研修医・レジデントの数	3 人	0 人		
非常勤医師	0 人	0 人		
【医師の当直体制】	産科	新生児科(NICU)		
平日の夜間	2 人	1 人		
土曜日の昼間	2 人	4 人		
土曜日の夜間	2 人	1 人		
日曜日の昼間	2 人	1 人		
日曜日の夜間	2 人	1 人		

地域周産期母子医療センター(各病院ごとに作成すること)

団体名(開設者)	病 院 名	所 在 地
学校法人 東京医科大学	東京医科大学病院	東京都新宿区西新宿六丁目7番1号

1. 病院の現況 (平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)

病床数	1,015床(うち一般病床 988床)		※一般病床とは、精神病床、感染症病床、結核病床を除いた病床を指します。		
標榜診療科名	<input checked="" type="checkbox"/> 内科 <input checked="" type="checkbox"/> 呼吸器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 循環器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 消化器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 腎臓内科 <input checked="" type="checkbox"/> 神経内科 <input type="checkbox"/> 糖尿病内科 <input checked="" type="checkbox"/> 血液内科 <input checked="" type="checkbox"/> 皮膚科 <input checked="" type="checkbox"/> アレルギー科 <input checked="" type="checkbox"/> リウマチ科 <input type="checkbox"/> 感染症内科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児科 <input checked="" type="checkbox"/> 外科 <input type="checkbox"/> 心臓血管外科 <input checked="" type="checkbox"/> 脳神経外科 <input checked="" type="checkbox"/> 整形外科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児外科 <input type="checkbox"/> 産婦人科 <input checked="" type="checkbox"/> 放射線科 <input checked="" type="checkbox"/> 麻酔科 <input type="checkbox"/> 病理診断科 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査科 <input checked="" type="checkbox"/> 救急科 <input checked="" type="checkbox"/> その他(糖尿病内分泌内科、老年内科、精神科、呼吸器外科、心臓外科、血管外科、消化器外科、乳腺外科、眼科、耳鼻咽喉科、形成外科、歯科口腔外科、産科、婦人科、泌尿器科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科)				
救急救命センターの指定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 指定されている <input type="checkbox"/> 指定されていない				
ドクターヘリ保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り(      台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
ドクターカー保有の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有り(      1台)うち新生児専用車両(      0台) <input type="checkbox"/> 無し				
【周産期医療に係る病床数等】	①MFCU (診療報酬非加算)	②一般産科病床	③NICU (診療報酬加算対象)	④NICU (診療報酬非加算)	⑤NICUに併設された新生児の回復期治療室(いわゆるGCU)
病床数(床)	0床	26床	9床	0床	8床

2. 地域周産期母子医療センターの運用状況 (平成19年度実績)

【産科部門】	該当部分に○
1 ハイリスク妊娠に対応している(ハイリスク妊娠管理加算の対象)	○
2 ハイリスク妊娠管理加算の対象ではないが、ハイリスク妊娠に対応	
3 産科診療を行っているが、正常分娩が中心であり、ハイリスク妊娠は原則として対応していない	
4 現在、産科診療(分娩)の取扱いを休止中(下記項目について記載のこと)	
・いつから休止しているか:	
・休止の理由:	
・分娩取扱い再開の見込み:	
5 地域周産期センター認定時から産科を標榜していない	
【新生児部門】	該当部分に○
1 ハイリスク新生児に対応している(新生児特定集中治療室管理加算の対象)	○
2 新生児特定集中治療室管理加算加算の対象とはならないが、新生児科専任医師が勤務しており、ハイリスク新生児への対応を行っている	
3 新生児科専任医師は勤務していないが、常勤の小児科医又は産科医が新生児医療を担当	
4 現在、新生児医療の取扱いを休止中(下記項目について記載のこと)	
・いつから休止しているか:	
・休止の理由:	
・新生児医療再開の見込み:	
5 地域周産期センター認定時から新生児医療を取り扱っていない	

3. 救急搬送について（平成19年度実績）				
		新生児	母体	
搬送受入の要請のあった件数(件)		92件	95件	
搬送を受入れた件数(件)		46件	57件	
※「新生児」には母体搬送後の出産児は含まない		( )件	( )件	( )内は県外からの搬送数(再掲)
		( )件	( )件	( )内はドクターカーによる搬送数(再掲)
		[ ]件	[ ]件	[ ]内はドクターヘリによる搬送数(再掲)
搬送元内訳	①: 総合周産期母子医療センター	0件	件	
	②: 地域周産期母子医療センター	件	件	
	③: ①、②以外の病院	45件	57件	
	診療所	件	件	
	助産所	件	件	
	その他/不明	1件	件	
搬送受入ができなかった件数(件)		46件	38件	
理由				(「④その他」の詳細)
①NICUが満床であったため。		43件	37件	
②MFICUが満床であったため。		件	件	
③診療可能な医師がいなかったため。		件	件	
④その他		3件	1件	

4. 地域周産期医療センターの医師の勤務状況（平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付）				
※該当者なしの場合は、空欄とせず、0人と記入してください。				
【産科部門の医師数】	①周産期センター(産科)の専任医師	② ①以外で日中、産科診療(分娩)に従事する産科・産婦人科医師	③ 日勤帯は分娩に従事しないが、当直や緊急時に分娩に関与する医師	※③については、例えば、日勤帯は婦人科診療や不妊治療に専従しているが、当直等では分娩にも従事する産婦人科医が該当します。
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	3人	0人	14人	
常勤の研修医・レジデントの数	1人	0人	3人	
非常勤医師	1人	0人	5人	
【新生児部門の医師数】	新生児科の専任医師	新生児科の専任ではないが、NICUでの診療にも従事する小児科医	※常勤・非常勤については、正規雇用か否かといった雇用形態を問わず、病院で定められた医師の勤務時間(1週間につき概ね32時間以上)を満たして就業する者を「常勤」という。 ※非常勤医師については、常勤換算とする。(職務に従事した非常勤医師の1週間の勤務時間合計を当該施設の通常の1週間の勤務時間で除した数)	
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	5人	1人		
常勤の研修医・レジデントの数	1人	0人		
非常勤医師	0人	0人		
【医師の当直体制】	産科	新生児科(NICU)		
平日の夜間	3人	1人		
土曜日の昼間	3人	4人		
土曜日の夜間	3人	1人		
日曜日の昼間	3人	1人		
日曜日の夜間	3人	1人		



地域周産期母子医療センター(各病院ごとに作成すること)

団体名(開設者)	病 院 名	所 在 地
学校法人 慶應義塾	慶應義塾大学病院	新宿区信濃町35

1. 病院の現況(平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)

病床数	1,072 床(うち一般病床 1,036 床)	※一般病床とは、精神病床、感染症病床、結核病床を除いた病床を指します。			
標榜診療科名	<input type="checkbox"/> 内科 <input type="checkbox"/> 呼吸器内科 <input type="checkbox"/> 循環器内科 <input type="checkbox"/> 消化器内科 <input type="checkbox"/> 腎臓内科 <input type="checkbox"/> 神経内科 <input type="checkbox"/> 糖尿病内科 <input type="checkbox"/> 血液内科 <input type="checkbox"/> 皮膚科 <input type="checkbox"/> アレルギー科 <input type="checkbox"/> リウマチ科 <input type="checkbox"/> 感染症内科 <input type="checkbox"/> 小児科 <input type="checkbox"/> 外科 <input type="checkbox"/> 心臓血管外科 <input type="checkbox"/> 脳神経外科 <input type="checkbox"/> 整形外科 <input type="checkbox"/> 小児外科 <input type="checkbox"/> 産婦人科 <input type="checkbox"/> 放射線科 <input type="checkbox"/> 麻酔科 <input type="checkbox"/> 病理診断科 <input type="checkbox"/> 臨床検査科 <input type="checkbox"/> 救急科 <input type="checkbox"/> その他(呼吸器科・循環器科・消化器科・呼吸器外科・形成外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科・眼科・精神科・歯科・リハビリテーション科・産科・婦人科)				
救急救命センターの指定状況	<input type="checkbox"/> 指定されている <input checked="" type="checkbox"/> 指定されていない				
ドクターヘリ保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り(          台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
ドクターカー保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り(          台)うち新生児専用車両(          台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
【周産期医療に係る病床数等】	①MFICU (診療報酬非加算)	②一般産科病床	③NICU (診療報酬加算対象)	④NICU (診療報酬非加算)	⑤NICUに併設された新生児の回復期治療室(いわゆるGCU)
病床数(床)	床	40床	6床	床	12床

2. 地域周産期母子医療センターの運用状況(平成19年度実績)

【産科部門】	該当部分に○
1 ハイリスク妊娠に対応している(ハイリスク妊娠管理加算の対象)	○
2 ハイリスク妊娠管理加算の対象ではないが、ハイリスク妊娠に対応	
3 産科診療を行っているが、正常分娩が中心であり、ハイリスク妊娠は原則として対応していない	
4 現在、産科診療(分娩)の取扱いを休止中(下記項目について記載のこと)	
・いつから休止しているか:	
・休止の理由:	
・分娩取扱い再開の見込み:	
5 地域周産期センター認定時から産科を標榜していない	
【新生児部門】	該当部分に○
1 ハイリスク新生児に対応している(新生児特定集中治療室管理加算の対象)	○
2 新生児特定集中治療室管理加算加算の対象とはならないが、新生児科専任医師が勤務しており、ハイリスク新生児への対応を行っている	
3 新生児科専任医師は勤務していないが、常勤の小児科医又は産科医が新生児医療を担当	
4 現在、新生児医療の取扱いを休止中(下記項目について記載のこと)	
・いつから休止しているか:	
・休止の理由:	
・新生児医療再開の見込み:	
5 地域周産期センター認定時から新生児医療を取り扱っていない	

3. 救急搬送について (平成19年度実績)			
	新生児	母体	
搬送受入の要請のあった件数(件)	24件	114件	
搬送を受入れた件数(件)	24件	35件	
※「新生児」には母体搬送後の出産児は含まない	( ) 件	( ) 件	( ) 内は県外からの搬送数(再掲)
	< > 件	< > 件	< > 内はドクターカーによる搬送数(再掲)
	[ ] 件	[ ] 件	[ ] 内はドクターヘリによる搬送数(再掲)
搬送元内訳	①: 総合周産期母子医療センター	3件	3件
	②: 地域周産期母子医療センター	件	2件
	③: ①、②以外の病院	21件	30件
	診療所	件	件
	助産所	件	件
	その他/不明	件	件
搬送受入ができなかった件数(件)	0件	79件	
理由			(「④その他」の詳細)受け入れができなかった正確な内訳件数を把握しておりません。NICU:MFICUの割合がほぼ2:1の割合です。
①NICUが満床であったため。	件	件	
②MFICUが満床であったため。	件	件	
③診療可能な医師がいなかったため。	件	件	
④その他	件	件	

4. 地域周産期医療センターの医師の勤務状況 (平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)				
※該当者なしの場合は、空欄とせず、0人と記入してください。				
【産科部門の医師数】	①周産期センター(産科)の専任医師	② ①以外で日中、産科診療(分娩)に従事する産科・産婦人科医師	③ 日勤帯は分娩に従事しないが、当直や緊急時に分娩に関与する医師	※③については、例えば、日勤帯は婦人科診療や不妊治療に専従しているが、当直等では分娩にも従事する産婦人科医が該当します。
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	10人	0人	5人	
常勤の研修医・レジデントの数	10人	0人	0人	
非常勤医師	2人	0人	3人	
【新生児部門の医師数】	新生児科の専任医師	新生児科の専任ではないが、NICUでの診療にも従事する小児科医	※常勤・非常勤については、正規雇用か否かといった雇用形態を問わず、病院で定められた医師の勤務時間(1週間につき概ね32時間以上)を満たして就業する者を「常勤」という。 ※非常勤医師については、常勤換算とする。(職務に従事した非常勤医師の1週間の勤務時間合計を当該施設の通常の1週間の勤務時間で除した数)	
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	5人	人		
常勤の研修医・レジデントの数	4人	人		
非常勤医師	0人	人		
【医師の当直体制】	産科	新生児科(NICU)		
平日の夜間	2人	1人		
土曜日の昼間	2人	1~3人		
土曜日の夜間	2人	1人		
日曜日の昼間	2人	1人		
日曜日の夜間	2人	1人		

地域周産期母子医療センター(各病院ごとに作成すること)

団体名(開設者)	病 院 名	所 在 地
理事長 小川 秀興	順天堂大学医学部附属順天堂医院	東京都 文京区 本郷 3-1-3

1. 病院の現況 (平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)

病床数	1,020 床(うち一般病床 1,005床)	※一般病床とは、精神病床、感染症病床、結核病床を除いた病床を指します。			
標榜診療科名	<input type="checkbox"/> 内科 <input type="checkbox"/> 呼吸器内科 <input type="checkbox"/> 循環器内科 <input type="checkbox"/> 消化器内科 <input type="checkbox"/> 腎臓内科 <input type="checkbox"/> 神経内科 <input type="checkbox"/> 糖尿病内科 <input type="checkbox"/> 血液内科 <input type="checkbox"/> 皮膚科 <input type="checkbox"/> アレルギー科 <input type="checkbox"/> リウマチ科 <input type="checkbox"/> 感染症内科 <input type="checkbox"/> 小児科 <input type="checkbox"/> 外科 <input type="checkbox"/> 心臓血管外科 <input type="checkbox"/> 脳神経外科 <input type="checkbox"/> 整形外科 <input type="checkbox"/> 小児外科 <input type="checkbox"/> 産婦人科 <input type="checkbox"/> 放射線科 <input type="checkbox"/> 麻酔科 <input type="checkbox"/> 病理診断科 <input type="checkbox"/> 臨床検査科 <input type="checkbox"/> 救急科 <input checked="" type="checkbox"/> その他(別紙参照)				
救急救命センターの指定状況	<input type="checkbox"/> 指定されている <input checked="" type="checkbox"/> 指定されていない				
ドクターヘリ保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り(      台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
ドクターカー保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り(      台)うち新生児専用車両(      台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
【周産期医療に係る病床数等】	①MFCU (診療報酬非加算)	②一般産科病床	③NICU (診療報酬加算対象)	④NICU (診療報酬非加算)	⑤NICUに併設された新生児の回復期治療室(いわゆるGCU)
病床数(床)	床	24 床	6 床	床	22 床

2. 地域周産期母子医療センターの運用状況 (平成19年度実績)

【産科部門】	該当部分に○
1 ハイリスク妊娠に対応している(ハイリスク妊娠管理加算の対象)	○
2 ハイリスク妊娠管理加算の対象ではないが、ハイリスク妊娠に対応	
3 産科診療を行っているが、正常分娩が中心であり、ハイリスク妊娠は原則として対応していない	
4 現在、産科診療(分娩)の取扱いを休止中(下記項目について記載のこと)	
・いつから休止しているか:	
・休止の理由:	
・分娩取扱い再開の見込み:	
5 地域周産期センター認定時から産科を標榜していない	
【新生児部門】	該当部分に○
1 ハイリスク新生児に対応している(新生児特定集中治療室管理加算の対象)	○
2 新生児特定集中治療室管理加算加算の対象とはならないが、新生児科専任医師が勤務しており、ハイリスク新生児への対応を行っている	
3 新生児科専任医師は勤務していないが、常勤の小児科医又は産科医が新生児医療を担当	
4 現在、新生児医療の取扱いを休止中(下記項目について記載のこと)	
・いつから休止しているか:	
・休止の理由:	
・新生児医療再開の見込み:	
5 地域周産期センター認定時から新生児医療を取り扱っていない	

3. 救急搬送について (平成19年度実績)			
		新生児	母体
搬送受入の要請のあった件数(件)		107 件	122 件
搬送を受入れた件数(件)		80 件	24 件
※「新生児」には母体搬送後の出産児は含まない		( 22 件)	( 2 件)
		( )内は県外からの搬送数(再掲)	
		< 0 件)	< 0 件)
		< )内はドクターカーによる搬送数(再掲)	
		[ 0 件]	[ 1 件]
		[ ]内はドクターヘリによる搬送数(再掲)	
搬送元内訳	①:総合周産期母子医療センター	16 件	1 件
	②:地域周産期母子医療センター	15 件	2 件
	③:①、②以外の病院	37 件	19 件
	診療所	12 件	2 件
	助産所	0 件	0 件
	その他/不明	0 件	0 件
搬送受入ができなかった件数(件)		27 件	98 件
理由			(「④その他」の詳細) 産科病床が満床であったため。
①NICUが満床であったため。		27 件	70 件
②MFICUが満床であったため。		0 件	0 件
③診療可能な医師がいなかったため。		0 件	0 件
④その他		0 件	28 件

4. 地域周産期医療センターの医師の勤務状況 (平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)			
※該当者なしの場合は、空欄とせず、0人と記入してください。			
【産科部門の医師数】	①周産期センター(産科)の専任医師	② ①以外で日中、産科診療(分娩)に従事する産科・産婦人科医師	③ 日勤帯は分娩に従事しないが、当直や緊急時に分娩に関与する医師
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	6 人	0 人	16 人
常勤の研修医・レジデントの数	2 人	0 人	2 人
非常勤医師	0 人	0 人	0 人
【新生児部門の医師数】	新生児科の専任医師	新生児科の専任ではないが、NICUでの診療にも従事する小児科医	※③については、例えば、日勤帯は婦人科診療や不妊治療に専従しているが、当直等では分娩にも従事する産婦人科医が該当します。
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	3 人	3 人	※常勤・非常勤については、正規雇用か否かといった雇用形態を問わず、病院で定められた医師の勤務時間(1週間につき概ね32時間以上)を満たして就業する者を「常勤」という。 ※非常勤医師については、常勤換算とする。(職務に従事した非常勤医師の1週間の勤務時間合計を当該施設の通常の1週間の勤務時間で除した数)
常勤の研修医・レジデントの数	0 人	2 人	
非常勤医師	0 人	0 人	
【医師の当直体制】	産科	新生児科(NICU)	
平日の夜間	2 人	1 人	
土曜日の昼間	2 人	1 人	
土曜日の夜間	2 人	1 人	
日曜日の昼間	2 人	1 人	
日曜日の夜間	2 人	1 人	

## 順天堂医学部附属順天堂医院

### 院内標榜診療科名（34科）

総合診療科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、腎・高血圧内科、  
膠原病・リウマチ内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、メンタルクリニック、  
脳神経内科、小児科・思春期科、食道・胃外科、大腸・肛門外科、  
肝・胆・膵外科、乳腺科、心臓血管外科、呼吸器外科、  
小児外科・小児泌尿生殖器外科、脳神経外科、整形外科・スポーツ診療科、  
形成外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸科、放射線科、  
産科・婦人科、救急科、麻酔科・ペインクリニック、臨床検査医学科、  
病理診断科、歯科口腔外科、健康スポーツ科、リハビリテーション科

地域周産期母子医療センター（各病院ごとに作成すること）

団体名（開設者）	病 院 名	所 在 地
社会福祉法人 賛育会	賛育会病院	東京都墨田区太平 3-20-2

1. 病院の現況（平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付）

病床数	243床（うち一般病床243床）	※一般病床とは、精神病床、感染症病床、結核病床を除いた病床を指します。			
標榜診療科名	<input checked="" type="checkbox"/> 内科 <input type="checkbox"/> 呼吸器内科 <input type="checkbox"/> 循環器内科 <input type="checkbox"/> 消化器内科 <input type="checkbox"/> 腎臓内科 <input type="checkbox"/> 神経内科 <input type="checkbox"/> 糖尿病内科 <input type="checkbox"/> 血液内科 <input checked="" type="checkbox"/> 皮膚科 <input type="checkbox"/> アレルギー科 <input type="checkbox"/> リウマチ科 <input type="checkbox"/> 感染症内科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児科 <input checked="" type="checkbox"/> 外科 <input type="checkbox"/> 心臓血管外科 <input type="checkbox"/> 脳神経外科 <input checked="" type="checkbox"/> 整形外科 <input type="checkbox"/> 小児外科 <input checked="" type="checkbox"/> 産婦人科 <input type="checkbox"/> 放射線科 <input type="checkbox"/> 麻酔科 <input type="checkbox"/> 病理診断科 <input type="checkbox"/> 臨床検査科 <input type="checkbox"/> 救急科 <input checked="" type="checkbox"/> その他（耳鼻咽喉科・泌尿器科・緩和ケア科・精神科）				
救急救命センターの指定状況	<input type="checkbox"/> 指定されている <input checked="" type="checkbox"/> 指定されていない				
ドクターヘリ保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り（ 台） <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
ドクターカー保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り（ 台）うち新生児専用車両（ 台） <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
【周産期医療に係る病床数等】	①MFICU （診療報酬非加算）	②一般産科病床	③NICU （診療報酬加算対象）	④NICU （診療報酬非加算）	⑤NICUに併設された新生児の回復期治療室（いわゆるGCU）
病床数（床）	床	46床	6床	床	20床

2. 地域周産期母子医療センターの運用状況（平成19年度実績）

【産科部門】	該当部分に○
1 ハイリスク妊娠に対応している（ハイリスク妊娠管理加算の対象）	○
2 ハイリスク妊娠管理加算の対象ではないが、ハイリスク妊娠に対応	
3 産科診療を行っているが、正常分娩が中心であり、ハイリスク妊娠は原則として対応していない	
4 現在、産科診療（分娩）の取扱いを休止中（下記項目について記載のこと）	
・いつから休止しているか：	
・休止の理由：	
・分娩取扱い再開の見込み：	
5 地域周産期センター認定時から産科を標榜していない	
【新生児部門】	該当部分に○
1 ハイリスク新生児に対応している（新生児特定集中治療室管理加算の対象）	○
2 新生児特定集中治療室管理加算加算の対象とはならないが、新生児科専任医師が勤務しており、ハイリスク新生児への対応を行っている	○
3 新生児科専任医師は勤務していないが、常勤の小児科医又は産科医が新生児医療を担当	
4 現在、新生児医療の取扱いを休止中（下記項目について記載のこと）	
・いつから休止しているか：	
・休止の理由：	
・新生児医療再開の見込み：	
5 地域周産期センター認定時から新生児医療を取り扱っていない	

3. 救急搬送について（平成19年度実績）

		新生児	母体	
搬送受入の要請のあった件数(件)		72件	160件	
搬送を受入れた件数(件)		58件	28件	
※「新生児」には母体搬送後の出産児は含まない		( )件	( )件	( )内は県外からの搬送数(再掲)
		< )件>	< )件>	< )内はドクターカーによる搬送数(再掲)
		[ )件]	[ )件]	[ )内はドクターヘリによる搬送数(再掲)
搬送元内訳	①:総合周産期母子医療センター	4件	0件	
	②:地域周産期母子医療センター	5件	1件	
	③:①、②以外の病院			
	診療所	49件	22件	
	助産所			
その他/不明		0件	5件	
搬送受入ができなかった件数(件)		14件	132件	
理由				(「④その他」の詳細)
①NICUが満床であったため。		1件	14件	○依頼取り下げ 1件
②MFICUが満床であったため。		件	件	○産科満床 4件
③診療可能な医師がいなかったため。		12件	18件	○記録なし 96件
④その他		1件	100件	

4. 地域周産期医療センターの医師の勤務状況（平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付）

※該当者なしの場合は、空欄とせず、0人と記入してください。

【産科部門の医師数】	①周産期センター(産科)の専任医師	② ①以外で日中、産科診療(分娩)に従事する産科・産婦人科医師	③ 日勤帯は分娩に従事しないが、当直や緊急時に分娩に関与する医師	※③については、例えば、日勤帯は婦人科診療や不妊治療に専従しているが、当直等では分娩にも従事する産婦人科医が該当します。
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	人	4人	人	
常勤の研修医・レジデントの数	人	1人	人	
非常勤医師	人	2人	人	
【新生児部門の医師数】	新生児科の専任医師	新生児科の専任ではないが、NICUでの診療にも従事する小児科医	※常勤・非常勤については、正規雇用か否かといった雇用形態を問わず、病院で定められた医師の勤務時間(1週間につき概ね32時間以上)を満たして就業する者を「常勤」という。 ※非常勤医師については、常勤換算とする。(職務に従事した非常勤医師の1週間の勤務時間合計を当該施設の通常の1週間の勤務時間で除した数)	
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	4人	人		
常勤の研修医・レジデントの数	人	人		
非常勤医師	1.5人	人		
【医師の当直体制】	産科	新生児科(NICU)		
平日の夜間	2人	1人		
土曜日の昼間	2人	1人		
土曜日の夜間	2人	1人		
日曜日の昼間	2人	1人		
日曜日の夜間	2人	1人		

地域周産期母子医療センター(各病院ごとに作成すること)

団体名(開設者)	病 院 名	所 在 地
学校法人 東京女子医科大学 理事長 吉岡博光	東京女子医科大学東医療センター	東京都荒川区西尾久2-1-10

1. 病院の現況 (平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)

病床数	486床(うち一般病床 486床)	※一般病床とは、精神病床、感染症病床、結核病床を除いた病床を指します。			
標榜診療科名	<input checked="" type="checkbox"/> 内科 <input checked="" type="checkbox"/> 呼吸器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 循環器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 消化器内科 <input type="checkbox"/> 腎臓内科 <input checked="" type="checkbox"/> 神経内科 <input type="checkbox"/> 糖尿病内科 <input type="checkbox"/> 血液内科 <input checked="" type="checkbox"/> 皮膚科 <input type="checkbox"/> アレルギー科 <input checked="" type="checkbox"/> リウマチ科 <input type="checkbox"/> 感染症内科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児科 <input checked="" type="checkbox"/> 外科 <input checked="" type="checkbox"/> 心臓血管外科 <input checked="" type="checkbox"/> 脳神経外科 <input checked="" type="checkbox"/> 整形外科 <input type="checkbox"/> 小児外科 <input checked="" type="checkbox"/> 産婦人科 <input checked="" type="checkbox"/> 放射線科 <input checked="" type="checkbox"/> 麻酔科 <input type="checkbox"/> 病理診断科 <input type="checkbox"/> 臨床検査科 <input type="checkbox"/> 救急科 <input type="checkbox"/> その他( )				
救急救命センターの指定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 指定されている <input type="checkbox"/> 指定されていない				
ドクターヘリ保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り( )台 <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
ドクターカー保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り( )台 うち新生児専用車両( )台 <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
【周産期医療に係る病床数等】	①MFICU (診療報酬非加算)	②一般産科病床	③NICU (診療報酬加算対象)	④NICU (診療報酬非加算)	⑤NICUに併設された新生児の回復期治療室(いわゆるGCU)
病床数(床)	0 床	59 床	6 床	0 床	12 床

2. 地域周産期母子医療センターの運用状況 (平成19年度実績)

【産科部門】	該当部分に○
1 ハイリスク妊娠に対応している(ハイリスク妊娠管理加算の対象)	○
2 ハイリスク妊娠管理加算の対象ではないが、ハイリスク妊娠に対応	
3 産科診療を行っているが、正常分娩が中心であり、ハイリスク妊娠は原則として対応していない	
4 現在、産科診療(分娩)の取扱いを休止中(下記項目について記載のこと)	
・いつから休止しているか:	
・休止の理由:	
・分娩取扱い再開の見込み:	
5 地域周産期センター認定時から産科を標榜していない	
【新生児部門】	該当部分に○
1 ハイリスク新生児に対応している(新生児特定集中治療室管理加算の対象)	○
2 新生児特定集中治療室管理加算の対象とはならないが、新生児科専任医師が勤務しており、ハイリスク新生児への対応を行っている	
3 新生児科専任医師は勤務していないが、常勤の小児科医又は産科医が新生児医療を担当	
4 現在、新生児医療の取扱いを休止中(下記項目について記載のこと)	
・いつから休止しているか:	
・休止の理由:	
・新生児医療再開の見込み:	
5 地域周産期センター認定時から新生児医療を取り扱っていない	



3. 救急搬送について (平成19年度実績)					
		新生児	母体		
搬送受入の要請のあった件数(件)		49 件	113 件		
搬送を受入れた件数(件)		33 件	19 件		
※「新生児」には母体搬送後の出産児は含まない		( 2 件)	( 0 件)	( )内は県外からの搬送数(再掲)	
		( 0 件)	( 0 件)	( )内はドクターカーによる搬送数(再掲)	
		[ 0 件]	[ 0 件]	[ ]内はドクターヘリによる搬送数(再掲)	
搬送元内訳	①:総合同産期母子医療センター	0 件	1 件		
	②:地域周産期母子医療センター	1 件	1 件		
	③:①、②以外の病院	8 件	17 件		
	診療所	22 件			
	助産所	件			
	その他/不明	2 件			
搬送受入ができなかった件数(件)		16 件	94 件		
理由					(「④その他」の詳細)
①NICUが満床であったため。		10 件	64 件	* 心疾患合併・外科疾患合併が強く疑われたため (当院では心疾患・外科疾患には対応できない)	
②MFIGU産科が満床であったため。		件	24 件	* 当院で重症児がこれから生まれそうのため	
③診療可能な医師がいなかったため。		0 件	件	* 現にNICU内で重症児がいるため、これ以上の重症児の診察は危険と判断したため	
④その他		6 件	8 件	* ③に近いが、産科医が緊急手術や他の搬送その他の救急に対応中のため	

4. 地域周産期医療センターの医師の勤務状況 (平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)				
※該当者なしの場合は、空欄とせず、0人と記入してください。				
【産科部門の医師数】	①周産期センター(産科)の専任医師	② ①以外で日中、産科診療(分娩)に従事する産科・産婦人科医師	③ 日勤帯は分娩に従事しないが、当直や緊急時に分娩に関与する医師	※③については、例えば、日勤帯は婦人科診療や不妊治療に専従しているが、当直等では分娩にも従事する産婦人科医が該当します。
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	1 人	7 人	2 人	
常勤の研修医・レジデントの数	1 人	1 人	0 人	
非常勤医師	0 人	0 人	0 人	
【新生児部門の医師数】	新生児科の専任医師	新生児科の専任ではないが、NICUでの診療にも従事する小児科医	※常勤・非常勤については、正規雇用か否かといった雇用形態を問わず、病院で定められた医師の勤務時間(1週間に概ね32時間以上)を満たして就業する者を「常勤」という。 ※非常勤医師については、常勤換算とする。(職務に従事した非常勤医師の1週間の勤務時間合計を当該施設の通常の1週間の勤務時間で除した数)	
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	3 人	0 人		
常勤の研修医・レジデントの数	3 人	0 人		
非常勤医師	0 人	0 人		
【医師の当直体制】	産科	新生児科(NICU)		
平日の夜間	(*) 2 人	1 人	(*) 月の内、2名当直が出来るのは2/3。 1/3は1名当直で宅直医師がカバーしています。	
土曜日の昼間	(*) 2 人	1 人		
土曜日の夜間	(*) 2 人	1 人		
日曜日の昼間	原則 2 人	1 人		
日曜日の夜間	原則 2 人	1 人		

地域周産期母子医療センター(各病院ごとに作成すること)

団体名(開設者)	病 院 名	所 在 地
日本赤十字社	葛飾赤十字産院	東京都 葛飾区 立石 5-11-12

1. 病院の現況(平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)

病床数	113 床(うち一般病床 113 床)	※一般病床とは、精神病床、感染症病床、結核病床を除いた病床を指します。			
標榜診療科名	<input type="checkbox"/> 内科 <input type="checkbox"/> 呼吸器内科 <input type="checkbox"/> 循環器内科 <input type="checkbox"/> 消化器内科 <input type="checkbox"/> 腎臓内科 <input type="checkbox"/> 神経内科 <input type="checkbox"/> 糖尿病内科 <input type="checkbox"/> 血液内科 <input type="checkbox"/> 皮膚科 <input type="checkbox"/> アレルギー科 <input type="checkbox"/> リウマチ科 <input type="checkbox"/> 感染症内科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児科 <input type="checkbox"/> 外科 <input type="checkbox"/> 心臓血管外科 <input type="checkbox"/> 脳神経外科 <input type="checkbox"/> 整形外科 <input type="checkbox"/> 小児外科 <input checked="" type="checkbox"/> 産婦人科 <input type="checkbox"/> 放射線科 <input type="checkbox"/> 麻酔科 <input type="checkbox"/> 病理診断科 <input type="checkbox"/> 臨床検査科 <input type="checkbox"/> 救急科 <input type="checkbox"/> その他( )				
救急救命センターの指定状況	<input type="checkbox"/> 指定されている <input checked="" type="checkbox"/> 指定されていない				
ドクターヘリ保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り( 台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
ドクターカー保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り( 台)うち新生児専用車両( 台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
【周産期医療に係る病床数等】	①MFICU (診療報酬非加算)	②一般産科病床	③NICU (診療報酬加算対象)	④NICU (診療報酬非加算)	⑤NICUに併設された新生児の回復期治療室(いわゆるGCU)
病床数(床)	0床	65床	9	床	39床

2. 地域周産期母子医療センターの運用状況(平成19年度実績)

【産科部門】	該当部分に○
1 ハイリスク妊娠に対応している(ハイリスク妊娠管理加算の対象)	○
2 ハイリスク妊娠管理加算の対象ではないが、ハイリスク妊娠に対応	
3 産科診療を行っているが、正常分娩が中心であり、ハイリスク妊娠は原則として対応していない	
4 現在、産科診療(分娩)の取扱いを休止中(下記項目について記載のこと)	
-いつから休止しているか:	
-休止の理由:	
-分娩取扱い再開の見込み:	
5 地域周産期センター認定時から産科を標榜していない	
【新生児部門】	該当部分に○
1 ハイリスク新生児に対応している(新生児特定集中治療室管理加算の対象)	○
2 新生児特定集中治療室管理加算の対象とはならないが、新生児科専任医師が勤務しており、ハイリスク新生児への対応を行っている	
3 新生児科専任医師は勤務していないが、常勤の小児科医又は産科医が新生児医療を担当	
4 現在、新生児医療の取扱いを休止中(下記項目について記載のこと)	
-いつから休止しているか:	
-休止の理由:	
-新生児医療再開の見込み:	
5 地域周産期センター認定時から新生児医療を取り扱っていない	

3. 救急搬送について（平成19年度実績）			
	新生児	母体	
搬送受入の要請のあった件数(件)	85	100件	
搬送を受入れた件数(件)	82	100件	
※「新生児」には母体搬送後の出産児は含まない	30件	18件	( )内は県外からの搬送数(再掲)
	( )件	( )件	( )内はドクターカーによる搬送数(再掲)
	[ 0件]	[ 0件]	[ ]内はドクターヘリによる搬送数(再掲)
搬送元内訳	①:総合周産期母子医療センター	5件	1件
	②:地域周産期母子医療センター	5件	2件
	③:①、②以外の病院	68件	53件
	診療所	0件	件
	助産所	0件	0件
	その他/不明	(自宅) 4件	(自宅) 44件
搬送受入ができなかった件数(件)	3件	0件	
理由			(「④その他」の詳細)
①NICUが満床であったため。	3件	0件	
②MFICUが満床であったため。	0件	0件	
③診療可能な医師がいなかったため。	0件	0件	
④その他	0件	0件	

4. 地域周産期医療センターの医師の勤務状況（平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付）				
※該当者なしの場合は、空欄とせず、0人と記入してください。				
【産科部門の医師数】	①周産期センター(産科)の専任医師	② ①以外で日中、産科診療(分娩)に従事する産科・産婦人科医師	③ 日勤帯は分娩に従事しないが、当直や緊急時に分娩に関与する医師	※③については、例えば、日勤帯は婦人科診療や不妊治療に専従しているが、当直等では分娩にも従事する産婦人科医師が該当します。
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	5人	0人	0人	
常勤の研修医・レジデントの数	2人	0人	0人	
非常勤医師	1.36人	0人	0人	
【新生児部門の医師数】	新生児科の専任医師	新生児科の専任ではないが、NICUでの診療にも従事する小児科医	※常勤・非常勤については、正規雇用か否かといった雇用形態を問わず、病院で定められた医師の勤務時間(1週間につき概ね32時間以上)を満たして就業する者を「常勤」という。 ※非常勤医師については、常勤換算とする。(職務に従事した非常勤医師の1週間の勤務時間合計を当該施設の通常の1週間の勤務時間で除した数)	
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	5人	0人		
常勤の研修医・レジデントの数	0人	0人		
非常勤医師	0.1人	0人		
【医師の当直体制】	産科	新生児科(NICU)		
平日の夜間	2人	1人		
土曜日の昼間	2人	1人		
土曜日の夜間	2人	1人		
日曜日の昼間	2人	1人		
日曜日の夜間	2人	1人		

地域周産期母子医療センター(各病院ごとに作成すること)

団体名(開設者)	病 院 名	所 在 地
東京都	東京都立大塚病院	東京都豊島区南大塚2-8-1

1. 病院の現況 (平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)

病床数	500床(うち一般病床500床)	※一般病床とは、精神病床、感染症病床、結核病床を除いた病床を指します。			
標榜診療科名	<input type="checkbox"/> 内科 <input type="checkbox"/> 呼吸器内科 <input type="checkbox"/> 循環器内科 <input type="checkbox"/> 消化器内科 <input type="checkbox"/> 腎臓内科 <input type="checkbox"/> 神経内科 <input type="checkbox"/> 糖尿病内科 <input type="checkbox"/> 血液内科 <input checked="" type="checkbox"/> 皮膚科 <input type="checkbox"/> アレルギー科 <input checked="" type="checkbox"/> リウマチ科 <input type="checkbox"/> 感染症内科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児科 <input checked="" type="checkbox"/> 外科 <input type="checkbox"/> 心臓血管外科 <input checked="" type="checkbox"/> 脳神経外科 <input checked="" type="checkbox"/> 整形外科 <input type="checkbox"/> 小児外科 <input checked="" type="checkbox"/> 産婦人科 <input checked="" type="checkbox"/> 放射線科 <input checked="" type="checkbox"/> 麻酔科 <input type="checkbox"/> 病理診断科 <input type="checkbox"/> 臨床検査科 <input type="checkbox"/> 救急科 <input type="checkbox"/> その他(神経科、リハビリ科、形成外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、口腔科)				
救急救命センターの指定状況	<input type="checkbox"/> 指定されている <input checked="" type="checkbox"/> 指定されていない				
ドクターヘリ保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り( 台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
ドクターカー保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り( 台)うち新生児専用車両( 台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
【周産期医療に係る病床数等】	①MFICU (診療報酬非加算)	②一般産科病床	③NICU (診療報酬加算対象)	④NICU (診療報酬非加算)	⑤NICUに併設された新生児の回復期治療室(いわゆるGCU)
病床数(床)	0床	40床	12床	0床	28床

2. 地域周産期母子医療センターの運用状況 (平成19年度実績)

【産科部門】	該当部分に○
1 ハイリスク妊娠に対応している(ハイリスク妊娠管理加算の対象)	○
2 ハイリスク妊娠管理加算の対象ではないが、ハイリスク妊娠に対応	
3 産科診療を行っているが、正常分娩が中心であり、ハイリスク妊娠は原則として対応していない	
4 現在、産科診療(分娩)の取扱いを休止中(下記項目について記載のこと)	
-いつから休止しているか:	
-休止の理由:	
-分娩取扱い再開の見込み:	
5 地域周産期センター認定時から産科を標榜していない	
【新生児部門】	該当部分に○
1 ハイリスク新生児に対応している(新生児特定集中治療室管理加算の対象)	○
2 新生児特定集中治療室管理加算加算の対象とはならないが、新生児科専任医師が勤務しており、ハイリスク新生児への対応を行っている	
3 新生児科専任医師は勤務していないが、常勤の小児科医又は産科医が新生児医療を担当	
4 現在、新生児医療の取扱いを休止中(下記項目について記載のこと)	
-いつから休止しているか:	
-休止の理由:	
-新生児医療再開の見込み:	
5 地域周産期センター認定時から新生児医療を取り扱っていない	

3. 救急搬送について（平成19年度実績）			
		新生児	母体
搬送受入の要請のあった件数(件)		118件	337件
搬送を受入れた件数(件)		78件	199件
※「新生児」には母体搬送後の出産児は含まない		( ) 件	( ) 件
		< > 件	< > 件
		[ ] 件	[ ] 件
搬送元内訳	①:総合周産期母子医療センター	12件	6件
	②:地域周産期母子医療センター	2件	15件
	③:①、②以外の病院	64件	167件
	診療所	0件	0件
	助産所	0件	0件
	その他/不明	0件	11件
搬送受入ができなかった件数(件)		40件	138件
理由		〔④その他〕の詳細)	
①NICUが満床であったため。		件	件
②MFICUが満床であったため。		件	件
③診療可能な医師がいなかったため。		件	件
④その他		件	件

4. 地域周産期医療センターの医師の勤務状況（平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付）				
※該当者なしの場合は、空欄とせず、0人と記入してください。				
【産科部門の医師数】	①周産期センター(産科)の専任医師	② ①以外で日中、産科診療(分娩)に従事する産科・産婦人科医師	③ 日勤帯は分娩に従事しないが、当直や緊急時に分娩に関与する医師	※③については、例えば、日勤帯は婦人科診療や不妊治療に専従しているが、当直等では分娩にも従事する産婦人科医が該当します。
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	3人	0人	0人	0人
常勤の研修医・レジデントの数	1人	1人	0人	0人
非常勤医師	1.7人	0人	0人	1.4人
【新生児部門の医師数】	新生児科の専任医師	新生児科の専任ではないが、NICUでの診療にも従事する小児科医	※常勤・非常勤については、正規雇用か否かといった雇用形態を問わず、病院で定められた医師の勤務時間(1週間につき概ね32時間以上)を満たして就業する者を「常勤」という。 ※非常勤医師については、常勤換算とする。(職務に従事した非常勤医師の1週間の勤務時間合計を当該施設の通常の1週間の勤務時間で除した数)	
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	6人	0人		
常勤の研修医・レジデントの数	1人	0人		
非常勤医師	0.1人	0人		
【医師の当直体制】	産科	新生児科(NICU)		
平日の夜間	2人	1人		
土曜日の昼間	2人	1人		
土曜日の夜間	2人	1人		
日曜日の昼間	2人	1人		
日曜日の夜間	2人	1人		

## 地域周産期母子医療センター(各病院ごとに作成すること)

団体名(開設者)	病 院 名	所 在 地
東京都知事 石原 慎太郎	東京都立豊島病院	東京都板橋区栄町33-1

## 1. 病院の現況(平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)

病床数	348 床(うち一般病床 298 床)	※一般病床とは、精神病床、感染症病床、結核病床を除いた病床を指します。			
標榜診療科名	<input checked="" type="checkbox"/> 内科 <input type="checkbox"/> 呼吸器内科 <input type="checkbox"/> 循環器内科 <input type="checkbox"/> 消化器内科 <input type="checkbox"/> 腎臓内科 <input type="checkbox"/> 神経内科 <input type="checkbox"/> 糖尿病内科 <input type="checkbox"/> 血液内科 <input checked="" type="checkbox"/> 皮膚科 <input type="checkbox"/> アレルギー科 <input type="checkbox"/> リウマチ科 <input type="checkbox"/> 感染症内科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児科 <input checked="" type="checkbox"/> 外科 <input type="checkbox"/> 心臓血管外科 <input checked="" type="checkbox"/> 脳神経外科 <input checked="" type="checkbox"/> 整形外科 <input type="checkbox"/> 小児外科 <input checked="" type="checkbox"/> 産婦人科 <input checked="" type="checkbox"/> 放射線科 <input checked="" type="checkbox"/> 麻酔科 <input type="checkbox"/> 病理診断科 <input type="checkbox"/> 臨床検査科 <input type="checkbox"/> 救急科 <input checked="" type="checkbox"/> その他(泌尿器科・眼科・歯科・口腔外科・耳鼻咽喉科・精神科)				
救急救命センターの指定状況	<input type="checkbox"/> 指定されている <input checked="" type="checkbox"/> 指定されていない				
ドクターヘリ保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り( 台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
ドクターカー保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り( 台)うち新生児専用車両( 台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
【周産期医療に係る病床数等】	①MFCU (診療報酬非加算)	②一般産科病床	③NICU (診療報酬加算対象)	④NICU (診療報酬非加算)	⑤NICUに併設された新生児の回復期治療室(いわゆるGCU)
病床数(床)	— 床	10 床	— 床	— 床	— 床

## 2. 地域周産期母子医療センターの運用状況(平成19年度実績)

【産科部門】	該当部分に○
1 ハイリスク妊娠に対応している(ハイリスク妊娠管理加算の対象)	
2 ハイリスク妊娠管理加算の対象ではないが、ハイリスク妊娠に対応	
3 産科診療を行っているが、正常分娩が中心であり、ハイリスク妊娠は原則として対応していない	
4 現在、産科診療(分娩)の取扱いを休止中(下記項目について記載のこと)	○
・いつから休止しているか:平成18年9月	
・休止の理由:医師確保困難	
・分娩取扱い再開の見込み:平成20年10月よりリスクの高い妊婦を対象に再開	
5 地域周産期センター認定時から産科を標榜していない	
【新生児部門】	該当部分に○
1 ハイリスク新生児に対応している(新生児特定集中治療室管理加算の対象)	
2 新生児特定集中治療室管理加算加算の対象とはならないが、新生児科専任医師が勤務しており、ハイリスク新生児への対応を行っている	
3 新生児科専任医師は勤務していないが、常勤の小児科医又は産科医が新生児医療を担当	
4 現在、新生児医療の取扱いを休止中(下記項目について記載のこと)	○
・いつから休止しているか:平成19年10月	
・休止の理由:医師確保困難	
・新生児医療再開の見込み:未定	
5 地域周産期センター認定時から新生児医療を取り扱っていない	

3. 救急搬送について (平成19年度実績)			
	新生児	母体	
搬送受入の要請のあった件数(件)	51 件	件	
搬送を受入れた件数(件)	34 件	件	
※「新生児」には母体搬送後の出産児は含まない	( 件)	( 件)	( )内は県外からの搬送数(再掲)
	< 件)	< 件)	< )内はドクターカーによる搬送数(再掲)
	[ 件]	[ 件]	[ ]内はドクターヘリによる搬送数(再掲)
搬送元内訳	①:総合周産期母子医療センター	2 件	件
	②:地域周産期母子医療センター	2 件	件
	③:①、②以外の病院	件	件
	診療所	} 29 件	件
	助産所		件
	その他/不明	1 件	件
搬送受入ができなかった件数(件)	17 件	件	
理由			(「④その他」の詳細)
①NICUが満床であったため。	件	件	
②MFICUが満床であったため。	件	件	
③診療可能な医師がいなかったため。	件	件	
④その他	件	件	

4. 地域周産期医療センターの医師の勤務状況 (平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)				
※該当者なしの場合は、空欄とせず、0人と記入してください。				
【産科部門の医師数】	①周産期センター(産科)の専任医師	② ①以外で日中、産科診療(分娩)に従事する産科・産婦人科医師	③ 日勤帯は分娩に従事しないが、当直や緊急時に分娩に関与する医師	※③については、例えば、日勤帯は婦人科診療や不妊治療に専従しているが、当直等では分娩にも従事する産婦人科医が該当します。
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	0人	4人	0人	
常勤の研修医・レジデントの数	0人	0人	0人	
非常勤医師	0人	0.8人	0人	
【新生児部門の医師数】	新生児科の専任医師	新生児科の専任ではないが、NICUでの診療にも従事する小児科医	※常勤・非常勤については、正規雇用か否かといった雇用形態を問わず、病院で定められた医師の勤務時間(1週間につき概ね32時間以上)を満たして就業する者を「常勤」という。 ※非常勤医師については、常勤換算とする。(職務に従事した非常勤医師の1週間の勤務時間合計を当該施設の通常の1週間の勤務時間で除した数)	
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	2人	0人		
常勤の研修医・レジデントの数	0人	0人		
非常勤医師	当直のみの応援要員として6名程度の医師を確保し、月9~10日(平日)を担当	0人		
【医師の当直体制】	産科	新生児科	※NICUは休止中であるが、分娩再開による新生児の対応を行っている医師数を記載している。	
平日の夜間	1人	1人		
土曜日の昼間	1人			
土曜日の夜間	1人	常時1名の医師が緊急時に連絡を受けて登院することが可能な体制を確保している。(=オンコール体制)		
日曜日の昼間	1人			
日曜日の夜間	1人			

地域周産期母子医療センター(各病院ごとに作成すること)

団体名(開設者)	病 院 名	所 在 地
日本赤十字社	武蔵野赤十字病院	東京都武蔵野市境南町 1-26-1

1. 病院の現況(平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)

病床数	611床(うち一般病床 591床)	※一般病床とは、精神病床、感染症病床、結核病床を除いた病床を指します。			
標榜診療科名	<input checked="" type="checkbox"/> 内科 <input checked="" type="checkbox"/> 呼吸器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 循環器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 消化器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 腎臓内科 <input type="checkbox"/> 視覚神経内科 <input type="checkbox"/> 糖尿病内科 <input type="checkbox"/> 血液内科 <input checked="" type="checkbox"/> 皮膚科 <input type="checkbox"/> アレルギー科 <input type="checkbox"/> リウマチ科 <input type="checkbox"/> 感染症内科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児科 <input checked="" type="checkbox"/> 外科 <input checked="" type="checkbox"/> 心臓血管外科 <input checked="" type="checkbox"/> 脳神経外科 <input checked="" type="checkbox"/> 整形外科 <input type="checkbox"/> 小児外科 <input checked="" type="checkbox"/> 産婦人科 <input checked="" type="checkbox"/> 放射線科 <input checked="" type="checkbox"/> 麻酔科 <input type="checkbox"/> 病理診断科 <input type="checkbox"/> 臨床検査科 <input type="checkbox"/> 救急科 <input type="checkbox"/> その他( )				
救急救命センターの指定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 指定されている <input type="checkbox"/> 指定されていない				
ドクターヘリ保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り( )台 <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
ドクターカー保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り( )台 うち新生児専用車両( )台 <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
【周産期医療に係る病床数等】	①MFCU (診療報酬非加算)	②一般産科病床	③NICU (診療報酬加算対象)	④NICU (診療報酬非加算)	⑤NICUに併設された新生児の回復期治療室(いわゆるGCU)
病床数(床)	床	46床	6床	床	14床

2. 地域周産期母子医療センターの運用状況(平成19年度実績)

【産科部門】	該当部分に○
1 ハイリスク妊娠に対応している(ハイリスク妊娠管理加算の対象)	○
2 ハイリスク妊娠管理加算の対象ではないが、ハイリスク妊娠に対応	
3 産科診療を行っているが、正常分娩が中心であり、ハイリスク妊娠は原則として対応していない	
4 現在、産科診療(分娩)の取扱いを休止中(下記項目について記載のこと)	
・いつから休止しているか:	
・休止の理由:	
・分娩取扱い再開の見込み:	
5 地域周産期センター認定時から産科を標榜していない	
【新生児部門】	該当部分に○
1 ハイリスク新生児に対応している(新生児特定集中治療室管理加算の対象)	○
2 新生児特定集中治療室管理加算の対象とはならないが、新生児科専任医師が勤務しており、ハイリスク新生児への対応を行っている	
3 新生児科専任医師は勤務していないが、常勤の小児科医又は産科医が新生児医療を担当	
4 現在、新生児医療の取扱いを休止中(下記項目について記載のこと)	
・いつから休止しているか:	
・休止の理由:	
・新生児医療再開の見込み:	
5 地域周産期センター認定時から新生児医療を取り扱っていない	



3. 救急搬送について (平成19年度実績)				
		新生児	母体	
搬送受入の要請のあった件数(件)		50件	107件	
搬送を受入れた件数(件)		36件	45件	
※「新生児」には母体搬送後の出産児は含まない		( ) 件	( ) 件	( )内は県外からの搬送数(再掲)
		< > 件	< > 件	< >内はドクターカーによる搬送数(再掲)
		[ ] 件	[ ] 件	[ ]内はドクターヘリによる搬送数(再掲)
搬送元内訳	①:総合周産期母子医療センター	件	3件	
	②:地域周産期母子医療センター	件	2件	
	③:①、②以外の病院	35件	36件	
	診療所	件	件	
	助産所	件	件	
	その他/不明	1件	4件	
搬送受入ができなかった件数(件)		14件	62件	
理由		〔④その他〕の詳細) 手術室の使用不可 (他科緊急手術など)		
①NICUが満床であったため。		14件	39件	
②MFCUが満床であったため。		件	件	
③診療可能な医師がいなかったため。		件	3件	
④その他		件	20件	

4. 地域周産期医療センターの医師の勤務状況 (平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)				
※該当者なしの場合は、空欄とせず、0人と記入してください。				
【産科部門の医師数】	①周産期センター(産科)の専任医師	② ①以外で日中、産科診療(分娩)に従事する産科・産婦人科医師	③ 日勤帯は分娩に従事しないが、当直や緊急時に分娩に関与する医師	※③については、例えば、日勤帯は婦人科診療や不妊治療に専従しているが、当直等では分娩にも従事する産婦人科医が該当します。
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	12人	0人	0人	
常勤の研修医・レジデントの数	0人	0人	0人	
非常勤医師	0人	0人	0人	
【新生児部門の医師数】	新生児科の専任医師	新生児科の専任ではないが、NICUでの診療にも従事する小児科医	※常勤・非常勤については、正規雇用か否かといった雇用形態を問わず、病院で定められた医師の勤務時間(1週間につき概ね32時間以上)を満たして就業する者を「常勤」という。 ※非常勤医師については、常勤換算とする。(職務に従事した非常勤医師の1週間の勤務時間合計を当該施設の通常の1週間の勤務時間で除した数)	
常勤医師数(研修医・レジデントを除く)	4人	0人		
常勤の研修医・レジデントの数	0人	0人		
非常勤医師	0人	0人		
【医師の当直体制】	産科	新生児科(NICU)		
平日の夜間	1人	1人		
土曜日の昼間	1人	1人		
土曜日の夜間	1人	1人		
日曜日の昼間	1人	1人		
日曜日の夜間	1人	1人		

地域周産期母子医療センター(各病院ごとに作成すること)

団体名(開設者)	病 院 名	所 在 地
東京都	東京都立清瀬小児病院	東京都清瀬市梅園一丁目3番1号

1. 病院の現況(平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)

病床数	255 床(うち一般病床 217 床) ※一般病床とは、精神病床、感染症病床、結核病床を除いた病床を指します。				
標榜診療科名	<input checked="" type="checkbox"/> 内科 <input checked="" type="checkbox"/> 呼吸器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 循環器内科 <input type="checkbox"/> 消化器内科 <input type="checkbox"/> 腎臓内科 <input checked="" type="checkbox"/> 神経内科 <input type="checkbox"/> 糖尿病内科 <input checked="" type="checkbox"/> 血液内科 <input checked="" type="checkbox"/> 皮膚科 <input type="checkbox"/> アレルギー科 <input type="checkbox"/> リウマチ科 <input type="checkbox"/> 感染症内科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児科 <input checked="" type="checkbox"/> 外科 <input checked="" type="checkbox"/> 心臓血管外科 <input type="checkbox"/> 脳神経外科 <input checked="" type="checkbox"/> 整形外科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児外科 <input type="checkbox"/> 産婦人科 <input checked="" type="checkbox"/> 放射線科 <input checked="" type="checkbox"/> 麻酔科 <input type="checkbox"/> 病理診断科 <input type="checkbox"/> 臨床検査科 <input type="checkbox"/> 救急科 <input type="checkbox"/> その他(耳鼻咽喉科、眼科、呼吸器外科、形成外科、心臓血管外科、泌尿器科、菌科、矯正歯科、心療内科、)				
救急救命センターの指定状況	<input type="checkbox"/> 指定されている <input checked="" type="checkbox"/> 指定されていない				
ドクターヘリ保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り(      台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
ドクターカー保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り(      台)うち新生児専用車両(      台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
【周産期医療に係る病床数等】	①MFCU (診療報酬非加算)	②一般産科病床	③NICU (診療報酬加算対象)	④NICU (診療報酬非加算)	⑤NICUに併設された新生児の回復期治療室(いわゆるGCU)
病床数(床)	床	床	6床	床	18床

2. 地域周産期母子医療センターの運用状況(平成19年度実績)

【産科部門】	該当部分に○
1 ハイリスク妊娠に対応している(ハイリスク妊娠管理加算の対象)	
2 ハイリスク妊娠管理加算の対象ではないが、ハイリスク妊娠に対応	
3 産科診療を行っているが、正常分娩が中心であり、ハイリスク妊娠は原則として対応していない	
4 現在、産科診療(分娩)の取扱いを休止中(下記項目について記載のこと)	
・いつから休止しているか:	
・休止の理由:	
・分娩取扱い再開の見込み:	
5 地域周産期センター認定時から産科を標榜していない	○
【新生児部門】	該当部分に○
1 ハイリスク新生児に対応している(新生児特定集中治療室管理加算の対象)	○
2 新生児特定集中治療室管理加算加算の対象とはならないが、新生児科専任医師が勤務しており、ハイリスク新生児への対応を行っている	
3 新生児科専任医師は勤務していないが、常勤の小児科医又は産科医が新生児医療を担当	
4 現在、新生児医療の取扱いを休止中(下記項目について記載のこと)	
・いつから休止しているか:	
・休止の理由:	
・新生児医療再開の見込み:	
5 地域周産期センター認定時から新生児医療を取り扱っていない	

3. 救急搬送について (平成19年度実績)

		新生児	母体	
搬送受入の要請のあった件数(件)		333件	件	
搬送を受入れた件数(件)		285件	件	
※「新生児」には母体搬送後の出産児は含まない		(106 件)	( 件)	( )内は県外からの搬送数(再掲)
		< 0 件)	< 件)	< )内はドクターカーによる搬送数(再掲)
		[ 0件]	[ 件]	[ ]内はドクターヘリによる搬送数(再掲)
搬送元内訳	①: 総合周産期母子医療センター	1件	件	
	②: 地域周産期母子医療センター	7件	件	
	③: ①、②以外の病院	277件	件	
	診療所	件	件	
	助産所	件	件	
	その他/不明	件	件	
搬送受入ができなかった件数(件)		46件	件	
理由				(「④その他」の詳細)
①NICUが満床であったため。		( 46 )件	件	
②MFICUが満床であったため。		( 0 )件	件	
③診療可能な医師がいなかったため。		( 0 )件	件	
④その他		( 0 )件	件	

4. 地域周産期医療センターの医師の勤務状況 (平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)

※該当者なしの場合は、空欄とせず、0人と記入してください。

【産科部門の医師数】	①周産期センター(産科)の専任医師	② ①以外で日中、産科診療(分娩)に従事する産科・産婦人科医師	③ 日勤帯は分娩に従事しないが、当直や緊急時に分娩に関与する医師	※③については、例えば、日勤帯は婦人科診療や不妊治療に専従しているが、当直等では分娩にも従事する産婦人科医が該当します。
常勤医師数 (研修医・レジデントを除く)	0人	0人	0人	
常勤の研修医・レジデントの数	0人	0人	0人	
非常勤医師	0人	0人	0人	
【新生児部門の医師数】	新生児科の専任医師	新生児科の専任ではないが、NICUでの診療にも従事する小児科医	※常勤・非常勤については、正規雇用か否かといった雇用形態を問わず、病院で定められた医師の勤務時間(1週間につき概ね32時間以上)を満たして就業する者を「常勤」という。 ※非常勤医師については、常勤換算とする。(職務に従事した非常勤医師の1週間の勤務時間合計を当該施設の通常の1週間の勤務時間で除した数)	
常勤医師数 (研修医・レジデントを除く)	5人	0人		
常勤の研修医・レジデントの数	1人	0人		
非常勤医師	0.2人	0人		
【医師の当直体制】	産科	新生児科(NICU)		
平日の夜間	0人	1人		
土曜日の昼間	0人	1人		
土曜日の夜間	0人	1人		
日曜日の昼間	0人	1人		
日曜日の夜間	0人	1人		

地域周産期母子医療センター(各病院ごとに作成すること)

団体名(開設者)	病 院 名	所 在 地
東京都	東京都立八王子小児病院	東京都八王子市台町4-33-13

1. 病院の現況(平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)

病床数	90床(うち一般病床90床)	※一般病床とは、精神病床、感染症病床、結核病床を除いた病床を指します。			
標榜診療科名	<input type="checkbox"/> 内科 <input type="checkbox"/> 呼吸器内科 <input type="checkbox"/> 循環器内科 <input type="checkbox"/> 消化器内科 <input type="checkbox"/> 腎臓内科 <input type="checkbox"/> 神経内科 <input type="checkbox"/> 糖尿病内科 <input type="checkbox"/> 血液内科 <input type="checkbox"/> 皮膚科 <input type="checkbox"/> アレルギー科 <input type="checkbox"/> リウマチ科 <input type="checkbox"/> 感染症内科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児科 <input type="checkbox"/> 外科 <input checked="" type="checkbox"/> 心臓血管外科 <input type="checkbox"/> 脳神経外科 <input type="checkbox"/> 整形外科 <input checked="" type="checkbox"/> 小児外科 <input type="checkbox"/> 産婦人科 <input type="checkbox"/> 放射線科 <input checked="" type="checkbox"/> 麻酔科 <input type="checkbox"/> 病理診断科 <input type="checkbox"/> 臨床検査科 <input type="checkbox"/> 救急科 <input checked="" type="checkbox"/> その他(形成外科)				
救命救急センターの指定状況	<input type="checkbox"/> 指定されている <input checked="" type="checkbox"/> 指定されていない				
ドクターヘリ保有の有無	<input type="checkbox"/> 有り( 台) <input checked="" type="checkbox"/> 無し				
ドクターカー保有の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有り( 1台)うち新生児専用車両( 1台) <input type="checkbox"/> 無し				
【周産期医療に係る病床数等】	①MFICU (診療報酬非加算)	②一般産科病床	③NICU (診療報酬加算対象)	④NICU (診療報酬非加算)	⑤NICUに併設された新生児の回復期治療室(いわゆるGCU)
病床数(床)	0床	0床	9床	0床	24床

2. 地域周産期母子医療センターの運用状況(平成19年度実績)

【産科部門】	該当部分に○
1 ハイリスク妊娠に対応している(ハイリスク妊娠管理加算の対象)	
2 ハイリスク妊娠管理加算の対象ではないが、ハイリスク妊娠に対応	
3 産科診療を行っているが、正常分娩が中心であり、ハイリスク妊娠は原則として対応していない	
4 現在、産科診療(分娩)の取扱いを休止中(下記項目について記載のこと)	
・いつから休止しているか:	
・休止の理由:	
・分娩取扱い再開の見込み:	
5 地域周産期センター認定時から産科を標榜していない	○
【新生児部門】	該当部分に○
1 ハイリスク新生児に対応している(新生児特定集中治療室管理加算の対象)	○
2 新生児特定集中治療室管理加算の対象とはならないが、新生児科専任医師が勤務しており、ハイリスク新生児への対応を行っている	
3 新生児科専任医師は勤務していないが、常勤の小児科医又は産科医が新生児医療を担当	
4 現在、新生児医療の取扱いを休止中(下記項目について記載のこと)	
・いつから休止しているか:	
・休止の理由:	
・新生児医療再開の見込み:	
5 地域周産期センター認定時から新生児医療を取り扱っていない	

3. 救急搬送について (平成19年度実績)				
	新生児	母体		
搬送受入の要請のあった件数(件)	465件	0件	注) 双胎児は1件としてカウントしている。	
搬送を受入れた件数(件)	287件	0件		
※「新生児」には母体搬送後の出産児は含まない	( 3件)	( 0件)	( )内は県外からの搬送数(再掲)	
	( 254件)	( 0件)	( )内はドクターカーによる搬送数(再掲)	
	[ 0件]	[ 0件]	[ ]内はドクターヘリによる搬送数(再掲)	
搬送元内訳	①: 総合周産期母子医療センター	4件	0件	
	②: 地域周産期母子医療センター	2件	0件	
	③: ①、②以外の病院	} 279件	0件	注) 病院、診療所、助産所の区分ごとには集計していない。
	診療所		0件	
	助産所		0件	
	その他/不明		2件	0件
搬送受入ができなかった件数(件)	178件	0件		
理由			(「④その他」の詳細)	
①NICUが満床であったため。	178件	0件	理由の全てを、一応①にしたが、ドクターカーで往診した結果、比較的軽症の児は地域の準NICU等を持つ病院に入院をお願いし、当院はハイリスク対応のために空けておく場合がある。この数は未集計である。	
②MFICUが満床であったため。	0件	0件		
③診療可能な医師がいなかったため。	0件	0件		
④その他	0件	0件		

4. 地域周産期医療センターの医師の勤務状況 (平成20年10月28日現在または把握可能な直近の日付)				
※該当者なしの場合は、空欄とせず、0人と記入してください。				
【産科部門の医師数】	①周産期センター(産科)の専任医師	② ①以外で日中、産科診療(分娩)に従事する産科・産婦人科医師	③ 日勤帯は分娩に従事しないが、当直や緊急時に分娩に関する医師	※③については、例えば、日勤帯は婦人科診療や不妊治療に専従しているが、当直等では分娩にも従事する産婦人科医が該当します。
常勤医師数 (研修医・レジデントを除く)	0人	0人	0人	
常勤の研修医・レジデントの数	0人	0人	0人	
非常勤医師	0人	0人	0人	
【新生児部門の医師数】	新生児科の専任医師	新生児科の専任ではないが、NICUでの診療にも従事する小児科医	※常勤・非常勤については、正規雇用か否かといった雇用形態を問わず、病院で定められた医師の勤務時間(1週間につき概ね32時間以上)を満たして就業する者を「常勤」という。 ※非常勤医師については、常勤換算とする。(職務に従事した非常勤医師の1週間の勤務時間合計を当該施設の通常の1週間の勤務時間で除した数)	
常勤医師数 (研修医・レジデントを除く)	8人	0人		
常勤の研修医・レジデントの数	1人	0人		
非常勤医師	0人	0人		
【医師の当直体制】	産科	新生児科(NICU)		
平日の夜間	0人	1人		
土曜日の昼間	0人	1人		
土曜日の夜間	0人	1人		
日曜日の昼間	0人	1人		
日曜日の夜間	0人	1人		

周産期母子医療センターにおける合併症妊婦の対応について

A. 脳血管障害合併症(疑いを含む)の妊婦への対応について

質問事項	総合周産期母子医療センター									地域周産期母子医療センター									
	愛育	女子医	昭和	東邦大森	日赤	帝京	日大板橋	杏林	都立墨東	聖路加	慈恵	東京医大	慶應	順天	賛育会	女子医東	葛飾日赤	都立大塚	武蔵野日赤
施設内で頭部CTの検査が可能である。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
施設内に24時間対応可能(オンコール含む)な脳神経外科医師または神経内科医師がいる。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○
施設内で脳外科手術が可能である。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○
施設内にICU等の集中治療病床がある。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○
施設内の調整がつけば、他施設からの脳血管障害合併の疑いのある妊婦の受入依頼を受けることができる。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○
自施設では脳血管障害合併の疑いのある妊婦の対応はしない/できない。	○														○		○		
近隣に脳血管障害合併の疑いのある妊婦に対応可能な医療機関が存在する。	○		○	○	○		○		○		○			○	○			○	○
緊急車両での搬送所要時間: 約 分	30~ 60		30	15	30		15		15		5~10			5	10			不明	15
当該医療機関と患者搬送等の連携について、文書等で取り決めてある。																			
特に文書等で定めていないが、当該医療機関と連携は確保できている。	○						○												○
近隣に対応可能な医療機関はない。												○					○		

B. 急性心疾患合併症(疑いを含む)の妊婦への対応について

質問事項	総合周産期母子医療センター									地域周産期母子医療センター									
	愛育	女子医	昭和	東邦大森	日赤	帝京	日大板橋	杏林	都立墨東	聖路加	慈恵	東京医大	慶應	順天	賛育会	女子医東	葛飾日赤	都立大塚	武蔵野日赤
施設内に24時間対応可能(オンコール含む)な循環器内科医師または心臓血管外科医師がいる。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○
施設内で心臓カテーテル検査・治療が可能である。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○
施設内で心臓血管外科手術が可能である。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○
施設内にICU等の集中治療病床がある。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○
施設内の調整がつけば、他施設からの心疾患合併の疑いのある妊婦の受入依頼を受けることができる。		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○			○
自施設では心疾患合併のある妊婦の対応はしない/できない。	○								○						○		○		
近隣に心疾患合併の疑いのある妊婦に対応可能な医療機関が存在する。	○		○	○	○		○		○		○			○	○			○	○
緊急車両での搬送所要時間: 約 分	30~ 60		30	15	30		15		15		5~10			5	10			不明	15
当該医療機関と患者搬送等の連携について、文書等で取り決めてある。																			
特に文書等で定めていないが、連携は確保できている。	○						○												○
近隣に対応可能な医療機関はない。												○					○		

C. 妊娠中の交通外傷など外傷患者への対応について

質問事項	総合周産期母子医療センター									地域周産期母子医療センター									
	愛育	女子医	昭和	東邦大森	日赤	帝京	日大板橋	杏林	都立墨東	聖路加	慈恵	東京医大	慶應	順天	賛育会	女子医東	葛飾日赤	都立大塚	武蔵野日赤
施設内に24時間対応可能(オンコール含む)な外傷を診ることのできる医師がいる。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○
施設内に救命救急医がいる。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○
施設内で外傷時に必要な検査や処置ができる。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○
施設内で緊急手術が可能である。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○
施設内にICU等の集中治療病床がある。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○
施設内の調整がつけば、他施設からの妊娠中の外傷患者の受入依頼を受けることができる。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○
自施設では妊娠中の外傷患者の対応はしない/できない。	○														○		○		
近隣に妊娠中の外傷患者に対応可能な医療機関が存在する。	○		○	○	○		○		○		○			○	○			○	○
緊急車両での搬送所要時間:約分	30~60		30	15	10		15		15		5~10			5	10			不明	15
当該医療機関と患者搬送等の連携について、文書等で取り決めてある。																			
特に文書等で定めていないが、連携は確保できている。	○						○												○
近隣に対応可能な医療機関はない。												○					○		



D. 妊娠中のDIC、敗血症など急性かつ重症患者への対応について

質問事項	総合周産期母子医療センター									地域周産期母子医療センター									
	愛育	女子医	昭和	東邦大森	日赤	帝京	日大板橋	杏林	都立墨東	聖路加	慈恵	東京医大	慶應	順天	賛育会	女子医東	葛飾日赤	都立大塚	武蔵野日赤
施設内に24時間対応可能(オンコール含む)な集中治療等の全身管理を行うことのできる医師がいる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○
施設内で必要な検査・処置・治療ができる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○
施設内にICU等の集中治療病床がある。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
施設内の調整がつけば、他施設からの妊娠中のDIC、敗血症など急性かつ重症患者の受入依頼を受けることができる。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
自施設では妊娠中のDIC、敗血症など急性かつ重症患者の対応はしない／できない。												○			○		○		○
近隣に妊娠中のDIC、敗血症など急性かつ重症患者に対応可能な医療機関が存在する。	○		○	○	○		○		○		○			○	○		○	○	○
緊急車両での搬送所要時間:約 分	30~60		30	15	10		15		15		5~10			5	10		40	不明	15
当該医療機関と患者搬送等の連携について、文書等で取り決めてある。																			
特に文書等で定めていないが、連携は確保できている。	○						○										○		○
近隣に対応可能な医療機関はない。												○							

E. 周産期救急情報システム／救急医療情報システムについて

質問事項	総合周産期母子医療センター									地域周産期母子医療センター										
	愛育	女子医	昭和	東邦大森	日赤	帝京	日大板橋	杏林	都立墨東	聖路加	慈恵	東京医大	慶應	順天	賛育会	女子医東	葛飾日赤	都立大塚	武蔵野日赤	
(1)重症の脳血管疾患、循環器疾患、外傷等を合併(疑いも含む)した妊婦の救急搬送の依頼を受けるとき、																				
周産期救急情報システムを経由する	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○					○	○
救急医療情報システムを経由する					○	○	○		○		○	○	○							○
どちらも経由せず、患者／施設／救急隊から直接連絡を受ける。						○		○		○	○							○		
その他	※1					※2			※3	※4							※5	※6		
(2)受入に当たっては																				
産科部門が受入れを判断	○									○										
当該部門が受入れを判断																				
両方で協議の上判断		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	

※1 上記の全身管理は行えないことを話し、他院へ搬送してもらう。

※2 依頼側の都合による。母体側の救命治療が優先される場合は、当院としては救急医療システム経由を希望する。

※3 妊娠週数により胎児の重要度が違うため、両方有り得る。

※4 周産期救急情報システムはタイムリーに情報更新されないことが多いため、病院や救急隊から直接連絡を受けることが多い。

※5 上記のいずれの依頼もあるが、個々に機能しているため、産科への連絡なく、救命救急センターに搬送されることがたまにあります。そのため、産科医が緊急手術中などの理由で対応できないことがあります。妊産褥婦の搬送にあたっては、救急医療情報システムと周産期救急情報システムとの密接な連携が必須である。

※6 当院は総合病院でないため、全く受け入れができません。

平成20年11月27日  
病院経営本部

## 墨東病院周産期センターにおける12月及び年末年始の当直体制について

墨東病院では、総合周産期母子医療センターの確実な体制を確保するため、12月及び年末年始については、以下の当直体制で対応しますので、お知らせします。

今後も、関係局、地元医師会、関係機関等と協議を続け、体制の充実に取り組んでいきます。

### 【12月及び年末年始の当直体制】

産科医師の当直について、平成20年12月1日(月曜日)から平成21年1月4日(日曜日)までのすべての日程につき(夜間、土曜日、日曜日、祝日を含む)、2人体制とします。

(問い合わせ先)

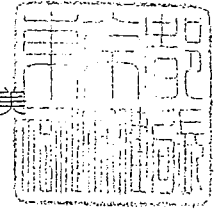
病院経営本部経営企画部総務課 谷田・戸田

直通 03-5320-5828・5805

内線 50-102・50-130

周産期母子医療センター  
設置医療機関管理者 殿

東京都福祉保健局長  
安藤立美



周産期母子医療センターにおける救急搬送患者の円滑な受入れについて

平素より東京都の周産期医療体制の充実に御尽力いただき深く感謝申し上げます。

総合周産期母子医療センター及び地域周産期母子医療センターは、「東京都周産期母子医療センター設置・運営要綱」（平成9年9月25日付9衛健母第823号）により地域の周産期医療機関あるいは消防機関からの患者の受入要請に連携して対応することとなっており、貴院におかれましても、妊産婦や新生児の受入れに日夜御努力いただいているところです。

先般、都内において脳出血の妊婦の緊急搬送に関して複数の医療機関で受入対応ができない事例が連続して発生しました。

これを受けて、東京都においては今月5日に東京都周産期医療協議会を緊急に開催して、課題や対応策の検討を進めており、地域内で患者を確実に受け入れる体制や地域間の支援体制、周産期医療と救急医療との連携、患者情報の正確な伝達等の課題に対して、早急に改善策に取り組んでいるところです。

なお、今回の一連の事案は、重篤な合併症を伴う母体の救命に当たっては、周産期母子医療センターによる産科及び新生児医療だけでなく、病院内の救急部門をはじめ、脳神経外科、麻酔科など複数の診療科が連携して対応する必要性を示したものです。

つきましては、貴院におかれましても、今一度、妊産婦の緊急搬送の受入体制について点検いただき、院内各部門の連携による患者の円滑な受入れについて、一層の御尽力をお願いいたします。

〔問い合わせ先〕

東京都福祉保健局救急災害医療課

電 話 03-5320-4378

FAX 03-5388-1441